

# 静岡県立大学

看護学部・研究科報

2022 年度

# 目次

I. はじめに	1
II. 看護学部 of 歴史	2
1. 歴史	2
III. 看護学部・大学院看護研究科 of 教員構成	4
1. 学部 of 教員構成	4
2. 研究科 of 教員構成	5
3. 年度途中退任 of 教員	6
4. 令和 4 年度全学委員会一覽	6
5. 学部委員会	7
6. 学部・研究科合同委員会	7
7. 研究科委員会	7
IV. 看護学部・看護学研究科 of 教育課程	8
1. 学部	8
1) 学部 of 理念	8
2) 教育目標	8
3) ディプロマ・ポリシー	8
4) カリキュラム・ポリシー	9
5) アドミッション・ポリシー	10
6) 学部カリキュラム	11
2. 研究科	20
1) 教育理念	20
2) 博士前期課程	20
3) 博士後期課程	21
4) 研究科カリキュラム	22
3. 臨地実習表	25
1) 基礎看護学実習 I	25
2) 看護アセスメント実習	26
3) 3 年次後期臨地実習配置表	27
4) 臨床シミュレーション EBN 実習	28
5) 公衆衛生看護基礎実習	30
6) 公衆衛生看護学実習 I	31
7) 公衆衛生看護学実習 II (行政・学校・産業)	32
8) 国際保健・看護実習	33
9) 大学院博士前期課程助産学課程 助産学関連実習	33

4. 学生の研究	35
1) 学部の指導体制と研究テーマ	35
2) 研究科の指導体制と研究テーマ	43
V. 学生生活	45
1. 学生定員および在学学生数	45
1) 学部	45
2) 研究科	46
2. 入学志願者数および入学者数とその背景	47
1) 学部	47
2. 入学志願者数および入学者数とその背景	48
2) 研究科	48
3. 卒業・修了者の進路状況	49
1) 学部	49
2) 研究科	50
4. 免許・資格などの取得状況	51
VI. 国際交流	52
1. 令和4年度国際交流等事業	52
2. 国際保健・看護実習	53
VII. 看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動	54
1. 領域別の教育活動と地域貢献活動	54
1) 専門基礎領域の活動	54
2) 環境看護学領域の活動	55
3) 基礎看護学領域の活動	57
4) 成人看護学領域の活動	59
5) 老年看護学領域の活動	62
6) 小児看護学領域の活動	64
7) 母性看護学・助産学領域の活動	67
8) 精神看護学領域の活動	75
9) 公衆衛生看護学領域の活動	76
10) 在宅看護学領域の活動	79
11) 国際看護学領域の活動	81
2. 各教員の研究・教育・地域貢献活動	84
1) 研究活動	84
2) 外部資金受け入れ	99
3) 令和4年度学部研究推進費等	105
4) 海外研修活動	109

5) その他特記事項	110
VIII.学部・研究科としての社会貢献	112
1. 国・地方自治体における活動	112
2. 学会・職能団体等の役員・評議会・委員会活動	115
3. 学会・シンポジウム等の主催	119
4. 雑誌編集関連委員	120
5. 雑誌の査読	121
6. 専門領域の特別講演、セミナー講師、パネラー等	123
7. 一般を対象とする講演（公開講座、公開実習）等	128
8. 一般向け教養書、新聞、雑誌への論評・解説	130
9. 新聞等メディアへの掲載・出演	130
10. その他活動	131
11. 静岡県立大学新型コロナウイルスワクチン職域接種従事者	135
12. 県民の日	135
13. 高大連携による講師派遣	135
14. 公開講座等の開催状況	137
IX.看護学部附置看護実践教育研究センターの活動について	138
1. 設置の趣旨	138
2. センターの設立概要	138
3. センターの設置時期	139
4. センターの運営	139
5. 特定行為研修	140
6. その他センターの運営事業	142

## I. はじめに

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けましたが、看護学部は、感染対策を徹底して、全ての授業を対面で行いました。臨地実習については、学内実習に切り換えた科目もありますが、多くの科目で臨地において実習をすることができました。今年度から、新しいカリキュラムでの教育が始まり、1年生前期には、新たな科目「身体と心のセクシュアリティ」が開始されました。学生の関心は高く、授業評価アンケートでも高い評価が得られました。教育の質保証の取り組みとして、学部質保証委員会を7回開催し、外部の専門家による研修及びコンサルティングを受けながら、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・マップの再検討、カリキュラム評価方法の検討、看護学部シラバス枠組みの修正に取り組みました。国際交流では、COIL 授業により、活発な交流を継続することができると共に、12月にベルギー使節団2名、3月にはコンケン大学看護学部から11名の視察を受け入れました。一方、看護実践教育研究センターでは、2年目となる特定行為研修を開講して、2名が修了しました。その他、リカレント教育として、新たに看護職を対象とした看護研究セミナーを開講し、また一般市民向けの健康講座等を実施いたしました。1年間、看護学部の運営にご尽力くださいました教員および事務職員の皆様に心から感謝申し上げます。

大学院看護学研究科において2022年度当初に取り上げた重点課題は、①完成年度をむかえる博士後期課程における教育課程の着実な運営、②指定規則の一部改正に伴う令和4年度からの助産学課程の新カリキュラムの実施、③内部質保証の改善に向けた取り組みの3項目でした。これらのすべては、本研究科委員会、各委員会の積極的な活動により順調に達成へと進んでいます。博士後期課程では、教育課程の着実な運営はもとより、第1期生である2名の学生が博士(看護学)の学位を取得し修了できました。また、助産学課程の新カリキュラムは順調に実施しています。さらに、内部質保証においては、専門家による外部者評価を受け、概ね高評価を得た一方で、その結果に基づきさらなる改善に取り組んでいます。これらの活動には、本研究科教員だけでなく、他部局の先生方、事務の皆様にも多大なご支援、ご協力をいただきました。ここに心より御礼申し上げます。

今後も、継続して課題達成に取り組み、大学・大学院教育の質の担保とさらなる充実を目指していきます。

最後に、学部・研究科報作成にあたりご協力いただいた教員の皆様に御礼申し上げます。

静岡県立大学 看護学部長 太田尚子  
大学院 看護学研究科長 山田紋子

## Ⅱ. 看護学部の歴史

### 1. 歴史

---

#### 主な出来事

昭和 62 年	4 月	静岡県立大学開学、初代学長に内菌耕二が就任する。(県立三大学・静岡薬科大学〔昭和 28 年開学〕、静岡女子大学〔昭和 42 年開学〕、静岡女子短期大学〔昭和 26 年開学〕を改組・統合し、総合大学とする)
平成 5 年	4 月	第 2 代学長に星猛が就任する。
平成 9 年	4 月	<b>看護学部看護学科が設置される。</b> 初代学部長に矢野正子が就任する。
	10 月	中森正純元教授が名誉教授になる。
	12 月	第 2 回静岡健康・長寿学術フォーラムが開催される。 (セッションⅢ長寿社会に向けての看護学の展望：看護学部が運営)
平成 11 年	4 月	第 3 代学長に廣部雅昭が就任する。
	11 月	中田健次郎元教授が名誉教授になる。
平成 13 年	4 月	<b>大学院看護学研究科(修士課程)が設置される。</b> 初代研究科長に矢野正子が就任する。 第 2 代学部長に佐藤登美が就任する。
平成 15 年	4 月	第 3 代学部長に木村正人が就任する。 第 2 代研究科長に佐藤登美が就任する。 矢野正子前研究科長が名誉教授になる。
	11 月	わかふじ大会(第 3 回全国障害者スポーツ大会)が静岡で開催される(第 58 回国民体育大会 NEW!! わかふじ国体と同時開催)。 学部 2, 4 年生全員がボランティア「わかふじアミィ」として、1 年間の研修を経て参加。
平成 17 年	4 月	第 4 代学長に西垣克が就任する。 第 4 代学部長に小寺栄子が就任する。 健康支援センターが設置される(初代センター長に永井洋子教授)。
平成 19 年	4 月	静岡県公立大学法人が設置・経営する大学となる。 初代理事長に鈴木雅近、学長に西垣克が就任する。 第 5 代学部長及び第 3 代研究科長に木村正人が就任する。
	10 月	第 4 代研究科長に式守晴子が就任する。 永井洋子元教授が名誉教授になる。

平成 21 年	2 月	学長代行に木苗直秀が就任する。
	3 月	第 5 代学長に木苗直秀が就任する。
平成 22 年	4 月	看護学研究科看護学専攻助産学専門分野が助産師学校となる。
平成 23 年	4 月	第 2 代理事長に竹内宏が就任する。
		第 6 代学部長に金澤寛明が就任する。
		第 5 代研究科長に中垣紀子が就任する。
平成 24 年	4 月	第 3 代理事長に本庶佑が就任する。
平成 25 年	4 月	第 7 代学部長に式守晴子が就任する。
		第 6 代研究科長に古川文子が就任する。
平成 26 年	4 月	看護学部入学定員を 120 人に増員する。
平成 27 年	3 月	小鹿キャンパスに新看護学部棟が完成する。
平成 27 年	4 月	第 6 代学長に鬼頭宏が就任する。
		第 8 代学部長に金澤寛明が就任する。
		第 7 代研究科長に西川浩昭が就任する。
		看護学部及び看護学研究科の主な教育拠点を小鹿キャンパスに移転し、2 キャンパス制の運用を開始する。
平成 28 年	4 月	短期大学部看護学科教員に兼任辞令が交付される。
平成 28 年	10 月	短期大学部看護学科が廃科され、短期大学部看護学科所属教員が看護学部専任となる。
平成 29 年	4 月	第 9 代学部長に金澤寛明が就任する（再任）。
		第 8 代研究科長に渡邊順子が就任する。
平成 30 年	4 月	編入学定員を 25 人に増員する。
平成 31 年	4 月	第 10 代学部長に太田尚子が就任する。
		第 9 代研究科長に山田紋子が就任する。
令和 2 年	4 月	看護学研究科博士後期課程が設置される。
令和 2 年	12 月	看護学部附属看護実践教育研究センターが設置される。 (初代センター長に荒井孝子教授が就任する)
令和 3 年	2 月	看護師の特定行為に係る「特定行為研修指定研修機関」に指定される。(厚生労働省医政局 指定研修機関番号 2122010)

### Ⅲ. 看護学部・大学院看護研究科の教員構成

#### 1. 学部の教員構成

表 3-1-1 令和 4 年度 学部の教員構成

※ (令和 5 年 3 月 31 日現在)

領 域	担当教員			
	教授	准教授	講師	助教
専門基礎	井上健一郎 (呼吸器病学)	堀 芽久美	濱井妙子 (薬学、国際保健学)	三崎健太郎 (環境毒性学) へムストック・ ウエンディ・ リアン
環境看護学	荒井孝子			
基礎看護学	操華子			
		山口みのり 永谷幸子	管原清子 加藤京里	倉本直樹
成人看護学	田中範佳 山田紋子 林みよ子		前野真由美	中岡正昭 鈴木郁美 星 有紀 長谷部美紀
老年看護学		成瀬早苗		飯塚真樹 洞口典子 梶山千珠子
精神看護学	篁 宗一	長澤利枝		近藤美保 遠藤りら
小児看護学	山下早苗	鈴木和香子		池田麻左子 丸山始美 梁川 明
母性看護・助産学	太田尚子 藤田景子	中川有加 永谷実穂	福島恭子	大和田裕美 長屋和美
公衆衛生看護学	畑中純子	杉山眞澄 鈴木千智	佐藤瑠美	栗田真由美 安藤継子 伊藤純子
在宅看護学	富安真理		加納江理	膽畑敦子 榊みのり
国際保健・看護学	渡邊順子 (特任教授)		根岸まゆみ	



## 2. 研究科の教員構成

表 3-2-1 令和 4 年度 研究科の教員構成

※ (令和 5 年 3 月 31 日現在)

区 分		担当教員		
		教授	准教授	講師
共通科目	必修	操華子 富安眞理 山田紋子 田中範佳		
	看護学共通科目	井上健一郎 操華子 田中範佳 篁 宗一 山下早苗 太田尚子 富安眞理 渡邊順子 (特任教授)		
専門科目	基盤看護学	☆渡邊順子 (特任教授) ☆荒井孝子 ☆操 華子	山口みのり 永谷幸子	
	実践看護学	☆田中範佳 ☆山田紋子 ☆林みよ子 ☆山下早苗 ☆太田尚子 ☆藤田景子	中川有加 鈴木和香子	
	広域看護学	☆富安眞理 ☆篁 宗一 ☆畑中純子	鈴木千智 成瀬早苗 堀芽久美	
	助産学課程	☆太田尚子 ☆藤田景子	☆中川有加 永谷実穂	福島恭子 (助教) 大和田裕美 (助教) 長屋和美

☆主指導教員

### 3. 年度途中退任の教員

表 3-3-1 令和 4 年度途中退任教員

※ (令和 5 年 3 月 31 日現在)

区分	職名	退任月日	氏名
—	助教	令和 4 年 11 月 25 日	高木 静
—	助教	令和 5 年 2 月 21 日	日當聡志

### 4. 令和 4 年度全学委員会一覧

全学委員会名	
広報委員会	ハラスメント事実調査部会候補者
留学生委員会	ハラスメント相談員
入学者選抜委員会	はばたき寄金運営委員会
入学者選抜実施委員会	発明委員会
個別学力検査問題検討委員会	開学記念行事実行委員会
質保証委員会	施設の有効利用に関する委員会
共同利用機器運営委員会	感染症管理対策委員会
キャリア支援センター委員会	感染症流行検討部会
学生委員会	中期・年度計画推進委員会
教務委員会	中期・年度計画推進委員会作業部会
教務管理部各部会組織	FD 委員会
図書館情報委員会	情報センター運営委員会
保健衛生委員会	情報セキュリティ管理責任者
教職課程委員会	情報セキュリティ管理者
研究倫理委員会	利益相反委員会
公開講座委員会	男女共同参画推進会議委員
国際交流委員会	小鹿キャンパス防災委員
環境安全委員会	COC センター運営委員
RI 取り扱い管理委員会 (放射線安全委員会)	地域貢献・産学官連携推進会議委員
動物実験センター運営委員会	SDGs イニシアティブ推進委員会
ハラスメント防止・対策委員会	「特に優れた業績による奨学金返還免除制度」に 基づく学内選考委員会

全学委員会名	
教育研究組織将来計画委員会	危機管理委員会
大学院協議会	公的研究費等適正管理推進委員会
教員人事委員会	臨床研究施設運営委員会
教員活動評価委員会	麻薬・向精神薬管理委員会

## 5. 学部委員会

学部委員会	
学部学生委員会	学部教務委員会
入学者選抜実施委員会	FD 検討委員会
学部質保証委員会	カリキュラム評価委員会

## 6. 学部・研究科合同委員会

学部・研究科合同委員会	
予算委員会	教育環境整備委員会
広報・企画委員会	研究倫理審査委員会
実習委員会	

## 7. 研究科委員会

研究科委員会	
研究科教務・カリキュラム委員会	研究科学生委員会
FD 委員会	研究科入学者選抜実施委員会
研究科質保証委員会	—

## IV.看護学部・看護学研究科の教育課程

### 1. 学部

#### 1) 学部の理念

人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成する。また将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成する。

#### 2) 教育目標

1. 生命の尊厳を基盤とし、人間を身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。
2. 根拠に基づいた系統的な知識を状況に応じて適用し、論理的かつ批判的に判断する能力を養う。
3. 看護実践に必要な専門的知識、技術及び姿勢を修得し、個人および集団の健康上の課題を適切に解決する能力を養う。
4. 対象者とその家族、地域住民と看護専門職としての関係を積極的に形成し、発展させる能力を養う。
5. 保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、地域住民および他の専門職と協働できる能力を養う。
6. 看護専門職としての高い倫理観を持ち、時代・社会の変化に対応するために、常に自己研鑽につとめ、看護専門職の担うべき役割を主体的に追究することができる能力を養う。
7. 国際的視野を持ち、国際社会の中で保健医療福祉分野の交流や協力ができる基礎能力を養う。

#### 3) ディプロマ・ポリシー

看護学部（以下、本学部という）は、126単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、学則に定める少子高齢社会の健康の護り手として人々の生活を支援するため、確かな看護判断能力と実践能力を身に付け、他専門職と協働して健康上の課題に創造的に対応できる人材を育成することを目的とします。

その実現のために下記の能力・資質を修得・涵養し、時代の要請と地域社会の要望に応え得る人材に学位を授与します。

1. 幅広く深い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境への関心を有している。
2. 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる。
3. あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考え看護を実践できる。
4. チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題に対する解決策を表現できる。
5. 社会の動向及び保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる。
6. 看護学の発展に対応するために、探究心と主体性を身につけている。

#### 4) カリキュラム・ポリシー

本学部は、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・能力などの目標を達成するために、1. 基礎分野Ⅰ、2. 基礎分野Ⅱ、3. 専門基礎分野、4. 看護専門分野の教育科目群を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

1. 基礎分野Ⅰ：5学部横断型の全学共通科目として、広い教養と知識を学び、総合的かつ自主的な判断能力を養う。また、地域理解として「しずおか学」科目群の履修も必修とする。
2. 基礎分野Ⅱ：地域・国際的動向をふまえた、保健医療福祉の課題に対応する看護実践の基礎となる能力を養うことを目的とする。「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「運動」「研修」「教育」の5科目群からなる。
3. 専門基礎分野：人間の健康、生活・社会の理解及び看護実践の基礎となる科学的知識を看護専門分野の履修に先立ち修得する。「人間と人間生活の理解」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の4科目群からなる。
4. 看護専門分野：個人、家族及び集団の健康ニーズに対応した看護実践に必要な専門知識・技術の修得を目的とし、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の3科目群からなる。

##### 1) 専門分野Ⅰ：

看護学の理想的理解と人間の健康生活を支援するための基本的な看護方法や技術を修得する。

##### 2) 専門分野Ⅱ：

看護の基本的理念を基に、人間の発達段階と健康レベルに対応する看護方法について学ぶ。加えて少子高齢社会の進展や慢性疾患の増加、医療の高度化・専門化に

対応した専門領域の看護方法についても学ぶ。さらに、演習を通して領域・分野毎の看護方法や看護技術を修得し、理論と実践の統合を目的とする臨地実習を行う。

### 3) 統合分野：

看護の基本的理念を基に、在宅・地域などの看護活動の場に対応する看護方法について学ぶ。そして、健康長寿延伸の取り組みや静岡型地域包括ケアに関連した演習や実習を通して看護方法や看護技術を学ぶ。さらに、4年次の「卒業研究」「発展看護実習」等を通じて、看護専門分野の教育内容の統合を図る。

## 5) アドミッション・ポリシー

看護はあらゆる「ひと」を対象にし、すべての人々が健康な生活を実現できるように支援します。本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、意思を備えた人を求めます。

1. 日本語および英語による聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基本的な能力を身につけている。
2. ものごとを論理的に探求するために必要な高等学校の教育課程をバランスよく修得している。
3. 多様な価値観を尊重し真摯な態度で「ひと」に向きあえる。
4. 地域社会に看護職者として貢献する意思を持っている。

## 6) 学部カリキュラム

	全学共通科目 科目名		全学共通科目 科目名
第1部門 (リテラシーとスタディ・スキル)	ドイツ語入門	第3部門 (現代教養)	日本の歴史と文化
	フランス語入門		社会を変える手法：コミュニティ・オーガナイズング
	スペイン語入門		国際安全保障入門Ⅰ
	中国語入門		国際安全保障入門Ⅱ
	日本語作文 A		くらしと化学 A
	日本語作文 B		くらしと化学 B
			実用科学英語基礎編
			実用科学英語応用編
	情報検索実習		基礎生命科学Ⅰ 【英語による科目】
	情報処理実習		基礎生命科学Ⅱ 【英語による科目】
	ヒューマン・ケア		現代日本文化入門 A 【英語による科目】
	ライティング基礎		現代日本文化入門 B 【英語による科目】
	ライティング実践		経営分析入門 A 【英語による科目】
	TOEFL 留学英語Ⅰ		経営分析入門 B 【英語による科目】
	TOEFL 留学英語Ⅱ		英語で学ぶ日本語学Ⅰ A 【英語による科目】
	TOEIC ビジネス基礎英語		英語で学ぶ日本語学Ⅰ B 【英語による科目】
TOEIC ビジネス英語Ⅰ	英語で学ぶ日本語学Ⅱ A 【英語による科目】		
TOEIC ビジネス英語Ⅱ	英語で学ぶ日本語学Ⅱ B 【英語による科目】		
第2部門 (概論)	自然科学概論	財務会計入門 A 【英語による科目】	
	化学入門	財務会計入門 B 【英語による科目】	
	生物学入門	言語の学習・習得Ⅰ A 【英語による科目】	
	薬剤発達史入門	言語の学習・習得Ⅰ B 【英語による科目】	
	物理学入門	言語の学習・習得Ⅱ A 【英語による科目】	
	環境科学入門	言語の学習・習得Ⅱ B 【英語による科目】	
	哲学入門	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々 【しずおか学】	
	社会思想史入門	静岡の防災と医療 【しずおか学】	
	歴史学入門	静岡地域食材学 A 【しずおか学】	
	宗教学入門	静岡地域食材学 B 【しずおか学】	
	社会学入門	バイオ — 静岡から世界へ A 【しずおか学】	
	国際関係学入門	バイオ — 静岡から世界へ B 【しずおか学】	
	文化人類学入門	茶学入門 【しずおか学】	
	公共政策入門	ムセイオン静岡 — MUSEUM と文化 A 【しずおか学】	
	心理学入門	ムセイオン静岡 — MUSEUM と文化 B 【しずおか学】	

生涯発達心理入門	ムセイオン静岡	－ 世界の文化遺産 A	【しずおか学】
知的財産管理入門	ムセイオン静岡	－ 世界の文化遺産 B	【しずおか学】
	ムセイオン静岡	－ 舞台芸術 A	【しずおか学】
	ムセイオン静岡	－ 舞台芸術 B	【しずおか学】
		ビジネスの視点でみる静岡 A	【しずおか学】
		ビジネスの視点でみる静岡 B	【しずおか学】
		静岡の市民活動	【しずおか学】
		歴史から読み解くしずおか学 A	【しずおか学】
		歴史から読み解くしずおか学 B	【しずおか学】
		新聞でもっと静岡を知ろう	【しずおか学】
		企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	【しずおか学】
		SDGs 概論	【しずおか学】
	総 合 科 目	地域づくりの方法	【しずおか学】
		ふじのくに学(富士山)	【しずおか学】
		ふじのくに学(お茶)	【しずおか学】
		ふじのくに学(観光学)	【しずおか学】
		ふじのくに学(演劇論)	【しずおか学】
		ふじのくに学(南アルプスの自然)	【しずおか学】
		ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	【しずおか学】
		ふじのくに学(農林業)	【しずおか学】
		ふじのくに学(森林生態系からの恵み)	【しずおか学】
		総合科目 I(キャリア形成概論 I)	
		総合科目 II(キャリア形成概論 II)	
		男女共同参画社会とジェンダー	
		人権が支える社会	
		グローバル政治経済事情	
		ジャーナリズム論	
		キャリアと社会	
		高野山で学ぶキャリアとわたし	



授業科目一覧  
(平成 30 年度以降の入学生用)

	授業科目の名称		配当 年次	開講 学期	単位数		頁	取得必要単位	
					必修	選択			
(全学共通科目)	基礎分野Ⅰ		1・2・3・4	前・後		各 2 5 1	38 5 135	10 単位 以上 選択	
	第1部門								
	第2部門								
	第3部門								
	総合科目								
基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	通		2	137		
	研修	海外英語研修	1・2・3・4			2			
	教育	日本国憲法	1	後		2	139		
		教育学	2	後		2	140		
基礎分野Ⅱ	主体性と判断 力の育成	基礎セミナーⅠ	1	前	1		141	必修 7 単位	
		基礎セミナーⅡ	2	前		1	142		
	英語 コミュニ ニ ケーション	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	前	1		143		
		フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	前	1		144		
		フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	後	1		145		
		フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	後	1		147		
		英語コミュニケーションⅠ	2	前	1		148		
		英語コミュニケーションⅡ	2	後	1		149		
専門基礎分野	人間と 生活の 理解	人間関係論	1	前	2		151	2単位選択	
		臨床心理学	2	後		1	152		
		健康行動論	2	前		1	153		
		運動と健康の生理学	1	前		1	154		
		健康環境論	1	前		1	155		
		医療・看護経済論	2	前		1	156		
		国際看護論	2	後		1	157		
	機能 と 健康 の 促進	機能形態学Ⅰ	1	前	2		158	必修 28 単位 十 選択 4 単位	
		機能形態学Ⅱ	1	後	2		159		
		生物化学	1	前	1		160		
		基礎健康科学演習	1	後	2		161		
		社会 保健 と 制度	症候論	1	後	2			163
			微生物学	1	後	1			164
			臨床薬理学	2	前	2			165
臨床栄養学	2		前	2		166			
社会 保健 と 制度	病態学	2	前	2		167			
	公衆衛生学	1	前	2		169			
	社会福祉論	1	後	1		170			
	保健福祉行政論	2	前	2		171			
	保健医療統計学	1	前	2		172			
社会 保健 と 制度	情報処理演習	1	後	1		173			
	疫学	2	後	2		174			
基礎分野Ⅰ＋基礎分野Ⅱ＋専門基礎分野							単位数計	49(選択4含む)	

授業の概要	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		頁	取得必要単位
					必修	選択		
授業の概要	専門分野 I	看護学原論	1	前	2		175	必修 51 単位
		基礎看護技術論 I	1	前	2		176	
		基礎看護技術論 II	1	後	2		177	
		基礎看護技術演習 I	1	後	1		178	
		看護コミュニケーション演習	1	前	1		179	
		基礎看護技術演習 II	1	後	1		180	
		看護アセスメント演習	2	前	1		181	
		看護と倫理	2	後	1		183	
		看護コミュニケーション実習	1	前	1		184	
		看護アセスメント実習	2	前	2		185	
	専門分野 II	慢性看護学概論	2	後	2		186	
		慢性看護援助論演習	2	後	1		187	
		急性期看護学概論	3	前	2		188	
		急性期看護援助論演習	3	前	1		189	
		慢性看護学実習	3	後	2		190	
		急性期看護学実習	3	後	2		191	
		臨床シミュレーションEBN実習	4	前	2		192	
		老年看護学概論	2	後	2		193	
		老年看護援助論	2	後	1		194	
		老年看護学演習	3	前	1		195	
		老年看護学実習 I	3	後	2		196	
		老年看護学実習 II	3	後	1		197	
		母性看護学概論	2	前	1		198	
		母性看護援助論 I	2	後	1		199	
		母性看護援助論 II	3	前	1		200	
		母性看護学演習	3	前	1		201	
		母性看護学実習	3	後	2		202	
		小児看護学概論	2	後	2		203	
		小児看護援助論	3	前	1		204	
		小児看護学演習	3	前	1		205	
		小児看護学実習	3	後	2		206	
		精神看護学概論	2	後	2		207	
		精神看護援助論	3	前	1		208	
		精神看護学演習	3	前	1		209	
精神看護学実習	3	後	2		210			

	授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数		頁	取得必要単位	
				必修	選択			
授業科目の概要	専門分野 統合分野	地域包括ケア	1	後	1		211	必修 25 単位  ※保健師国家試験受験資格要件
		災害看護セミナー	2	後	1		212	
		地域家族支援論	2	後	2		213	
		在宅看護学概論	3	前	2		214	
		在宅看護学演習	3	前	1		215	
		在宅看護学実習	3	後	2		216	
		看護コミュニケーション演習アドバンス	3	後		1	217	
		看護アセスメント演習アドバンス	4	前		1	218	
		公衆衛生看護学概論	1	後	2		219	
		ヘルスプロモーション	2	前	2		220	
		国際保健・災害看護論	2	前	2		221	
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	後	2		222	
		公衆衛生看護基礎実習	2	後	1		223	
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	前		2	224	
		公衆衛生看護管理論	3	前		2	225	
		公衆衛生看護方法論	3	前		2	226	
		公衆衛生看護学演習	3	後		1	227	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	前		2	228	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前		2	229	
		看護研究	3	前	1		230	
		卒業研究A	3	通		2	231	
		卒業研究B	4	通	2		232	
		国際保健・看護演習	4	前		1	233	
		国際保健・看護実習	4	通		2	234	
		発展看護実習	4	通	2		235	
		看護管理論	4	後	1		236	
看護政策論	4	後	1		237			
看護キャリアデザイン論	4	後		2	238			
専門分野 単位数計							76	
卒業要件(最低単位数)							125	

※ 卒業に必要な最低修得単位数は 125 単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※ さらに「保健師国家試験受験資格要件」の指定された 11 単位——公衆衛生看護活動論Ⅱ(2 単位)、公衆衛生看護管理論(2 単位)、公衆衛生看護方法論(2 単位)、公衆衛生看護学演習(1 単位)、公衆衛生看護学実習Ⅰ(2 単位)、公衆衛生看護学実習Ⅱ(2 単位)を修得することで、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

※基礎分野Ⅰ（全学共通科目）の「しずおか学」科目群については、卒業までに 2 単位以上修得すること。

【海外英語研修の履修・認定方法】

- (1) 本学部が認定した 3 週間あるいは 4 週間のコースを修了した学生に 2 単位を認定する。  
本学部授業期間中の履修については原則として単位は認定しない。
- (2) 成績は本学で認定する。
- (3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

ア 「海外英語研修単位認定申請書」

- イ 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー
- ウ 担当教員より **Student Report** 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー
- ※ ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。  
また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

## 授業科目一覧

(令和4年度以降 入学生用)

授業科目の概要	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		頁	修得必要単位
					必修	選択		
(全学共通科目)	基礎分野 I	第1部門	1・2・3・4	前・後		各 2 5 1	37	10 単位 以上 選択
		第2部門					5	
		第3部門					133	
		総合科目						
基礎分野 II	運動	身体運動科学	1	通		2	134	
	研修	海外英語研修	1・2・3・4			2		
	教育	日本国憲法	1	後		2	136	
教育学		2	後		2	137		
基礎分野 II	主体性と判断力の育成	基礎セミナー I	1	前	1		138	必修 7 単位
		基礎セミナー II	2	前		1	139	
	英語コミュニケーション	フレッシュマンイングリッシュ I	1	前	1		140	
		フレッシュマンイングリッシュ II	1	前	1		141	
		フレッシュマンイングリッシュ III	1	後	1		142	
		フレッシュマンイングリッシュ IV	1	後	1		144	
		英語コミュニケーション I	2	前	1		145	
		英語コミュニケーション II	2	後	1		147	
		人間と人間の生活の理解	身体と心のセクシュアリティ	1	前	1		
人間関係論 I	1		前	1		149		
人間関係論 II	1		前		1	150		
臨床心理学	2		後		1	151		
健康行動論	2		前		1	152	2単位選択必修	
運動と健康の生理学	1		前		1	153		
健康環境論	1		前		1	154		
医療・看護経済論	2		前		1	155		
国際看護論	2		後		1	156		
機能形態学 I	1		前	2		157		必修 28 単位 + 選択 4 単位
機能形態学 II	1	後	2		158			
生物化学	1	前	1		159			
基礎健康科学演習	1	後	2		160			
疾病の成り立ちと回復の促進	症候論	1	後	2		162		
	微生物学	1	後	1		163		
	臨床薬理学	2	前	2		164		
	臨床栄養学	2	前	2		165		
	病態学	2	前	2		166		
社会保健制度と健康支援	公衆衛生学	1	前	2		168		
	社会福祉論	1	後	1		169		
	保健福祉行政論	2	前	2		170		
	保健医療統計学	1	前	2		171		
	情報処理演習	1	後	1		172		
	疫学	2	後	2		173		
基礎分野 I + 基礎分野 II + 専門基礎分野 単位数計							49 (選択4含む)	

授業の概要	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		頁	修得必要単位
					必修	選択		
授業の概要	専門分野 I	看護学概論	1	前	2		174	必修 48 単位
		基礎看護技術 I	1	前	1		175	
		看護コミュニケーション論	1	前	1		176	
		基礎看護技術 II	1	後	2		177	
		基礎看護技術 III	1	後	1		178	
		看護アセスメント演習	2	前	1		179	
		看護アセスメント方法論	2	前	1		180	
		基礎看護技術 IV	2	後	1		181	
		看護と倫理※	2	後	1		182	
		基礎看護学実習 I	1	前	1		183	
		基礎看護学実習 II	2	通	2		184	
	専門分野 II	慢性看護学概論	2	後	2		185	
		慢性看護援助論演習	2	後	1		186	
		慢性看護学実習	3	後	2		187	
		急性期看護学概論	3	前	2		188	
		急性期看護援助論演習	3	前	1		189	
		急性期看護学実習	3	後	2		190	
		老年看護学概論	2	後	2		191	
		老年看護援助論	2	後	1		192	
		老年看護学演習	3	前	1		193	
		老年看護学実習	3	後	2		194	
		母性看護学概論	2	前	1		195	
		母性看護援助論 I	2	後	1		196	
		母性看護援助論 II	3	前	1		197	
		母性看護学演習	3	前	1		198	
		母性看護学実習	3	後	2		199	
		小児看護学概論	2	後	2		200	
		小児看護援助論	3	前	1		201	
		小児看護学演習	3	前	1		202	
		小児看護学実習	3	後	2		203	
		精神看護学概論	2	後	2		204	
		精神看護援助論	3	前	1		205	
		精神看護学演習	3	前	1		206	
		精神看護学実習	3	後	2		207	
	統合分野	地域包括ケア	1	後	1		208	
		災害看護セミナー	2	後	1		209	
地域家族支援論		2	後	2		210		
在宅看護学概論		3	前	2		211		
在宅看護学演習		3	前	1		212		
	在宅看護学実習	3	後	2		213		



(3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

ア 「海外英語研修単位認定申請書」

イ 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー

ウ 担当教員より Student Report 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー

※ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。

また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

## 2. 研究科

### 1) 教育理念

静岡県立大学大学院看護学研究科においては、いかなる状況下においても、自己の人間性を基盤に習得した専門的知識を活用し、最適な看護サービスが提供でき、看護関係職の良きリーダーとなる人材の育成を目指している。生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究及び実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与する。

### 2) 博士前期課程

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士前期課程では所定の単位を修め、修士論文および最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護の専門分野における優れた研究能力と専門性を修得し、その分野におけるリーダーシップを発揮することが期待できる。
2. 実践看護分野において、専門的で高度な実践能力および指導力を有する。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に関して主体的に取り組むことができる。
4. 健全な研究倫理を身につけ、様々な領域において活躍が期待できる。

教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 研究能力と専門性を修得するため、看護の専門分野における理論と知識の基礎を学び、健康課題とその解決に向けて、看護研究を計画・実施できる教育課程を編成する。
2. 専門的で高度な実践能力を修得し、リーダーシップを発揮するために、各領域に特論、



演習等を配置し、看護・保健・医療・福祉のニーズに取り組む基盤形成となる教育を行う。

3. 研究活動を通じて様々な領域における活躍を目指すために、各領域に研究科目を配置し、課題解決に向けた研究プロセスを修得できる教育課程を編成する。

#### 入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、看護サービスの質向上を目指して実践看護分野においてリーダーとなる人、看護・保健・医療・福祉の場における教育や研究課題に取り組む意思を有する人を求める。

1. 看護学および看護実践への強い関心を有し、さらなる専門性を磨こうとする意思を有している。
2. 看護・保健・医療・福祉分野の基礎的な知識・技術を有し、より深めようとする意思を有している。
3. 看護実践で生じる様々な課題の解決により貢献しようとする強い意思を有している。

### 3) 博士後期課程

#### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、所定の単位を修め、博士論文審査及び最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして博士（看護学）の学位を授与する。

1. 各自の実践看護分野を基軸として、自律的に、研究計画を立案し、計画的、継続的に研究を実施できる能力を修得している。
2. 現在の社会背景、地域における健康課題、ケア対象者や地域住民のニーズを的確に察知でき、自らの研究の意義や自己の果たすべき役割を論理的に述べる能力を身につけている。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に積極的に取り組み、多様な課題を解決しようとする姿勢を身につけている。
4. 看護研究者・教育者として必要な倫理的・探求的態度、人間性、教育的姿勢を身につけている。

#### 教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 専門領域における実践の基盤となる理論と知識を学び、健康課題を発見し、その解決に向けて、学際的に、自律して看護研究を計画・実施できるための教育課程を編成する。
2. 生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、およびわが国の社会保障制度や保

健医療福祉政策を学び、広く社会のニーズに対応できる、柔軟な適応力を醸成する教育を行う。

3. 国内外の研究者との交流、国内外の学会での発表が行えるような体制をつくり、看護研究者としての基盤を形成できるような教育を行う。

#### 入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士後期課程の重要な目的は、看護研究を主導できる研究者、看護サービスの質の向上や看護学の教育の改善に寄与する研究を担うことができる人材を養成することである。そのために、学生は、入学時点で以下の能力を有していることが求められる。

1. 看護学および看護実践への強い関心を持ち、これまでの看護実践活動と研究成果から取り組むべき研究課題を見出し、研究を通して、看護学の発展や地域・社会に貢献しようとする意思を有している。
2. 看護専門職として必要な教養と倫理観、語学力や看護学に関する高度な知識・技術を持ち、これまでの看護研究の経験を通して培った基礎的研究能力を有している。
3. 論理的思考と柔軟な発想をもち、様々な課題を解決して真理を探究し、継続的に、自律して研究を実践する強い意思を有している。

#### 4) 研究科カリキュラム

##### 2022年度 教育課程

##### 博士前期課程

	授業科目	開講年次	単位数		
			必修	選択	
共通科目	必修	研究法Ⅰ	2		
		研究法Ⅱ	2		
	選択	看護理論			2
		看護倫理特論			2
		看護教育学特論			2
		看護管理学特論			2
		家族看護特論			2
		基礎科学特論			2
		母子相互作用支援論			2
		国際保健医療特論			2
英語科学論文クリティーク			2		
専門科目	選択必修	基盤看護学特論Ⅰ		2	
		基盤看護学特論Ⅱ		2	
		基盤看護学特論Ⅲ		2	
		基盤看護学特論Ⅳ		2	

	基盤看護学応用演習Ⅰ	1通		4
	基盤看護学応用演習Ⅱ	1通		4
	基盤看護学応用演習Ⅲ	1通		4
	基盤看護学応用演習Ⅳ	1通		4
	基盤看護学特別研究	2通		6
	実践看護学特論Ⅰ	1前		2
	実践看護学特論Ⅱ	1前		2
	実践看護学特論Ⅲ	1前		2
	実践看護学特論Ⅳ	1前		2
	実践看護学特論Ⅴ	1前		2
	実践看護学応用演習Ⅰ	1通		4
	実践看護学応用演習Ⅱ	1通		4
	実践看護学応用演習Ⅲ	1通		4
	実践看護学応用演習Ⅳ	1通		4
	実践看護学応用演習Ⅴ	1通		4
	実践看護学特別研究	2通		6
	広域看護学特論Ⅰ	1前		2
	広域看護学特論Ⅱ	1前		2
	広域看護学特論Ⅲ	1前		2
	広域看護学特論Ⅳ	1前		2
	広域看護学特論Ⅴ	1前		2
	広域看護学応用演習Ⅰ	1通		4
	広域看護学応用演習Ⅱ	1通		4
	広域看護学応用演習Ⅲ	1通		4
	広域看護学応用演習Ⅳ	1通		4
	広域看護学応用演習Ⅴ	1通		4
	広域看護学特別研究	2通		6
助産学課程選択必修	助産学特論	1前		2
	助産学応用演習	1後-2前		4
	妊娠期助産診断技術学	1前		2
	統合ヘルスケア論	1通		2
	妊娠期助産診断技術学演習	1前		3
	助産学基礎演習	1通		3
	地域助産学実習	1通		2
	助産学課題研究	2通		4
助産師養成選択科目	助産学概論	1通		2
	助産管理論	1後		2
	母子保健包括支援論	1通		2
	周産期学	1前		2
	リプロダクティブ・ヘルス演習	1後		2
	周産期助産学演習	1前		1
	周産期助産学実習	1通		1

		助産診断学演習Ⅰ	1 前		2
		助産診断学演習Ⅱ	1 前		3
		助産技術学演習	1 通		3
		助産学実習	1 後		9
		助産学統合実習	2 前		2

博士後期課程

		授業科目	開講年次	単位数	
				必修	選択
共通科目	必修	看護学研究特講	1 前	2	
	選択	生体環境科学特講	1 前・2 前		2
		保健福祉政策特講	1 前・2 前		2
専門科目	選択	看護技術開発特講	1 前		2
		感染看護学特講	1 前		2
		小児看護実践開発特講	1 前		2
		助産学特講	1 前		2
		がん看護理論特講	1 前		2
		周手術期看護学特講	1 前		2
		精神保健看護学特講	1 前		2
		地域・在宅看護システム特講	1 前		2
演習・研究科目	必修	看護学特別演習	1 通	2	
		看護学特別研究Ⅰ	1 通	2	
		看護学特別研究Ⅱ	2 通	2	
		看護学特別研究Ⅲ	3 通	4	

### 3. 臨地実習表

#### 1) 基礎看護学実習 I

		2日臨地						学生1日目・2日目で、異なる病棟での実習		
G	A 61 人	クラス		臨地①		臨地②		臨地③		
		日程		5/31 (火)	6/7 (火)	6/14 (火)	6/21 (火)	6/28 (火)	7/5 (火)	
		学籍番号	氏名							
1	6				静岡市立静岡病院 東10階病棟		静岡市立静岡病院 東9階病棟		学内実習 253講義室	
					静岡市立静岡病院 東9階病棟		静岡市立静岡病院 東10階病棟		学内実習 253講義室	
					静岡市立静岡病院 東7階病棟		学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 東6階病棟	
					静岡市立静岡病院 東6階病棟		学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 東7階病棟	
					学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 西9階病棟		静岡市立静岡病院 西6階病棟	
					学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 西6階病棟		静岡市立静岡病院 西9階病棟	
7	5				静岡赤十字病院 3-3病棟		静岡赤十字病院 3-4病棟		学内実習 253講義室	
					静岡赤十字病院 3-4病棟		静岡赤十字病院 3-3病棟		学内実習 253講義室	
					静岡赤十字病院 3-7病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-9病棟	
					静岡赤十字病院 3-9病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-7病棟	
					学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-7病棟		静岡赤十字病院 3-3病棟	
					学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-9病棟		静岡赤十字病院 3-4病棟	
B 60 人	G	クラス		臨地①		臨地②		臨地③		
		日程		5/31 (火)	6/7 (火)	6/14 (火)	6/21 (火)	6/28 (火)	7/5 (火)	
		学籍番号	氏名							
		13	6			静岡市立静岡病院 東10階病棟		静岡市立静岡病院 東9階病棟		学内実習 253講義室
						静岡市立静岡病院 東9階病棟		静岡市立静岡病院 東10階病棟		学内実習 253講義室
						静岡市立静岡病院 東7階病棟		学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 東6階病棟
				静岡市立静岡病院 東6階病棟		学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 東7階病棟		
				学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 西9階病棟		静岡市立静岡病院 西6階病棟		
				学内実習 253講義室		静岡市立静岡病院 西6階病棟		静岡市立静岡病院 西9階病棟		
19	4			静岡赤十字病院 3-3病棟		静岡赤十字病院 3-4病棟		学内実習 253講義室		
				静岡赤十字病院 3-4病棟		静岡赤十字病院 3-3病棟		学内実習 253講義室		
				静岡赤十字病院 3-7病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-9病棟		
				静岡赤十字病院 3-9病棟		学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-7病棟		
				学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-7病棟		静岡赤十字病院 3-3病棟		
				学内実習 253講義室		静岡赤十字病院 3-9病棟		静岡赤十字病院 3-4病棟		

## 2) 看護アセスメント実習

グループ	人数	Aクラス	実習①	実習②	実習③	実習④⑤⑥⑦⑧											
		月	6	6	6	8	8	8	9	9							
		日	2	16	30	29	30	31	1	2							
		学生	木	木	木	月	火	水	木	金							
1	6人		静岡県立総合病院 5B	静岡県立総合病院 5B	静岡県立総合病院 5B					静岡県立総合病院 5B							
2	6人		静岡県立総合病院 3E	静岡県立総合病院 3E	静岡県立総合病院 3E					静岡県立総合病院 3E							
3	6人		静岡県立総合病院 4B	静岡県立総合病院 4B	静岡県立総合病院 4B					静岡県立総合病院 4B							
4	6人		静岡県立総合病院 4E	静岡県立総合病院 4E	静岡県立総合病院 4E					静岡県立総合病院 4E							
5	6人		静岡県立総合病院 4G	静岡県立総合病院 4G	静岡県立総合病院 4G					静岡県立総合病院 4G							
6	6人		静岡県立総合病院 5A	静岡県立総合病院 5A	静岡県立総合病院 5A					静岡県立総合病院 5A							
7	6人		静岡県立総合病院 5E	静岡県立総合病院 3B	静岡県立総合病院 3B					静岡県立総合病院 3B							
8	6人		静岡県立総合病院 5G	静岡県立総合病院 5G	静岡県立総合病院 5G					静岡県立総合病院 5G							
9	6人		静岡県立総合病院 6C	静岡県立総合病院 6C	静岡県立総合病院 6C					静岡県立総合病院 6C							
10	6人		静岡県立総合病院 6D	静岡県立総合病院 6D	静岡県立総合病院 6D					静岡県立総合病院 6D							
グループ	人数	Bクラス	実習①	実習②	実習③	実習④⑤⑥⑦⑧											
		月	6	6	7												
		日	9	23	7								5	6	7	8	9
		学生	木	木	木								月	火	水	木	金
11	5人		静岡県立総合病院 5B	静岡県立総合病院 5B	静岡県立総合病院 5B										静岡県立総合病院 5B		
12	6人		静岡県立総合病院 3E	静岡県立総合病院 3E	静岡県立総合病院 3E										静岡県立総合病院 3E		
13	5人		静岡県立総合病院 4A	静岡県立総合病院 4A	静岡県立総合病院 4A										静岡県立総合病院 4A		
14	6人		静岡県立総合病院 4B	静岡県立総合病院 4B	静岡県立総合病院 4B										静岡県立総合病院 4B		
15	6人		静岡県立総合病院 4E	静岡県立総合病院 4E	静岡県立総合病院 4E										静岡県立総合病院 4E		
16	6人		静岡県立総合病院 4G	静岡県立総合病院 4G	静岡県立総合病院 4G										静岡県立総合病院 4G		
17	6人		静岡県立総合病院 5A	静岡県立総合病院 5A	静岡県立総合病院 5A										静岡県立総合病院 5A		
18	6人		静岡県立総合病院 3B	静岡県立総合病院 3B	静岡県立総合病院 3B										静岡県立総合病院 3B		
19	6人		静岡県立総合病院 5G	静岡県立総合病院 5G	静岡県立総合病院 5G										静岡県立総合病院 5G		
20	6人		静岡県立総合病院 6C	静岡県立総合病院 6C	静岡県立総合病院 6C										静岡県立総合病院 6C		
21	6人		静岡県立総合病院 6D	静岡県立総合病院 6D	静岡県立総合病院 6D										静岡県立総合病院 6D		

※新型コロナウイルス感染拡大の影響で病棟編成に変更があったため、実習病棟・学生配置を変更して実施した。

### 3) 3年次後期臨地実習配置表

G	人数 107名	9月																		10月						11月						12月						1月						2月						
		1ケール		2ケール		3ケール		4ケール		5ケール		6ケール		7ケール		8ケール		9ケール		10ケール		11ケール		12ケール		13ケール		14ケール		15ケール		16ケール		17ケール		18ケール		19ケール		20ケール		21ケール		22ケール		23ケール		24ケール		
		5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3
1	6	急性期 がんセンター		在宅 訪問看護：飯沼けん 清水厚生病院 つばき診療 (担当：藤田)						老年Ⅰ 静清		母性 泉総 (担当：水谷)		小児 こども病院		老年Ⅱ アリス あみ		慢性 赤十字病院 3-9病棟		在宅 訪問看護：日東/おしか サテライトみかど台 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：加納)						精神 こころ北1																								
2	6	精神 溝口		母性 市立静岡 (担当：中川)						慢性 赤十字病院 2-7病棟		老年Ⅱ 池田 ・瀬名		急性期 赤十字病院 3-7病棟		小児 こども病院								老年Ⅰ 静清																										
3	6	小児 こども病院		老年Ⅰ 小児 甲賀						母性 泉総 (担当：水谷)		精神 こころ南1		慢性 赤十字病院 3-5病棟		老年Ⅱ エス コート ・瀬名		急性期 県立総合病院 3E/4E						在宅 訪問看護：いひまち/ 飯沼けん/ 赤坂ハート 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：柳)																										
4	6	慢性 済生会病院 S6		母性 日赤 (担当：長屋)						小児 こども病院		急性期 赤十字病院 2-6病棟		老年Ⅱ アリス ・池田		在宅 訪問看護：おん/ つばき診療 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：柳)						老年Ⅰ 小児		精神 溝口																										
5	6	老年Ⅱ アリス ・あみ		老年Ⅰ 甲賀						小児 こども病院		精神 こころ南2		母性 日赤 (担当：大和田)		慢性 赤十字病院 3-6病棟								在宅 訪問看護：いひまち/ 飯沼けん/ 赤坂ハート 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：加納)		急性期 がんセンター																								
6	6	母性 日赤 (担当：大和田)		老年Ⅱ アリス ・あみ						精神 溝口		老年Ⅰ 小児		在宅 訪問看護：日赤/ 藤野おしか/ サテライトみかど台 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：柳)						急性期 がんセンター		慢性 赤十字病院 3-6病棟						小児 こども病院																						
7	6	小児 こども病院		在宅 訪問看護：飯沼けん 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：柳)						母性 藤枝 (担当：中川)		老年Ⅰ 小児 甲賀		慢性 てんかん		老年Ⅱ あみ エス コート		精神 こころ北2						急性期 済生会病院 S5																										
8	6	老年Ⅰ 静清		急性期 赤十字病院 2-6病棟						精神 溝口		小児 こども病院		老年Ⅱ 瀬名 ・星		母性 済生会 (担当：中川)		在宅 訪問看護：日東/おしか サテライトみかど台 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：藤田)						老年Ⅰ 静清		慢性 済生会病院 S6																								
9	6	老年Ⅰ 静清 小児		慢性 てんかん						老年Ⅱ アリス 池田		急性期 赤十字病院 2-5病棟		在宅 訪問看護：日赤/ 藤野おしか/ サテライトみかど台 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：加納)						母性 藤枝 (担当：長屋)		小児 こども病院						精神 溝口																						
10	5	老年Ⅰ 小児		慢性 赤十字病院 3-5病棟						在宅 訪問看護：日東/おしか サテライトみかど台 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：加納)						急性期 済生会病院 S3		老年Ⅱ あみ ・池田		小児 こども病院						精神 溝口 (担当：長屋)																								
11	6	慢性 てんかん		小児 こども病院						急性期 済生会病院 S5		母性 焼津 (担当：大和田)		老年Ⅱ エス コート ・星		老年Ⅰ 静岡リハ		精神 溝口						在宅 訪問看護：いひまち/ 飯沼けん/ 赤坂ハート 清水厚生病院 つばき診療 (担当：富安)																										
12	6	老年Ⅱ 池田 ・瀬名		精神 こころ北2						老年Ⅰ 静清		慢性 てんかん		在宅 訪問看護：日赤/ 藤野おしか/ サテライトみかど台 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：藤田)						急性期 赤十字病院 2-6病棟		母性 藤枝 (担当：長屋)						小児 こども病院																						
13	6	精神 こころ北1		急性期 県立総合病院 5A/5B						慢性 済生会病院 S6		老年Ⅱ アリス ・あみ +M38.N R5		小児 こども病院						母性 済生会 (担当：大和田)						在宅 訪問看護：島谷/ つばき診療/ 赤坂ハート 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：柳)						老年Ⅰ 静清																		
14	6	急性期 済生会病院 S5		小児 こども病院						老年Ⅱ エス コート 瀬名		慢性 赤十字病院 3-4病棟		老年Ⅰ 静清		在宅 訪問看護：おん/ つばき診療 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：中川)						母性 焼津 (担当：中川)		精神 こころ南2																										
15	6	精神 こころ南1		急性期 赤十字病院 3-7病棟						老年Ⅱ 池田 あみ		小児 こども病院		老年Ⅰ 静清		慢性 県立総合病院 6C/6D						母性 焼津 (担当：大和田)						在宅 訪問看護：島谷/ つばき診療/ 赤坂ハート 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：加納)																						
16	6	小児 こども病院		精神 こころ南2						老年Ⅰ 静岡リハ		在宅 訪問看護：清水/ ほたる/さずか 清水厚生病院 つばき診療 (担当：藤田)						慢性 赤十字病院 2-7病棟		老年Ⅱ 瀬名 ・星						急性期 がんセンター						母性 済生会 (担当：水谷)																		
17	6	母性 泉総 (担当：中川)		老年Ⅱ 池田 ・瀬名						在宅 訪問看護：日東/おしか サテライトみかど台 坂ヶ丘病院 つばき診療 (担当：藤田)						老年Ⅰ 甲賀		精神 こころ北2						急性期 赤十字病院 3-7病棟						慢性 てんかん																				
18	6	母性 焼津 (担当：水谷)		小児 こども病院						老年Ⅱ エス コート ・星		在宅 訪問看護：清水/ ほたる/さずか 清水厚生病院 つばき診療 (担当：柳)						精神 溝口		老年Ⅰ 甲賀						慢性 赤十字病院 3-6病棟						急性期 赤十字病院 2-5病棟																		

4) 臨床シミュレーション EBN 実習

病棟施設	日程	G	チーム	人数	教員
病棟実習・看護過程の展開 & EBNプロジェクト	6月6日～6月10日	1	A	3名	林みよ子
			B	3名	
		2	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
		3	A	3名	前野真由美
			B	3名	
		4	A	3名	山田紋子 星有紀
			B	3名	
		5	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
	6月13日～6月17日	6	A	3名	林みよ子
			B	3名	
		7	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
		8	A	3名	前野真由美
			B	3名	
		9	A	3名	星有紀
			B	3名	
		10	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
	6月27日～7月1日	11	A	3名	林みよ子
B			3名		
12		A	3名	山田紋子	
		B	3名		
13		A	3名	前野真由美	
		B	3名		
14		A	3名	星有紀	
		B	3名		
15		A	3名	中岡正昭	
		B	3名		
7月4日～7月8日	16	A	5名	林みよ子	
	17	A	3名	山田紋子	
		B	3名		
	18	A	3名	前野真由美	
		B	3名		
	19	A	3名	星有紀	
		B	3名		
	20	A	3名	中岡正昭	
		B	3名		
	7月11日～7月15日	21	A	3名	中岡正昭



病棟施設	日程	G	チーム	人数	教員
シミュレーション実習	6月6日～6月10日	6	A	3名	田中範佳
			B	3名	
		7	A	3名	
			B	3名	
		8	A	3名	
			B	3名	
	9	A	3名		
		B	3名		
	10	A	3名		
		B	3名		
	6月13日～6月17日	1	A	3名	
			B	3名	
		2	A	3名	
			B	3名	
		3	A	3名	
			B	3名	
	4	A	3名		
		B	3名		
	5	A	3名		
		B	3名		
	6月27日～7月1日	16	A	5名	田中範佳 鈴木郁美
17		A	3名		
		B	3名		
18		A	3名		
		B	3名		
19		A	3名		
	B	3名			
20	A	3名			
	B	3名			
7月4日～7月8日	11	A	3名		
		B	3名		
	12	A	3名		
		B	3名		
	13	A	3名		
		B	3名		
14	A	3名			
	B	3名			
15	A	3名			
	B	3名			
		21	A	3名	

## 5) 公衆衛生看護基礎実習

### 公衆衛生看護基礎実習

R4年度 公衆衛生看護学基礎実習学生配置表

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120	2月13日(月) 午前/午後	2月14日(火) 午前 午後		2月15日(水) 午前 午後		2月16日(木) 午前 午後		2月17日(金) 午前 午後		2月20日(月) 午前 午後		2月21日(火) 午前 午後		2月22日(水) 午前 午後		23日	2月24日(金) 午前/午後
						煙中(4)C 健康福祉保											
					鈴木(4)C 健康福祉保												

( ) 内は学生人数  
氏名は担当教員

## 6) 公衆衛生看護学実習 I

### 公衆衛生看護学実習 I

施設	実習期間	学生数	担当教員
静岡市清水保健福祉センター	5/9～5/20	8名	伊藤純子・畑中純子
富士市保健センター	5/9～5/20	10名	安藤継子・佐藤瑠美
御前崎市役所	5/9～5/20	4名	栗田真由美
吉田町保健センター	6/6～6/17	5名	栗田真由美
静岡市北部保健福祉センター	6/20～7/1	7名	伊藤純子
焼津市保健センター	6/20～7/1	6名	鈴木千智
静岡市大里保健福祉センター	6/20～7/1	7名	栗田真由美
静岡市藁科保健福祉センター	6/20～7/1	5名	佐藤瑠美
富士宮市保健センター	6/20～7/1	10名	安藤継子・杉山眞澄
島田市保健センター	8/29～9/9	10名	杉山眞澄・伊藤純子
牧之原市保健センター	8/29～9/9	10名	栗田真由美
袋井市保健センター	8/29～9/9	6名	鈴木千智
静岡市長田保健福祉センター	8/29～9/9	8名	安藤継子
静岡県富士健康福祉センター	5/10	20名	安藤継子・杉山眞澄
静岡県西部健康福祉センター	5/12	10名	鈴木千智・栗田真由美
静岡県中部健康福祉センター	5/31	31名	杉山・鈴木・佐藤・栗田・伊藤
静岡市保健所	5/18	34名	畑中・佐藤・安藤・栗田・伊藤

## 7) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (行政・学校・産業)

### 公衆衛生看護学実習Ⅱ (行政)

施設	実習期間	学生数	担当教員
静岡市清水保健福祉センター	6/6～6/17	6名	伊藤純子
富士市保健センター	6/6～6/17	6名	安藤継子
静岡市藁科保健福祉センター	7/4～7/15	5名	佐藤瑠美
静岡市北部保健福祉センター	7/4～7/15	5名	伊藤純子
静岡市大里保健福祉センター	7/4～7/15	5名	栗田真由美
焼津市保健センター	7/4～7/15	6名	鈴木千智
富士宮市保健センター	7/4～7/15	5名	安藤継子
牧之原市保健センター	9/12～9/23	6名	栗田真由美
島田市保健センター	9/12～9/23	6名	伊藤純子
袋井市保健センター	9/12～9/23	6名	鈴木千智

学生数：56名

### 公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業)

施設	実習期間	学生数	担当教員
ジャトコ株式会社	6/20～7/1	5名	畑中純子
富士第1地区健康サポート室	9/12～9/23	7名	安藤継子
三菱電機(株)静岡製作所	7/11～7/22	5名	畑中純子
JR 東海健康管理センター 静岡健康管理室	9/13～9/24	6名	杉山眞澄

学生数：23名

### 公衆衛生看護学実習Ⅱ (学校)

施設	実習期間	学生数	担当教員
静岡市立南部小学校	5/23～5/27	4名	佐藤瑠美
静岡市立中田小学校	6/6～6/10	4名	杉山眞澄
静岡市立観山中学校	6/6～6/10	4名	畑中純子
静岡市立川原小学校	6/6～6/10	4名	佐藤瑠美
静岡県立清水特別支援学校	5/30～6/3	4名	佐藤瑠美
静岡県立中央特別支援学校	6/13～6/17	4名	佐藤瑠美
静岡県立南部特別支援学校	6/13～6/17	4名	畑中純子
静岡県立北特別支援学校	7/11～7/15	4名	杉山眞澄
静岡県立吉原林間学園	7/15	16名	杉山眞澄

学生数(実数)：16名

総責任者：畑中純子

8) 国際保健・看護実習

本年度実施なし。

9) 大学院博士前期課程助産学課程 助産学関連実習

実習総責任者 太田尚子

科目	学年	実習期間	実習施設	学生数	担当教員
妊娠期助産診断 技術学演習 (妊婦健康診査 実習)	1	6/2～7/21 (1回/週 8週間)	静岡県立総合病院	2名	福島恭子
			静岡赤十字病院	2名	藤田景子 高木静
			静岡済生会総合病院	2名	太田尚子 金田千依
助産学基礎演習 (助産準備実習)	1	9/26～10/7 (2週間)	静岡県立総合病院	2名	福島恭子
			静岡赤十字病院	3名	藤田景子
			静岡済生会総合病院	2名	太田尚子 金田千依
助産学実習	1	第1期 10/11～11/11 (5週間) 第2期 1/16～2/10 (4週間)	静岡県立総合病院	2名	福島恭子
			静岡赤十字病院	第1期 3名 第2期 2名	藤田景子
			静岡済生会総合病院	第1期 2名 第2期 3名	太田尚子 金田千依
周産期助産学演習 (NICU実習)	1	2/20、21、22、24 (4日間)	静岡済生会総合病院	2名	太田尚子 金田千依
			聖隷浜松病院	2名	藤田景子
			静岡県立こども病院	2名	福島恭子
地域助産学実習	1	第1期 9/5～9/9 (5日間)	くさの助産院	2名	藤田景子
			渡辺助産院	2名	太田尚子 高木静
			エス・アール・ハウス	2名	福島恭子

地域助産学実習	1	第2期 11/14～3/31 のうち4日間	各学生の実習目的に沿った施設・団体等	6名	太田尚子 藤田景子 福島恭子 金田千依
助産学統合実習	2	5月～9月 (うち13日、21日)	渡辺助産院	2名	太田尚子 高木静
		5月～9月 (うち19日)	おはな助産院	1名	福島恭子
		5月～9月 (うち19日)	エス・アール・ハウス	1名	福島恭子
		5月～9月 (うち33日、34日)	くさの助産院	2名	藤田景子

## 4. 学生の研究

### 1) 学部の指導体制と研究テーマ

教員の学生担当数は、専門基礎・保健医療領域、環境看護学、基礎看護学領域、成人看護学領域、国際看護学は教員ごと、それ以外の看護学領域は領域ごとに設定し、教員および学生の卒業研究調整委員ができるだけ希望に添うように調整した。看護学領域の教員ごとの担当学生は領域内で調整した。指導教員の指導の下に学生は、約1年かけて研究テーマを追求し論文としてまとめた。結果、表4-4-1にあげた卒業研究が提出された。その研究要旨は、「令和4年度（2022）卒業論文要旨集」として発刊し、臨地実習施設ならびに臨地実習機関等に配布した。

表 4-4-1 令和4年度（2022）看護学部卒業研究題目一覧

学籍番号	氏名	卒業研究題目	指導教員
1815012	石川 愛	看護支援に有効なアニマルセラピーの効果	長澤利枝
1815017	今井 志保	高齢者施設におけるクラスター発生後の対応に関する文献検討	操華子
1815022	内田 安海	大気汚染物質による呼吸器疾患の悪化	井上健一郎
1815051	清水 優華	入院している終末期患者とその家族が抱く思い	山口みのり
1815052	榛葉 美咲	透析患者の抱える思い	山口みのり
1815059	鈴木 彩音	臨地実習が看護学部2年生のコミュニケーション・スキルに及ぼす影響	管原清子
1815090	日ヶ久保 桃花	女子大学生に対するプレコンセプションケアについての文献検討—現状と課題—	大和田裕美
1815107	村松 和泉	被虐待経験が人体に及ぼす影響と虐待の世代間連鎖に対する支援方法に関する文献検討	安藤継子
1915001	相原 朱里	出産前後の父親の育児に関するニーズと父親に対して実施している育児支援の実態	中川有加
1915003	浅羽 冴香	新型コロナウイルスの感染防止対策が在宅以外で生活する認知症者の行動・心理症状に与える影響に関する文献検討	鈴木郁美
1915004	芦田 亜美	認知症高齢者の家族介護者の肯定的側面に関する支援についての文献レビュー	成瀬早苗

1915005	跡見 朋花	「通いの場」への地域在住高齢男性の参加行動を促す要因の検討	伊藤純子
1915006	荒木 楓玖	独居の認知症高齢者が地域で生活を継続するための支援に関する文献検討	膽畑敦子
1915007	安藤 翠	国内の看護文献における術前の初発乳がん患者への心理的看護ケア	山田紋子
1915008	石川 彩香	在日外国人の母親の出産・育児の過程において経験する困難についての文献検討	鈴木千智
1915009	石神 春花	小児期発症慢性疾患をもつ患者のトランジションに関する文献検討 -思春期・青年期患者の思いとニーズに焦点をあてて-	丸山始美
1915010	石月 真友香	文献レビューにみる、長期入院児のきょうだい児に対して看護師が行う支援の実態 ～看護の場による支援の違い～	山下早苗
1915011	稲垣 実桜	重症心身障害児と在宅で生活する母親の困難感とその関連因子に関する文献検討	池田麻左子
1915012	岩倉 奈美	在宅看取りを行う家族へ訪問看護師が実施するグリーフケアに関する文献検討	加納江理
1915013	植松 真幸	人間ドックデータにおける5年以上の経過からみたeGFRの変化に影響を与える因子の検討	荒井孝子
1915014	梅野月菜	乳がん罹患の増減と危険因子の関連についての日米韓比較	堀芽久美
1915015	瓜生 七海	周術期の低体温に対する保温による温熱的快適性の検討:メタ分析	田中範佳 星有紀
1915016	江藤 理桜奈	第2子誕生が第1子と経産婦に与える影響についての文献検討	大和田裕美
1915017	大石 未里	きょうだいを亡くした子どもへの熟練看護師が行うグリーフケアに関する事例研究	山下早苗
1915018	大久保 朱音	母親が育児に関する不安・悩みを乗り越える経験に関する文献研究	福島恭子
1915019	大藏 優佳	若年妊婦の妊娠継続までの心理	藤田景子
1915020	大島 響弓	ラテックスナノ粒子の単独反復経気道曝露によるマウスの呼吸機能変化	井上健一郎



1915021	大西 ひなた	高齢者に対する足浴の効果に関する文献検討	加藤京里
1915022	大村 虎太郎	がん患者とケア提供者に対するアロママッサージの効果に関する文献検討	前野真由美
1915023	沖田 夏未	ペリネイタル・ロスを経験した母親・父親のケア・ニーズおよび看護者の役割と課題に関する文献検討	福島恭子
1915024	沖田 美祐	摂食・嚥下障害を有する在宅高齢者を対象とした支援に関する文献検討	富安眞理
1915025	澳本 瑠夏	採血時の血管迷走神経反応(VVR)に関する文献検討	濱井妙子
1915026	長田 葉菜香	発達障害児をもつ母親に対して虐待防止に有効な保健師の支援とその効果に関する文献検討	安藤継子
1915027	尾高 琳	臨地実習において指導者や担当看護師が学生指導をする際に持っている考え	山口みのり
1915028	落合 佑加	住民主体の地域組織活動の継続要因と支援	畑中純子
1915029	折戸 ゆい	気管挿管患者への効果的な口腔ケアの方法に関する文献検討	加藤京里
1915030	片山 歩美	周産期にDVを受けている妊産婦を発見する視点	藤田景子
1915031	勝又 潤也	フラッシュグルコースモニタリング(FGM)を用いた看護学生の血糖値変動と生活行動との検討:パイロットスタディ	濱井妙子
1915032	金子 佑衣	大学生の喫煙支持要因、禁煙支援とその効果に関する文献検討	佐藤瑠美
1915033	川上 ないる	国内看護系文献にみる救急・重症系病床にて死を迎える患者の家族に対する看護師の心理的ケア	山田紋子
1915034	菊地 香穂	終末期がん療養者を在宅で看取る家族への訪問看護師の支援	榊みのり
1915035	木村 遥	在宅看取りによる家族の精神的負担を軽減する退院支援について	榊みのり

1915036	工藤 万由子	BMI・体脂肪率からみた人間ドックデータにおける eGFRcre と eGFRcys の乖離に関する検討	荒井孝子
1915037	甲石 汐音	ウクライナの思春期の難民の子どもに対する心のケアにおける文献検討	根岸まゆみ
1915038	小金澤 多映	アルコール依存症患者に対する看護師の具体的な関わりについて	長澤利枝
1915039	古口 双葉	学童期にある自閉スペクトラム症児の親の子育ての実態に関する文献検討	山下早苗
1915040	輿石 春菜	乳幼児をもつ働く母親の現状と求められる育児支援施策・看護職者の役割	永谷実穂
1915041	小島 あすか	看護師が行う患者理解のための情報収集	山口みのり
1915042	後藤 侑子	慢性疾患患者に対し看護師が行っている退院支援に関する文献研究	加藤京里
1915043	齊藤 涼子	脳血管疾患患者の障害たしかめ体験に関する文献検討	鈴木郁美
1915044	佐野 綾音	意思決定が困難な認知症高齢者の代理意思決定を行った家族の心理的プロセスと代理意思決定を行った家族に対する看護支援について	宮澤典子
1915045	佐原 果歩	清拭材の材質による被洗浄体表面の拭き取り滅菌効果に関する検討	濱井妙子
1915046	澤 千里	重症心身障害児をもつ母親に障害受容を強いる必要性の検討	鈴木和香子
1915047	澤原 あす美	コロナ禍における外国人患者に対するメンタルヘルスケアについて日本人看護師に求められる能力	根岸まゆみ
1915049	篠原 由衣	看護職者が抱える精神的健康度および主観的幸福感の要因と必要な支援の検討	篁宗一
1915050	清水 綾乃	乳幼児期における生活習慣とう蝕関連要因に関する文献検討	畑中純子
1915051	下門 千花	乳がんサバイバーの効果的な運動療法に関する文献検討	永谷幸子
1915052	下條 莉奈	COVID-19 の流行が地域で生活する高齢者の心身の健康に与える影響についての文献検討	杉山眞澄

1915053	杉山 千尋	静岡県域および賀茂圏域におけるかかりつけ医までの道路距離と脳卒中死亡リスクとの関連	堀芽久美
1915055	鈴木 澄玲	心臓カテーテル検査・治療を受ける患者への術前保温の有効性の検討	田中範佳 星有紀
1915056	諏訪 竣哉	教員版・子どもの適切なネット利用を促す教育プログラムの開発	篁宗一
1915057	高田 美樹	高齢者の安全な入浴方法に関する文献検討	永谷幸子
1915058	高田 莉衣	脳血管疾患により意思疎通困難となった患者の家族が自宅退院を決めるまでの体験	林みよ子
1915059	高橋 輝更	15歳以下の学生へのBLSトレーニングの有効性と課題についての検討	中岡正昭
1915060	武田 美希	日本における間食とメタボリックシンドロームの関連性および、アジア圏内の5つの国と比較したときの影響の違いについて	ヘムストック ウエンディ リアン
1915061	田邊 千里	手術前にある患者の不安、抑うつに対する情緒的支援に関する文献検討そのかいご	遠藤りら
1915062	土田 那奈	日常生活に支障が現れ始めたパーキンソン病在宅療養者が抱く家族への思いに関する文献検討	林みよ子
1915063	土屋 穂佳	術前不安に対する術前教育による不安軽減の有効性の検討:メタ分析	田中範佳 星有紀
1915064	恒本 唯花	在宅で認知症高齢者を介護する家族に対する保健師の支援についての文献検討	栗田真由美
1915066	貴田 結女	フラクトオリゴ糖のアレルギー疾患症状に対する有用性	井上健一郎
1915067	十島 奈々葉	うつ病患者の社会復帰を支えるための経時的な家族支援についての文献検討	長澤利枝
1915068	外山 桃郁	NICU等で医療的ケアが必要な児に対する母親の思いと看護職による退院支援内容に関する文献検討	長屋和美
1915069	中井 花菜	国内看護文献にみる術後せん妄発症予防および症状改善に対する効果的な看護介入	山田紋子
1915070	中川 瑠莉	がんサバイバーに対する地域での支援についての文献検討	杉山眞澄

1915071	中島 優歩	急性期脳血管疾患患者の家族が生活の再構築に向かう体験	林みよ子
1915072	中田 花奈	産後うつ病予防のための看護介入プログラムに関する検討	太田尚子
1915073	中西 緋葉里	認知症高齢者の家族介護者が感じる家族会に関する文献検討	近藤美保
1915074	中村 真己	難病の子どもを持つ患者家族同士のピアサポートの現状に関する文献検討	丸山始美
1915075	永田 真那	在宅パーキンソン病療養者の生活困難感についての文献検討～運動合併症による身体的・精神的影響に着目して～	加納江理
1915076	梨子田 果歩	重症心身障害児とその家族への訪問看護師の支援に関する文献検討	加納江理
1915077	野畑 七海	高齢者の意思決定支援において、エンディングノートの活用がもたらす影響についての文献検討	飯塚真樹
1915078	芳賀 可梨	壮年期がん患者の人生の再構築に関する心理についての文献研究	前野真由美
1915079	羽賀 すずな	被災看護師が抱えるストレスとストレスコーピングについての文献検討	杉山眞澄
1915080	畑 美羽	SNS利用が看護学生のコミュニケーション能力に及ぼす影響	管原清子
1915081	服部 すず	失語症患者と関わる看護者のコミュニケーションの姿勢に関する文献レビュー	成瀬早苗
1915082	濱口 茉依	化粧が与える生理学的影響についての文献検討	近藤 美保
1915083	原 美南	生後すぐ在宅中心静脈栄養が必要になった患児の母親へのケアの指導方法に関する研究	鈴木和香子
1915084	原崎 麻衣	精神科入院患者の退院の障壁および促進となる要素	鈴木千智
1915085	疋田 伶奈	在宅における家族介護者の就労継続と介護離職に影響を及ぼす要因	栗田真由美
1915086	福井 わかな	高齢者のせん妄予防のための効果的な看護介入に関する文献検討	操華子
1915087	藤崎 乃綾	第2子を迎え入れる母親の第1子への思いと兄・姉となる第1子の反応	高木静 中川有加

1915088	藤本 弥佳	父親の産後うつの実態とその要因に関する文献検討	中川有加
1915089	堀内 麻裕	在宅で療養する心不全高齢者の再入院予防のための看護支援に関する文献検討	富安眞理
1915090	本地 葵	要介護高齢者の排泄ケアを行う家族介護者の負担感とその支援に関する文献検討	富安眞理
1915091	前田 優作	看取りにまつわる家族の意思決定における心の揺れ	操華子
1915092	牧野 りか	認知症高齢者を在宅介護する家族介護者への支援についての文献検討	膽畑敦子
1915093	増田 あかり	看護学部生における朝食摂取状況と居住形態の実態調査	ヘムストック ウエンディ リアン
1915094	松井 怜央那	大学生を対象としたイヤホン難聴予防教育の効果	永谷幸子
1915095	松浦 歩未	糖尿病患者の食事療法における看護師の支援に関する文献検討	畑中純子
1915096	松村 詩乃	児の泣きに関する母親の不安と支援	永谷実穂
1915097	松村 優希	術前不安における音楽療法の効果に関する文献検討	中岡正昭
1915098	三上 美咲	看護師が行う小児の発達を促すかかわりに関しての文献検討	池田麻左子
1915099	水口 真由	認知症患者の意欲・活動性を引き出す支援についての文献レビュー	成瀬早苗
1915100	宮下万由	市区町村別平均所得と平均寿命の関連～生態学的研究～	堀芽久美
1915101	村上 翔流	臨地実習が看護学部2年生の表情認知能力に及ぼす影響	管原清子
1915102	村松 実季	口唇口蓋裂児の母親に対する看護者が行う支援について	高木静 永谷実穂
1915104	望月 美希	認知症患者に対する音楽療法の効果に関する文献検討	宮澤典子
1915105	望月 美玖	高齢患者の退院後の生活における自動車運転に関するリスクの検討	伊藤純子

1915107	望野 葵	国内文献にみる終末期がん患者の余命告知から治療方針決定に至るまでの心理的变化	山田紋子
1915108	八木 咲音	NICU 入院児の父親の父性獲得への自己と他者の働きかけー父親を取り巻く社会状況を踏まえてー	福島恭子
1915109	山内 果琳	国内文献にみる病院で亡くなるがん患者の家族に表れる終末期から看取り後 6 年にかけての心理的变化	山田紋子
1915110	山口 はるか	精神疾患を抱える親を持つ子どもへの心理・社会的影響について	遠藤りら
1915111	山田 朝美	ディストラクションにおける看護師の役割:文献レビュー	鈴木和香子
1915112	山本 紗帆	受動的運動が若年者の認知機能におよぼす影響	永谷幸子
1915113	山本 彩莉	妊娠期から産後 1 ヶ月までの母親が抱く育児不安とその支援について	永谷実穂
1915114	山本 穂乃花	新型コロナウイルス感染症流行前後での食生活の変化と関連要因に関する文献検討	佐藤瑠美
1915115	柚木崎 真歩	新型コロナウイルス感染症(covid-19)禍における児童虐待の実態と保健師による児童虐待防止のための社会的孤立予防の支援に関する文献検討	佐藤瑠美
1915116	横山 円香	静岡県立大学看護学部生の防災と災害ボランティアに対する意識調査	根岸まゆみ
1915117	吉嶺 羅菜	行政保健師が児童虐待を予防するために行う関わりに関する文献検討	鈴木千智
1915118	吉村 愛梨	周産期喪失を体験した両親への影響とケア	太田尚子
1915119	若森 怜	加熱式タバコの意識に関する文献研究	前野真由美
1915120	渡邊 あこ	コロナ禍で増加した心理的問題の実態と SNS による援助に関する検討	篁宗一
2115121	小笠原 まなみ	回復期リハビリテーション病棟の看護師が身体拘束回避に対して抱く困難感	飯塚真樹

## 2) 研究科の指導体制と研究テーマ

今年度は、博士後期課程 2 名が博士論文審査および最終試験に合格、博士前期課程では 12 名が修士論文審査および最終試験に合格し修了した。

指導教員を中心に、副指導教員とともに指導が行われた。研究の実施にあたり、病院等の施設より多大なるご支援、ご協力を得た。博士論文および修士論文発表会を令和 5 年 3 月 3 日（金）に、オンラインで開催された。博士論文発表会は看護学研究科委員会委員を対象に、修士論文発表会は大学院生、学部生、教員、そして研究協力施設の関係者などを対象に開催され、多数の参加があった。

博士後期課程、博士前期課程修了生の氏名、専門分野および論文題目は以下の表のとおりである。

表 4-4-2 令和 4 年度看護学研究科博士後期課程修了生および博士論文題目一覧

氏名	専門分野	研究題目	指導教員 副指導教員
木村 綾	看護学	認知症グループホームに携わる訪問看護事業所におけるアウトカムマネジメントモデルの開発	富安 眞理 操 華子
倉本 直樹	看護学	穿刺困難な末梢静脈血管路に対する熟練看護師の末梢静脈選定技術に関する研究	渡邊 順子 永谷 幸子

表 4-4-2 令和 4 年度看護学研究科博士前期課程修了生および修士論文題目一覧

氏名	専門分野	研究題目	指導教員 副指導教員
渡邊 沙彩	成人看護学	手術後の経時的な体温の変化と温熱的快適性の関連性に関する検討	田中 範佳 堀 芽久美
山梨 和子	看護技術学	中規模病院における末梢静脈カテーテル関連合併症サーベイランス実施状況	操 華子 林 みよ子
植田 春美	成人看護学	入院中の終末期高齢者の主介護者が在宅での看取りを決意していく体験	山田 紋子 林 みよ子
黒田 沙織	在宅看護学	要介護状態にある在宅高齢者の療養生活継続に向けた透析看護支援	富安 眞理 操 華子
小泉 祐貴	精神保健 看護学	精神科看護師の患者に対する怒りの感情とその対処	篁 宗一 山田 紋子
濱口 惣則	精神保健 看護学	公営住宅に居住する独居高齢者の主観的幸福感に関連する要因の検討～居場所感および社会的孤立との関連～	篁 宗一 富安 眞理

大久保 莉子	助産学課程	はじめて自宅出産を選択した経産婦の体験	藤田 景子 永谷 幸子
小林 樹里	助産学課程	A 市における産後ケア事業の利用の選択に関する実態調査	太田 尚子 畑中 純子
谷澤 南美	助産学課程	経産婦の産後入院から退院までの授乳場面で提供する支援における熟練助産師の判断	中川 有加 山田 紋子
中澤 瑤紀	助産学課程	友人からデート DV についての相談を受けた際の大学生の対応と困難	藤田 景子 篁 宗一
中嶋 真愛	助産学課程	熟練助産師の分娩第 4 期における判断と助産ケア	中川 有加 永谷 幸子
渡部 紗季	助産学課程	妊娠期の妻を持つ夫同士で語り合うことの体験	太田 尚子 篁 宗一

\*学籍番号順



## V. 学生生活

### 1. 学生定員および在学生数

#### 1) 学部

看護学部の入学定員は1年次120名、3年次編入学25名であり、収容定員は計530名である。

表 5-1-1 学部定員および学生数

	1年生	2年生	3年生	3年 編入生	4年生	4年 編入生	合計
学部定員	120	120	120	25	120	25	530
在籍者数	120	134	107	0	123	1	485
休学者数	0	14	2	0	1	0	17
退学者数	0	1	1	0	0	0	2

※在籍者数はR4年度当初、休学者はR4年度末、退学者数はR4年度内の数字

## 2) 研究科

看護学研究科博士前期課程の入学定員は16名、収容定員は32名、博士後期課程の入学定員は3名、収容定員は9名である。R4年度の博士前期課程在籍者数は、表5-1-2示すとおり、1年10名、2年15名であり、博士後期課程在籍者数は、表5-1-3に示すとおり、1年3名、2年4名、3年生2名である。

表 5-1-2 博士前期課程 定員および在籍生数

	1年生	2年生	合計
入学定員	16	16	32
在籍者数	10	15	25
休学者数	0	2	2
退学者数	0	0	0

表 5-1-3 博士後期課程 定員および在籍生数

	1年生	2年生	3年生	合計
入学定員	3	3	3	6
在籍者数	3	4	2	9
休学者数	1	1	0	2
退学者数	0	0	0	0

※在籍者数はR4年度当初、休学者はR4年度末、退学者数はR4年度内の数字

## 2.入学志願者数および入学者数とその背景

### 1) 学部

各入学試験志願者数（受験者数）を令和3年度→令和4年度で示すと、一般選抜前期176(165)→132(121)、一般選抜後期131(31)→146(27)、社会人選抜2(2)→3(3)、学校推薦型選抜59(59)→50(50)、編入学1(0)→1(1)であった。一般選抜の志願倍率は、後期は例年並みであったが、前期は1.38倍と昨年(1.90倍)より低下した。この倍率落ち込みを受けて、選抜方法や募集人員の内訳の検討を慎重に行う時期にさしかかりつつあると考えられた。

表 5-2-1 令和4年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	85	132	121	88	81
一般後期	5	146	27	9	8
推薦	30	50	50	30	30
社会人	若干名	3	3	1	1
編入学	25	1	1	0	0
合計	145	332	202	128	120

※県内出身の入学者は108名（編入生を除いて）

表 5-2-2 令和3年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	85	176	165	87	84
一般後期	5	131	31	5	5
推薦	30	59	59	30	30
社会人	若干名	2	2	2	1
編入学	25	1	0	0	0
合計	145	369	257	124	120

※県内出身の入学者は99名（編入生を除いて）

## 2.入学志願者数および入学者数とその背景

### 2) 研究科

令和4年度入試の入学志願者数（博士前期）は看護学研究科の一次募集において12名、二次募集において4名であった（延べ16名）。選抜区分としては一般選抜での出願者が12名で、社会人特別選抜での出願が4名であった。一次二次の合格者は発表後にいずれも入学手続きを行った。最終的な入学者数は12名であった。研究科全体としては志願者数が同数であった。また、なお博士課程の志願者は定員3名のところ出願者2名、合格者2名であった。選抜区分としては一般選抜での出願者が2名で、社会人特別選抜での出願が0名であった。合格者はいずれも入学手続きを行った。

表 5-2-3 研究科の入学志願者数および入学者数とその背景(上：博士前期、下：博士後期)

	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
入学志願者	12	8	9	21	16	15	16	14	16
入学者数	8	8	7	13	10	12	13	10	12
(うち社会人 特別入学)	(2)	(5)	(3)	(4)	(1)	(2)	(1)	(3)	(4)
	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度					
入学志願者	3	5	4	2					
入学者数	2	4	3	2					
(うち社会人 特別入学)	(2)	(3)	(1)	(0)					

### 3. 卒業・修了者の進路状況

#### 1) 学部

過去3年間の卒業後の進路を表5-3-1に示した。(令和5年3月31日現在)

表 5-3-1 学部卒業生進路

専門学校の助産師コース等に進学する卒業生については、「その他※」にカウントしている。

年度	性別	卒業者数	就職決定者数	就職活動中	その他	採用職種別			施設の場所		進学・留学
						看護師	保健師	その他	県内	県外	
令和2年度	男	8	8	—	0	6	2	—	8	0	—
	女	103	93	—	4	83	10	—	76	17	6
	計	111	101	—	4	89	12	—	84	17	6
令和3年度	男	7	7	—	0	5	0	2	6	1	—
	女	113	100	—	5	82	16	2	86	14	8
	計	120	107	—	5	87	16	4	92	15	8
令和4年度	男	7	7	—	0	7	0	0	7	0	—
	女	116	107	—	2	102	4	1	82	25	7
	計	123	114	—	2	109	4	1	89	25	7

## 2) 研究科

令和4年度は博士後期課程の完成年度であり、修了生は、博士後期課程2名、博士前期課程13名の合計14名である。修了後の進路状況は、助産学課程修了生5名は助産師、1名は看護師として就職、社会人修了生は、現職の継続が6名（看護師4名、教職2名）、教職1名、その他1名である。

表 5-3-2 修了後の進路状況

年度	修了生	採用職種別					進学 ・ 留学
		看護師	保健師	助産師	教職	その他	
平成25年度	7	1	0	2	0	4	0
平成26年度	12	1	0	5	3	3	0
平成27年度	11	3	0	7	1	0	0
平成28年度	7	3	1	3	0	0	0
平成29年度	4	1	1	1	0	1	0
平成30年度	13	2	0	8	3	0	0
平成31年度 (令和元年度)	12	3	2	7	0	0	0
令和2年度	8	0	1	5	1	0	1
令和3年度	11	1	1	7	0	0	2
令和4年度	15	6	0	5	3	1	0

#### 4. 免許・資格などの取得状況

過去3年間の新卒者の看護師・保健師・助産師の国家資格取得状況を表5-4-1に示した。令和4年度の全国合格率は、看護師90.8%（95.5%）、保健師93.7%（96.8%）、助産師95.6%（95.9%）であった。※（ ）は新卒者。

表5-4-1 免許・資格などの取得状況

年度	看護師	保健師	助産師
令和2年度	109/109	90/91	5/5
	(100.0)	(98.9)	(100.0)
令和3年度	116/119	94/97	7/7
	(97.5)	(96.9)	(100.0)
令和4年度	120/122	90/95	5/6
	(98.4)	(94.7)	(83.3)

（ ）内は合格者数/受験者数の百分率

## VI. 国際交流

### 1. 令和4年度国際交流等事業

昨年度に引き続き、今年度も6月中旬まで新型コロナウイルスのパンデミックにより渡航制限（海外実習、研修、視察など）が実施された。したがって、海外協定校であるタイ国立コンケン大学看護学部との交換留学は中止となった。しかし、政府発表により6月下旬にタイ含む複数国への渡航制限が解除されたため、9月にはコンケン大学看護学部へ次年度実習打ち合わせを実施することができた。また、例年同様にオンラインによる国際交流活動も活発に実施した。

#### 【交換留学会議・実習地視察ほか（タイ）】

根岸講師は9月4日～9日の期間、タイ国立コンケン大学看護学部にて国際交流担当教員たちと両大学における次年度の交換留学会議を実施した。本学部4年生の選択科目「国際保健看護実習」の実習施設としてシーナカリン病院、コンケン総合病院、地域の健康センターなども視察し、各施設の代表者と実習打ち合わせも行った。9月2日には本学の大学間協定を結ぶマヒドン大学の医学部を視察し、熱帯医学研究所の教員と次年度のCOIL授業の打ち合わせも実施した。マヒドン大学では、根岸講師が本学の国際交流委員として大学間協定の更新手続きも行った。

#### 【COIL授業開催とシンポジウムでの発表】

今年度は11回のCOIL授業を実施した。うち2は米国のCOIL提携校との授業であり、前年度に続き本学における今年度の学生参加目標を全て本学部で達成したことになる。本学の5ヵ年計画COILプロジェクトは今年度が最終年度であるが、本学部は5年連続で本学COILプロジェクトの数値目標に貢献してきた。

COIL授業では、本学部科目である「発展看護実習（選択）」と「卒業研究ゼミ（選択）」の履修生は4年生で、グループプレゼンテーションや対象大学の学生たちとのディスカッションなどアクティブラーニングをメインにした授業を展開した。「国際保健・災害看護論（必修）」「災害看護セミナー（必修）」の履修生は2年生、編入3・4年生である。2年生は授業後のリアクションペーパーを英語で記載し提出を課題としたが、95%以上の提出率であり、多くの学生は回数を経るに従い英語力の向上がみられた。

また、根岸講師は依頼にて、これまでのCOIL授業への取り組みと成果を①私立大学情報教育協会主催の「2022年度：私情教、教育イノベーション大会」（9月7日オンライン開催）と②COIL国際シンポジウム」（12月2日上智大学にて開催）でシンポジストとして講演した。



図1 令和4年度：看護学部 COIL 授業の日程

実施日	科目名	オンライン接続先	学生参加数
2022/05/12	卒業研究（国際看護）	カリフォルニア大学ロサンゼルス校看護学部（米国）	1名
2022/05/24	卒業研究（老年看護）	オレゴン健康科学大学看護学部（米国）	1名
2022/06/28	国際保健・災害看護論	コンケン大学看護学部（タイ）	115名
2022/07/06	国際保健・災害看護論	マーケット大学（米国）	120名
2022/08/28	卒業研究（老年看護）	オレゴン健康科学大学看護学部（米国）	1名
2022/10/11	卒業研究（国際看護）	コンケン大学看護学部（タイ）	2名
2022/10/18	卒業研究（国際看護）	コンケン大学看護学部（タイ）	2名
2022/10/28	発展看護実習 （国際看護）	カリフォルニア大学ロサンゼルス校看護学部（米国）	1名
2022/11/29	卒業研究 （国際看護・老年看護）	オレゴン健康科学大学看護学部（米国）	2名
2023/01/23	災害看護セミナー	カリフォルニア大学デイビス校（米国）	120名
2022/03/10	卒業研究（国際看護）	オレゴン健康科学大学看護学部（米国）	3名

参照：<https://www.us-coil.jp/jyugyou/>

### 【COIL 授業の取り組みについて国際学会発表が決定】

根岸講師はオレゴン健康科学大学（米国）と本学部の5年に渡るグローバル教育共同プロジェクトを実施してきた。令和3年度からは Wendy Hempstock 助教と上智大学看護学部の吉野八重准教授も同プロジェクトに参加した。根岸は、Hempstock 助教、吉野准教授とオレゴン健康科学大学看護学部教員2名と共同し、これらの取り組みを The International Council of Nurses (ICN)主催の学術集会（令和5年7月カナダ、モントリオール）で発表するべく10月末に抄録を提出した。その抄録は12月に採択が決定した。

### 【実習地開拓と COIL 提携校視察（インド）】

根岸講師は、3月25日～31日の日程で科学研究助成事業（若手研究：18K17430）「インド人看護師臨床教育支援プログラムの開発と日印看護師の協調的臨床環境の構築」の現地調査をインドのバンガロールに位置する Sakra World Hospital で実施した。その際、当該病院の看護部長に Krupanidhi College of Nursing を紹介され、大学と実習施設も視察した。Krupanidhi College of Nursing 学部長と次年度以降の COIL 授業の共同開催や今後の本学部生の実習施設の可能性についても話し合った。

## 2. 国際保健・看護実習

本年度実施なし。

## VII.看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動

### 1. 領域別の教育活動と地域貢献活動

#### 1) 専門基礎領域の活動

##### (1) 医学系教員の活動

###### <教育活動>

専門基礎分野は「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「人間と人間生活の理解」領域の科目で構成されている。「機能形態学」「生物化学」「症候論」「病態学」「健康環境論」など、看護の基礎となる病態理解に力点を置いた講義を展開している。1年生から2年生にかけて、医療の基礎となる解剖学（正常生体構造）・生理学（正常機能）からはじまり、“病氣”を症状別、疾患別に、表在理学変化から臓器病理まで多面的に、かつきめ細かく解説し“テーラーメイド医療”の一員としての自覚・自信を身につけることを目的とした授業を行っている。さらに、講義だけではなく、自らの手で科学的事象を再現し証明する実習（「基礎健康科学演習」）、ならびに、1・2年次に学んだ基礎医学系科目と基礎看護系科目の知識を統合する演習（「基礎セミナーII」）を行った。COVID-19感染症への対策も講じて、今年度の講義・演習は基本的には対面形式で、また感染状況によっては一部、オンライン形式で実施された。「基礎健康科学演習」では、人の健康状態を多面的に判断できる能力を実践的に身につけることと、人の健康に影響を与える身の回りの病因を知り対応できる能力を養うこと、また今後の看護実践に必要な科学的実証方法および思考方法を習得することを目標に実験実習の指導を行なっている。組織標本を用いた顕微鏡観察、ラットの解剖と観察、血球細胞の標本作製と観察などの解剖学と、心電図測定、血液・尿検査、経口ブドウ糖負荷試験（OGTT）などの生理学・検査法、放射線の種類と防護方法（距離、遮蔽、時間の三原則）などの環境実験、微生物の染色検査や鼻腔中ならびに手指中の微生物の検出などの微生物学に関する実験を対面で、また呼吸機能検査、抗微生物薬の効果判定などの実習項目についてはオンデマンド形式で実施した。今年度は実習テキストを全面的に見直し、目的、方法（実習の進め方）、結果と考察の記述方法についてわかりやすく記載し、学生がより主体的に学び、実習を進めていけるように工夫した。「基礎セミナーI」では、大学での学習活動における基礎力の養成を目指して、論理的文章の書き方、文章表現やレポート作成方法、スライド発表に関する基礎教育を講義およびグループワーク演習により実施した。また、「基礎セミナーII」では、臨床で得られる情報を看護者の視点から分析し看護実践に反映させる基礎能力を習得する目的で、症例を用いて医学的側面から症例把握、鑑別診断のプロセスを実施し、看護アセスメントにつなげるよう工夫している。また、今年度は日本人患者ならびに外国人患者への対応について、模擬医療面接（問診）を実施して、学びを深めた。さらに、英語論文要旨の読み方のポイントを解説した。

### <地域貢献活動>

堀、濱井の地域貢献活動については保健学領域を参照のこと。ヘムストックは、高校生のための、英語又は科学の発表及び質疑応答のセミナーに参加した。

#### (2) 保健学系教員の活動

### <教育活動>

保健学分野は『健康支援と社会保障制度』の「公衆衛生学」「社会福祉論」「保健福祉行政論」「保健医療統計学」「情報処理演習」「疫学」の科目で構成されている。学生が興味を持ちモチベーションが低下しないように、できる限り日常の問題に関連づけて解説することを心がけている。具体的には、出生率の低下による少子高齢化、生活保護受給者の増大、環境汚染、エボラ出血熱、インフルエンザや COVID-19 の流行、食中毒など社会問題となっている事象を取り上げて講義に導入としている。今年度の講義・演習は基本的には対面形式で、また COVID-19 の感染状況によっては一部、ハイブリッド方式（対面とオンラインの組み合わせ）、オンライン方式で実施した。講義終了後のリフレクションや演習問題を提出することによって授業内容の理解を深めてもらう工夫をしている。

### <領域で行っている地域貢献活動>

堀は、加茂地区 1 市 5 町と共同で実施する静岡多目的コホート事業の住民健康診断において、認知機能検査や咀嚼力検査を行い、住民の健康情報を把握し、地域の健康づくりに取り組んでいる。

濱井は、沼津市開発審査会委員として、市街化調整区域内における、公共公益施設の建築等について審査した。また、静岡県医療通訳者養成講座の講師ならびにコーディネーターを務め、静岡県ならびに静岡県国際交流協会と協力して医療通訳体制づくりに取り組んでいる。さらに、外国人患者受入れ拠点病院である磐田市立総合病院で医療通訳に関する調査を実施し、情報を提供している。

#### 2) 環境看護学領域の活動

### <教育活動>

#### 看護学部

##### ①担当した授業の特徴

環境看護学は、看護学と基礎医学をつなぐ位置づけで配置された部門である。教員は、教授 1 名であるが、専門基礎医学領域の教員と連携して授業運営を行った。

具体的には、機能形態学 I・II、病態学、基礎セミナー、基礎健康科学演習等の科目を

担当している。大学に入学した学生が看護を目指す上で習得しなければならない専門基礎医学が看護学にどのように繋がっていくかを示しながら授業を構築している。病態学において、各非常勤講師がどのような内容の講義でどのような部門を学習しているか実態を把握し、非常勤講師を派遣していただいている静岡県立病院機構静岡県立総合病院との調整を行い、看護学生が実習で数多く担当することがある専門医を派遣していただいた。学生の授業評価からも満足度が高い評価が得られた。選択科目である看護アセスメント演習アドバンスにおいては、すでに学部科目を履修した学習内容を踏まえ、症例をもとに思考を展開し、実技の再習得を諮った。

## ②実習について

4年次の統合分野に位置づけられる発展看護実習では、発展看護実習Ⅰは、「看護師の臨床判断とアセスメント」、発展看護実習Ⅱは、「地域連携を軸にした看護師の臨床判断とアセスメント」をテーマとして実習した。静岡赤十字病院およびしずおか日赤訪問看護ステーションの協力により、病院と在宅を中心に実習を展開する中で看護師の臨床判断について学習することができた。コロナ下で実習が難しい時期の中、3年次にほとんど実習ができなかった学生たちの実習を補足するように、熱心に、訪問指導等を行っていただいた。組織・地域全体をアセスメントする体験等によって、学生は各テーマにおいて看護の専門性を探求する場となった。

## 大学院看護学研究科

基盤看護学領域では基盤看護学分野を担当したが学生の受け入れはなかった。令和2年度より開設された博士課程後期においては、共通科目の生体環境科学特講の担当であるが、履修者がいなかったため今年度は未開講であった。

## <地域貢献活動>

2015年より看護師特定行為研修の指定研修機関である国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻特定行為看護師養成分野の特定行為研修管理委員会委員として継続して活動している。また、2017年より静岡済生会総合病院の地域医療支援病院運営委員会委員を継続して担当した。2021年より、公益社団法人有隣厚生会富士病院が実施する特定行為研修指導者講習会の講師として年に2回活動した。また、2022年9月には、東海北陸厚生局が主催する「令和4年度看護師の特定行為研修説明会」において、看護師の特定行為実践の実際～指定研修機関の立場から～という内容で講演を行った。

### 3) 基礎看護学領域の活動

#### 基礎看護学領域

##### <教育活動>

##### ① 授業運営について

今年度より令和 4 年カリキュラムがスタートし、1 年次は新カリキュラムで授業運営した。1 年次開講科目は、看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護コミュニケーション論、基礎看護学実習Ⅰで、一部の学生に対し、1 年次授業科目を平成 30 年カリキュラムで開講した。2 年次は、引き続き平成 30 年カリキュラムで進行しており、看護アセスメント演習、看護アセスメント実習を開講した。原則対面授業を行ったが、COVID-19 感染拡大の影響により、講義科目はオンライン受講を交えたハイブリッド対応を行った。演習科目は特に感染に留意しつつ、学習内容と展開方法を検討しながら運営した。

異なるカリキュラムが並行し、過年次生を含む学年進行のなか、非常勤等により指導人員を確保しながら、教育の質と学生の学習効果の担保に努めた。授業資料を作成し、授業前一括配布や事前配布を行い、学生の学習環境を整えた。その他、演習要項の作成、模範技術の収録、e-learning の活用等、学生の学習効果が向上するよう工夫した。

##### ② 実習について

基礎看護学領域における実習は、1 年次「基礎看護学実習Ⅰ」（1 単位）、2 年次「看護アセスメント実習」（2 単位）、4 年次「発展看護実習」（1 単位）である。

「基礎看護学実習Ⅰ」は、平成 30 年度カリキュラム「看護コミュニケーション実習」を引き継いだ科目であり、コミュニケーションに特化せず、入院している患者の療養生活を知り、看護援助の実際について理解を深めることを目的とした実習である。1 年生 121 名が履修した。今年度は各実習施設との協議により、1 日に臨地実習を行う学生数を静岡病院は 24 名（6 名×4 病棟）、赤十字病院は 16 名（4 名×4 病棟）とし、週 1 回の隔週実習の内訳を臨地 2 日・学内 1 日とした。また、最終日の成果発表会を中止し、学内実施の看護部講義に当てた。2 日間の臨地実習は、1 日ずつ異なる病棟配置となったが、学生は看護の実際を見学して、患者ともコミュニケーションを図ることができた。初の試みとなる病棟・学生配置であったが、学生は、昨年より 1 日多く臨地実習を経験することができ、一定の実習目標を達成することができた。

「看護アセスメント実習」は、2 年生 124 名が履修した。6 月からの前半実習では、隔週 3 日間の実習を行い、9 月には、前半実習と同じ病棟で 1 週間の後半実習を行った。前半実習では、看護師の観察の視点やアセスメントの実際について理解することを目指し、看護実践への参加、患者とのコミュニケーションを体験した。後半実習では、学生は原則一人の患者を受け持ち、看護過程の展開、フィジカルイグザミネーションを行った。教育用模擬電子カルテを用いた学内実習を行ったことで、受け持ち患者の情報収集における困難感が軽減された。新型コロナウイルス感染拡大の影響で病棟編成に変更があったため、実習病棟・学

生配置を変更し、予定通りの日程で臨地実習を行うことができた。実習目標は概ね達成することができた。

「発展看護実習」では15名が履修した。実習目的は、昨年度に引き続き「看護職の専門性の高い役割・機能について、主体的に実習を行う。病院の看護単位における看護管理を学ぶ。」ことである。事前に看護部と打ち合わせを行い、実習方法や指導体制を調整したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、臨地実習を全て学内実習に振り替えることとなった。実習前半は、看護管理に関する文献検索と実習の事前学習を行い、自己の今までの実習経験や事前学習から「病棟の特性に応じた看護職の専門性」「看護師の役割に応じたマネジメント」についてのレポートを課した。後半実習は、看護部との同時双方向オンラインを試み、師長、リーダー層看護師、スタッフ看護師それぞれの立場から、実習目標を視点到に自身の看護実践についての講義を受けた。最終日もオンラインで看護部と学びの場を共有し、グループごとのプレゼンテーションを行った。師長、リーダー層看護師、スタッフ看護師が学生カンファレンスに参加し、臨地実習は叶わなかったものの多くの学びを得ることができ、実習目標を達成することができた。

#### <地域貢献活動>

##### 永谷幸子

日本看護医療学会の事務局員として活動した。看護学部附属看護実践教育研究センター主催の地域貢献事業講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」に主担当者として企画から当日運営までを担った。また、静岡県立大学小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室主催、看護学部附属看護実践教育研究センター共催の講座「これからの女性の健康を考えよう」に企画から当日運営までの分担者として参加し講義を行った。

その他、静岡社会健康医学大学院大学の客員研究員として静岡多目的コホート事業に参加した。また、静岡県看護協会教育研修で講師を勤めた。日本看護医療学会および日本循環器看護学会、日本看護協会の査読委員の委嘱を受け活動した。

##### 山口みのり

静岡大学非常勤講師を兼務した。学会では、日本看護学教育学会教育活動委員として委員会活動・臨地実習指導研修会の企画運営、日本看護研究学会査読委員、日本看護医療学会第24回学術集会監事・教育講演Ⅱ座長、第33回日本医学看護学教育学会学術集会企画委員・査読委員を行った。その他、県外病院施設にて継続教育の研修講師を行った。

##### 加藤京里

静岡県看護協会学術研究推進委員会委員として会議への参加、研修の企画を行った。また、第11回静岡県看護学会の企画、運営に携わり、演題の査読を担当した。県内の看護職向け教育研修会の運営に携わった。一般社団法人日本看護技術学会技術研究成果検討委員会「温泉法班」として、全国キャラバン研修会の運営に参加した。看護学部附属看護実践教育研究センター主催の地域貢献事業講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」に企画から当日運営ま

での分担者として参加した。

#### 管原清子

静岡市立静岡病院および静岡市立清水病院の地域医療支援委員として委嘱を受け、会議に参加し、地域医療や病院運営、感染対策に関する意見交換を行った。また、静岡市立清水看護専門学校のエデュケーション編成委員として会議に参加し、教育課程に関する意見交換を行った。8月に実施された静岡県立大学小笠原キャンパス健康支援センター女性健康相談室主催、看護学部附属看護実践教育研究センター共催の講座「これからの女性の健康を考えよう」に企画から当日運営までの分担者として参加した。また、9月に実施された看護学部附属看護実践教育研究センター主催の地域貢献事業講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」に企画から当日運営までの分担者として参加した。その他、日本看護協会の査読委員として活動した。

#### \* 高大連携出張講義

永谷：静岡県立沼津西高等学校

山口：静岡県立三島北高等学校

加藤：富士市立高等学校

管原：静岡県立静岡東高等学校、静岡県立清水南高等学校

## 4) 成人看護学領域の活動

### <教育活動>

#### 成人看護学領域(学部)

##### ① 教育目的および目標

成人看護学領域における教育目的は、成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する人々とその家族を対象者とし、根拠に基づいた系統的な知識、技術を適用して、対象者の健康障害の悪化予防・回復促進・緩和に働きかけ、可能な限りその人らしい生活と人生(life)が送れるよう援助できる能力を持った人材の育成を行うこととしている。

そのような教育目的の達成を目指して、以下の教育目標を挙げている。

1. 成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する対象者を、解剖・病態生理学的知識や諸理論・概念に基づき身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。
2. 成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する対象者に対して、自ら判断して主体的に行動することにより、根拠に基づいた知識・技術を適用した援助ができる能力を養う。
3. 保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、他専門職と協働できるための基礎的能力を養う。

## ② 講義および演習

本領域では、2年次配当科目である慢性看護学概論(2単位)と慢性看護援助論演習(1単位)、3年次配当科目である急性期看護学概論(2単位)、急性期看護援助論演習(1単位)の計4科目(6単位)を教授している。

慢性看護学とは、がん、生活習慣病、難病などを含む慢性疾患を有する人びととその家族を対象とし、診断・治療導入期から終末期までのさまざまな健康レベルに対する看護である。概論および演習を通して、対象者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、看護を実践するために必要な諸理論や概念・技術を理解し、その実際を学ぶ。

急性期看護学とは、緊急度・重症度の高い健康問題によって短時間に健康レベルが低下した人びととその家族を対象とし、身体侵襲や心理的危機からの早期回復を目的に行う看護である。概論および演習を通して、対象者の健康問題の特性、看護の基盤となる理論、科学的根拠に基づいた看護援助に必要な系統的な知識・技術を理解し、その実際を学ぶ。

## ③ 実習

「慢性看護学実習」、「急性期看護学実習」、「臨床シミュレーション EBN 実習」の3つの実習を行っている。各実習は2単位であり、1クールを2週間としている。

「慢性看護学実習」と「急性期看護学実習」は3年次後期に配当されている科目である。今年度の履修生はそれぞれ105名、104名であり、計36グループ、36クールの実習を行った。実習施設は静岡県立静岡がんセンター、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、静岡てんかん・神経医療センターの5ヶ所とした。コロナ禍での実習であることを鑑み、各施設の看護部および実習部署と密に連携しつつ行い、全クールを臨地で実施することができた。

「臨床シミュレーション EBN 実習」は4年次前期に配当されている科目であり、実習施設は静岡赤十字病院である。今年度の履修生は122名であり、21グループ編成とした。実習内容としては1グループを1~2チームに分け、チーム毎に、受け持ち患者に対する EBN(Evidence-Based Nursing)に基づく看護過程の展開と臨床判断能力の育成を目的に高機能シミュレータを用いたシミュレーションを行った。コロナ禍での実習であることを鑑み、看護部および実習部署と密に連携しつつ行った。

## 成人看護学分野(研究科)

成人看護学分野は、慢性看護学、急性看護学、がん看護学の3看護学を包括し、本分野の学問的多様性と学生の研究ニーズに対応できる指導・支援体制を取っている。学生自身の看護実践と向き合ったうえで独自の看護現象を捉え、そこでの課題や問いを明確にし、既存の研究手法の適用、さらには新たな方法論の開発にも挑戦しつつ、対象の理解と実践を支える新しい知見の発見とその構築に取り組んでいる。研究科の学生は、この過程をそれぞれの特論(各看護学での研究に必要な基本的理論の理解)、応用演習(各現象への基本的理論の適用と評価、基本的理論の実践での個別適用とその長所と限界の検討)を通して学び



つつ、修士論文としてまとめる。

今年度、本分野には博士前期課程 1 年 1 名、2 年 2 名、博士後期課程 2 年 1 名の学生が在籍した。

#### <領域で行っている地域貢献活動>

##### 山田 紋子

静岡県立総合病院の臨床研究倫理委員会および看護部臨床研究倫理委員会の外部委員を務めた。日本看護診断学会の理事・専任査読委員・編集委員、第 28 回日本看護診断学会学術大会の企画委員・教育研究実践セミナー「ケアの受け手と医療者の視点から現象を理解すること」の講師として活動した。また、静岡県看護協会が主催する令和 4 年度静岡県看護職員実習指導者等講習会における「領域別実習指導(成人)」、研修「効果的なプレゼンテーション技法」の講師を務めた。

##### 田中 範佳

Sigma Theta Tau International, Honor Society of Nursing の助成金審査委員、The 34th International Nursing Research Congress、47th Biennial Convention の学会査読委員、Virginia Henderson Global Nursing e-Repository の査読委員、Journal of Perioperative Practice の編集委員会委員・査読委員として活動した。

看護実践教育研究センターにおいて、看護師特定行為研修の講義、演習を担当した。

##### 林 みよ子

日本クリティカルケア看護学会の理事及び専任査読委員、日本救急看護学会・日本看護研究学会・日本赤十字看護学会・日本看護診断学会の各専任査読委員として活動した。

静岡県看護協会主催の令和 4 年度認定看護管理者ファーストレベル教育課程受講審査委員及びファーストレベル教育課程 (5 月開講・9 月開講の 2 回)「看護チームのマネジメント」の講師、静岡県立総合病院の看護部において看護師の研究活動の年間個別指導の講師を務めた。

看護実践教育研究センターにおいて、リカレント講座では「看護職のための看護研究セミナー 1 (看護研究の基礎)」の講師を務め、看護師特定行為研修では「地域在宅療養支援 (脳卒中療養者・家族)」と「課題研究」の講義、臨地実習における事前学習・実習まとめや課題学習のまとめの指導を行った。

静岡県立大学の高大連携事業で、静岡県富士宮西高等学校で出張講義を行なった。

##### 前野 真由美

静岡県立大学 令和 4 (2022) 年度地 (知) の拠点 (COC) 事業 地域を志向した研究「在住外国人の終末期 (もしものとき、エンディング) ケアを考える」会を、静岡市地域福祉共生センター「みなくる」にて開催した。

静岡県在住の大学教員、医療従事者、医療通訳経験者らと共に、外国人の終末期ケアに繋がるよう 6 言語の終末期 (もしものとき、エンディング) ケア「みせてお話し」ノート

を作成した。平成 29 年度科学研究費助成事業（科学研究費基金）基盤研究（c）17k09207「在住外国人の終末期ケアの在り方に関する研究」（研究代表者 前野真由美）の研究費を活用し作成し、静岡県立大学 令和 4（2022）年度 地域を志向した研究「在住外国人（もしものとき、エンディング）ケアを考える」会にて発表した後、静岡県立大学ホームページに、フリーダウンロードできるように掲載した。

静岡県立大学の高大連携事業で、静岡県焼津中央高等学校で出張講義を行なった。

#### 中岡 正昭

看護実践教育研究センターによる看護師特定行為研修において、急性・重症患者看護専門看護師として臨床病態生理・臨床推論およびフィジカルアセスメント、医療安全の講義・演習を担当した。

穂の香看護専門学校において「救急看護」の講師を務め、浜松市社会福祉事業団友愛のさと診療所において「小児の緊急時対応について」の講師を務めた。「令和 4 年度静岡市地域防災訓練」のため、静岡市小鹿自治会の「AED を使用した救命活動訓練」の講師を務め指導を行った。

静岡県立大学の高大連携事業で、静岡県富士東高等学校で出張講義を行った。

#### 鈴木 郁美

12 月 4 日「令和 4 年度静岡市地域防災訓練」のため小鹿 3 丁目自治会の AED を使用した救命活動訓練の指導を行った。

## 5) 老年看護学領域の活動

### <教育活動>

#### ① 授業の特徴と昨年度より変更した点

老年看護学領域では、老年期にある対象者の生活および加齢に伴う身体的・心理的・社会的特性を理解し、老年看護の基本的な理念と援助、今後の保健・医療・福祉における施策の方向と看護の役割について考えることができることを目標としている。

科目は H30 カリキュラム：「老年看護学概論」、「老年看護援助論」「老年看護学演習」で構成されている。COVID-19 感染症予防のため、老年看護学演習は、密にならないように講義室と実習室に分散して行った。登校できない学生には、teams を活用しハイブリットで講義を受けられるようにした。また学習ノートを活用した自己学習を推奨した。

内容としては各科目を通して、個々の高齢者の価値観を尊重する必要性を強調するとともに、高齢者看護を実践する上で必要となる基本的知識として、加齢現象や高齢者特有の症状の現れ方、認知症等の理解ができるようなものとした。また演習では高齢者の健康問題を抽出し、強みを活かし生活の質（Quality of Life）の確保と向上に資するような看護過程展開及び高齢者の倫理的課題について討議、高齢者疑似体験、口腔ケアを中心とした看護技術を教授した。

## ② 実習について

老年看護学実習Ⅰ（2単位）は、3年次105名が履修した。今年度は、回復期リハビリテーション病院と療養型病院を実習施設とし、4施設（静岡リハビリテーション病院、甲賀病院、静岡リハビリテーション病院、小鹿病院）にて実施した。

本年度も COVID-19 感染症拡大防止のため、実習時間短縮や学内実習への切り替えがあった。隣地実習を行った学生は、受け持ち高齢者や実習指導者と積極的に関わることができ、学内実習を行った学生は病院からの事例提供を通し、看護過程展開を丁寧に行うことで高齢に対する看護について学ぶことができたと考える。また、最終日の学内での学びの発表を通して、健康障害をもつ高齢者が望む生活支援、多職種の連携のあり方、看護職の役割について考察を深めることができた。

老年看護学実習Ⅱ（1単位）は、105名が履修した。介護老人保健施設の通所リハビリテーション部門にて実習を行い、在宅での高齢者支援として、要介護状態の悪化防止や介護予防をめざした支援のあり方について学修した。実習施設は、介護老人保健施設6施設（エスコートタウン静岡、ケアセンター池田の街、アリス草薙、あみ、星のしずく、ケアセンター瀬名）にて実施した。COVID-19 感染拡大のため6名の学生は午前中のみの実習、6名の学生は1～2日学内実習に切り換えたが、全員が臨地での実習を経験できた。実習最終日の発表会にて、実習施設での実習、学内実習ともに、在宅高齢者に関わる多職種間の連携や高齢者看護のあり方や役割について考察を深めることができたことが確認できた。

## <領域で行っている地域貢献活動>

### 老年看護学領域

1) 健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、「予防医学で元気ハツラツ！口腔体操と旬の野菜でいつまでも健康に」というテーマで地域在住の高齢者を対象に「来・て・こ」にて健康講座を実施した。

### 成瀬早苗

- 1) 看護実践教育研究センター主催 地域貢献事業「イキイキと高齢期を過ごそう！」というイベントで企画と当日運営を行った。
- 2) 静岡社会健康医学大学院大学の客員研究員、静岡県立大学コホート研究支援ワーキンググループとして、静岡コホート研究「かもけん！事業」に参加し、調査を実施した。
- 3) 社会福祉法人駿府葵会特別養護老人ホーム久能の里の第三者評議員を務めた。
- 4) 静岡市介護認定審査委員を務めた。

### 飯塚真樹

1) 看護実践教育研究センター主催 地域貢献事業「イキイキと高齢期を過ごそう！」というイベントで企画と当日運営を行った。

### 宮澤典子

- 1) 静岡難病ケア市民ネットワークの補助会員として運営会議に参加するとともに、静岡市の難病患者の外出支援やチャリティーコンサートの運営を行った。

## 6) 小児看護学領域の活動

### <教育活動>

#### 学部における教育活動（講義）

COVID-19 感染防止策を取りながら、2 年生後期の「小児看護学概論」、3 年生前期の「小児看護学援助論」の対面講義を行った。自宅待機あるいは療養中などの学生に対してはハイブリッド形式による対面講義と並行したオンライン授業を展開した。4 年生の「卒業研究」では、学生自らが持つ看護への課題を明確化し、リサーチクエストにつなげられるような指導や、卒業研究発表会に向け PowerPoint を使用したシミュレーション発表を指導した。

#### 学部における教育活動（演習）

3 年生を対象とした「小児看護学演習」では、感染拡大を予防する対策を徹底し、参集型の演習を実施した。昨年同様に特別講師として、静岡県立こども病院地域連携室の看護師長及び MSW を招聘し、こども専門病院における看護実践や多職種連携について学び、短期大学部との学部間協力員である松平千佳准教授の協力を得て、小児看護に重要なプレパレーションについて学習する機会を設けた。演習体制の工夫としては、2 つの演習室を確保し、1 つの演習室に 2 名の小児看護学教員を配置し、小児看護学概論や小児看護学援助論での学びを想起したリフレクションをタイムリーに行った。グループワークによる看護過程の検討では、学生間のエンパワーメントの場になっており、思考過程を深めることができていた。これらの学習支援により、前年度課題として懸念された実技に関する習得への不満足感は解消できたが、DVD やモデル人形での学習は、実習先で見られる実際の小児患者の行動や態度をイメージするには不十分であり、来年度は模擬患者の検討も必要である。また、子どもの病状や状況（行動）に合わせた看護記述の体験や観察内容の言語化、介入方法のアセスメントを少しでもリアルに思考できる学習内容や支援の工夫が必要である。

#### 学部における教育活動（実習）

コロナ禍 3 年目の小児看護学実習を行うにあたり、実習学生（3 年生）の 96%が 3 回目のワクチン接種を行っており、小児は重症化しないという特徴もあることから、全ての学生が通常通りの臨地実習を行うことができた。実習施設である静岡県立こども病院の実習指導体制は、実習指導者が学生専属であるため、学生は相談しやすく、学生の実習アンケートの結果からも臨床指導者に対する評価は非常に高かった。また、「今回の実習で知的好奇心が刺激され、学習意欲が上がった」「実習全体を通して今回の実習に満足している」ことについても評価が高かった。なお、小児は回復も早いが悪化するスピードも早いという特徴が

あることから、小児看護学実習においては「成長発達段階に応じた正確なバイタルサイン測定の実施」「子どもの健康状態の観察の仕方」について、全ての学生が十分学べているとは言い難く、確実に学べるように実習指導していく必要がある。

4年生を対象にした「発展看護実習」では、将来の活動の場を小児看護領域で考えている学生が多いことを考慮し、静岡県立こども病院で1週間「多重課題に関する学習」と「小児医療におけるチーム医療の学習」を行った。また、地域における「多職種連携の活動の場での参加学習」も行い、病院以外の小児看護活動の場についても学習を深めることができた。

#### 研究科における教育活動

博士前期課程の学生を対象にした「看護倫理特論」と「実践看護特論Ⅳ」、博士後期課程の学生を対象にした「看護学研究特講」と「小児看護実践開発特講」を担当した。

また、小児看護を専攻する博士後期課程の学生（1名）の研究指導を行った。

#### 看護実践教育研究センターにおける教育活動

医療的ケアを必要とする子どもの在宅支援を強化する必要があり、今年度、特定行為研修生に対し、「在宅における子どもの成長発達支援論」と「在宅における子どもの看護演習」を小児独自科目として新設し、企画運営した。

#### **<領域で行っている地域貢献活動>**

##### 山下早苗

実習施設である「静岡県立こども病院」看護部と協働し、CCU病棟や北4病棟で開催する看護倫理カンファレンスに2回/月参加し、倫理カンファレンス運営やファシリテータ教育に携わった。また、クリニカルラダーレベルⅢにあたる看護師を対象に「看護研究」の講義や演習、研究指導を行った。

山梨県立大学研究科の非常勤講師を継続し、「看護倫理」の授業を担当した。

「看護科学研究」雑誌の編集委員および「日本看護学雑誌」「日本看護倫理学会誌」「日本放射線看護学会誌」の査読委員を継続担当し、研究支援を行った。

日本看護倫理学会第15回年次大会（5月開催、沼津市）における企画委員・実行委員を担当した。

##### 鈴木和香子

静岡市医療的ケア児等支援協議会の委員として、静岡市内の医療的ケア対象児の就学、家族問題、人工呼吸器を装着した児童の通学問題など課題の取り組みを中心に年4回討議を行った。

がん患者やその家族、支援者らが24時間リレーを行うイベントのリレー・フォー・ライフジャパン静岡2022実行委員としてイベント運営にかかわった。また、がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業・静岡県対がん協会ピアサポーター養成研修の研修会内において、「模擬相談」でピアサポーターとしての実際や体験を学ぶための演

習を担当した。

静岡県教育委員会学校教育課特別支援教育室から依頼を受け、3月（継続看護師対象）、4月（新任看護師対象）、年2回にわたる看護師研修の企画・開催を行った。

静岡県看護協会主催の「静岡県専任教員養成講習会運営委員会の委員として、講習会のカリキュラム、講義内容、受講者の合否判定、などの運営にかかわった。

その他、静岡県立看護学校の非常勤講師、伊豆の国市子育て支援技能講習会講師、静岡県小児保健協会の実行委員兼事務局、難病の子ども支援全国ネットワークの静岡実行委員、HPS国際シンポジウムの実行委員、富士市保育士キャリアアップ研修会講師、日本看護学会誌査読委員、静岡市中央子育て支援センターの講座の講師、高大連携出張講義などの活動をした。

#### 池田麻左子

静岡県立こども病院看護部に所属し、嘱託看護師としての兼務の継続を行った。豊橋創造大学保健医療学部看護学科のゲストスピーカーとして看護学部2年生約80名に対し、小児臨床看護学「障害のある子どもと家族への看護」について特別講義を行った。岐阜県立大学大学院の非常勤講師としてCNSコースの大学院生2名に対し、「小児看護アセスメント論」の講義を実施した。

地域貢献として、静岡市静岡中央子育て支援センターの事業に参画し「子どもの日常における事故に関する講座」の講師、県立特別学校看護師等研修会（継続看護師対象）演習の講師を務めた。

その他、小児看護専門看護師の活動として、商業誌の執筆、小児看護に関する学会や専門看護師会等が開催する学術集会及びセミナーでの講師やファシリテーター、せいれい看護学会の評議委員を担った。

#### 丸山始美

第22回中部小児がんトータルケア研究会がWeb開催され、一般演題カテゴリー2の「家族支援」の座長を担った。

静岡県立こども病院のがん化学療法認定看護師らとともに、こどものACPの向上委員会を運営した。県立総合病院、横浜こどもホスピス、浜松医科大学付属病院の看護師やスタッフを含めてACP検討会議を3回/年行い、その中で「こどもの死の概念に発達・こどものACP」の講義を担当した。また、静岡県立こども病院における「終末期小児がん患者における意思決定指針」の作成を支援した。

静岡県立こども病院から依頼を受け、「令和4年度第2回化学療法定期講習会」にて、「こどものアドバンスケアプランニングについて」の講習を実施した。

静岡県教育委員会学校教育課特別支援教育室の依頼により、3月に県立特別学校看護師等研修会（継続看護師対象）が開催され、演習支援（BLS・AED担当）を実施した。

ベルギー使節団の本学部視察時の小児看護学の紹介や、タイ国コンケン大学のこども病院の視察における引率同行を行った。

## 梁川 明

2022年6月25日（土）静岡県立大学小鹿キャンパス講義室で行われた看護実践教育研究センター主催の看護研究セミナーの運営について、準備・片付け・資料配布など軽作業の支援を行った。

2022年8月13日（土）～14日（日）広島県フェモフィリア友の会における血友病患者を対象としたサマーキャンプにおいて、賛助会員として参加し、患者家族に対して在宅自己注射指導の支援を行った。

2022年9月21日（水）静岡県立大学小鹿キャンパスカレッジホールで行われたNPO法人ぴゅあ・看護実践教育研究センター共催のこども未来キックオフトークに関するコーディネーター業務を支援した。

タイ国コンケン大学のこども病院の視察における引率同行を行った。

## 7) 母性看護学・助産学領域の活動

### <教育活動>

#### (1) 学部 母性看護学

セクシュアリティの視点から健康を考えられる学生を育てるため、今年度から、1年生を対象に専門基礎分野の科目「身体と心のセクシュアリティ」を開講した。セクシュアリティの概念・多様性・発達、性意識・性行動、プレコンセプションケア、性感染症、人工妊娠中絶、性暴力などの内容で、7名の教員が担当しオムニバル形式で実施した。各回、ディスカッションの時間を設けて、活発な意見交換が実施できた。学生の関心は高く、大変好評であった。

母性看護学領域では、性と生殖の側面から人間の健康課題を査定し、健康の維持増進、疾病予防に向けた健康教育、看護ケアの考え方、ケア方法について教授している。担当講義科目は、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習である。母性看護学は、2年次に概論的な講義から基礎知識を学び、3年次には各論的な講義から専門的な知識へと段階を追って学びを深めた上で、演習を通して思考過程および基礎的な技術の習得を行い、実習で統合するという流れで組み立てている。今年度は、COVID-19感染対策の下、主に対面での講義・演習を実施し、学生の状況によって、Microsoft Teamsを用いたオンラインライブ講義＋LMS方式を併用して行った。

母性看護学概論では、母性看護学の対象となる女性および家族に目を向けた健康課題や法的制度にも関心を持って関わられるような講義を展開した。女性特有の疾患に関する病態や治療、生殖の生理について、現場で活躍している産婦人科医師による講義から診断技術について理解を深めた。そして、性感染症、不妊症、出生前診断など、報道等でも目にする機会の多いテーマを学生自らが選択し、文献学習を経て自分の考えをレポートにまとめた。また、セクシュアリティに関する問題を身近に捉えるために、開業助産師による性教育の実際

についての講義を実施した。

母性看護援助論Ⅰでは、生殖の生理から、正常、異常を含めた妊娠・分娩・産褥経過について現場で活躍している産婦人科医師による講義を組み入れ専門的な知識の修得を図った。母性看護学担当教員は、母親になることへの支援に向けて、産褥経過や新生児に関する概論的な知識と母子相互作用からみた母乳育児支援についての講義を実施した。

母性看護援助論Ⅱは、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期、母乳育児支援について、4名の担当教員により、オムニバス形式で講義を実施した。看護過程は、事例を用いながら個人による課題学習を進めると共に、看護過程の展開への理解を深めるため、教員が学生一人ひとりの看護過程を添削した。

母性看護学演習では、担当教員が、各技術項目の内容、デモンストレーションの見やすさ、指導について事前に検討し、褥婦の健康診査、新生児のフィジカルアセスメントと沐浴、産後に必要な癒しケアとして足浴とハンドマッサージ、母乳育児支援のための適切なポジショニングとラッチオンに関して演習を実施した。健康教育では、グループで企画・進行・媒体作成、健康教育の実施とその評価までの一連のプロセスを体験し、グループ発表することにより学びを深めた。

母性看護学実習は、2週/1クール5~6人の学生が実習を行った。実習施設は、昨年度に引き続き静岡赤十字病院、静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院の6か所であった。COVID-19の影響のため、焼津市立総合病院は、学生3名まで病棟実習可という人数制限があったため、学生は3名ずつ1週間交代で臨地実習と学内実習を行った。静岡赤十字病院での実習は、午前中臨地実習を実施し、帰宅後 Teams によるオンラインでカンファレンスを行った。藤枝市立総合病院は、3グループの内、1グループが COVID-19 感染の影響により1週間で臨地実習が終了となり、2月前半に追加で1週間学内実習を実施した。臨地実習では、1組以上の母子を受け持ち、看護過程を展開することを基本とし、受け持ち母子がいない場合には、産褥期の集団健康教育や産婦人科外来での実習を行った。学内実習では、経膈分娩と腹式帝王切開術での分娩のビデオを視聴した後、母乳育児が困難な症例の入院中から退院後までの経過を収録したDVDを視聴し、褥婦の看護過程の展開、健康教育のロールプレイ、実際のケアのシミュレーションを実施した。実習最終日のまとめの会では、臨地および学内実習での学びを文献検討で考察した結果を発表し、各自の学びを深めるとともにお互いの体験を共有した。

発展看護実習Ⅰ・Ⅱは、4年生11名が母性看護学領域で実習を行った。富士市内の助産所1か所に5名、母乳育児支援や産後ケアを行う助産所2か所に1名ずつの学生が実習を行い、地域における助産師の子育て支援について学びを深めた。また、子育て支援を行っているNPO法人バディプロジェクト主催の育児イベントの開催にあたり、学生4名は、個々に実習計画を立案して主体的に主催者とコンタクトをとり、一部のイベントを担当し、積極的に取り組んだ。11月に発表会を開催し、それぞれの学びを共有できた。

卒業研究は、太田・藤田・中川・高木・大和田が各2名の学生、福島・永谷が各3名の



学生の計 16 名の学生を担当し、合同ゼミと教員個々のゼミを対面または Microsoft teams を使用したオンラインで研究指導を実施した。

## (2) 大学院博士前期課程 助産学課程

博士前期課程 2 年生 7 名、1 年生 6 名が在籍した。

1 年次は、講義科目で基礎知識を学び、演習で思考過程および技術の習得を行い、実習でそれらの統合を行うという流れで組み立てている。県外在住の非常勤講師担当の一部講義は、Microsoft Teams または ZOOM を活用したオンライン双方向形式を採用したが、その他は対面で講義・演習を実施した。また、学生の状況によりオンラインと対面のハイブリッド形式で授業を行った。

助産診断学演習 I・II では PBL を用いた授業を展開した。妊娠期助産診断技術学、助産技術学演習では、臨地実習に必要な知識・技術習得のための講義と演習を行った。統合ヘルスケア論では、妊産婦の冷えと助産ケア、周産期の植物療法、東洋医学など、助産ケアに必要、かつ、より豊富な知識やスキルを習得できるよう演習を行った。新生児蘇生法(NCPR)講習会は、対面で実施し 1 年生 6 名全員が専門コースの認定を受けた。リプロダクティブ・ヘルス演習は、リプロヘルスサポーター認定に向けて、開業助産師をはじめとする地域の専門家の講義、避妊法・受孕調節法に関するプレゼンテーションを実施した。さらに本学看護学部 1 年生を対象に『自分を大切に生きてするために』と題した、参加型形式の性教育講座を計画・実施し、高評価を得た。助産学概論では、社会のニーズや時代の流れに即して教育の充実を図るため、「周産期のメンタルヘルス」の講義を行った。さらに、助産管理論では、大学院で学んだ助産学生として、政策的に助産師の活動をとらえて、将来、活動することを狙い、「助産と政策」の講義を行った。実際に「助産と政策」では、日本看護協会会長の福井トシ子先生をお迎えして公開講義を実施した。その後、政策提言に関して各学生が作成し、発表検討を行った。修士論文のゼミは通年で行い、Evidence-based Midwifery のステップに基づく演習、修士論文のための文献検討、研究課題の明確化、計画書の作成に関する指導をゼミ形式で行った。

臨地実習は、COVID-19 感染防止策に努めながら、実習施設の基準に基づいて調整しながらすすめた。1 年次の妊婦健康診査実習は、6 名が静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院の 3 か所で実習を行った。全員が妊婦健診および個別健康教育実施の機会を得た。助産学準備実習および助産学実習は、再履修 1 名を含む 7 名の学生が静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院の 3 か所で実習を行った。学生は臨地にて妊婦の健康審査や保健指導を経験し、継続事例 1 例を含む分娩直接介助 (9 例 : 3 名、8 例 2 名、7 例 : 1 名、1 例 : 1 名) を経験した。地域助産学実習第 1 期は、くさの助産院で 2 名、渡辺助産院で 3 名、エス・アール・ハウスで 2 名が実習し、地域における助産師の役割と活動について学びを深めた。地域助産学実習 (第 2 期) では、母子保健包括支援の観点から、地域における女性や母子の生活および支援、助産師の活動に焦点を当て、実際の健康課題をとらえ理解するため、各学生が各々実習先について調査しフィールドワークを行っ

た。NICU 実習（周産期助産学演習）は、静岡県立こども病院で 2 名、静岡済生会総合病院で 2 名、聖隷浜松病院で 2 名が実習し、1 例のハイリスク母子の看護過程を展開し、胎児期からのつながりとしての母子の理解と支援、ハイリスク母子にかかわる多職種連携について学びを深めた。

2 年次の助産学統合実習では、おはな助産院を新たな実習施設として開拓し、くさの助産院で 2 名、渡辺助産院で 3 名、エス・アール・ハウスで 1 名、おはな助産院で 1 名が実習を行った。妊娠期末期からの継続事例 1 名の受け持ちを含む、1～2 例の分娩介助を経験し地域における助産師のプライマリケアと職責について学びを深めるとともに、より質の高い助産ケアの習得に努めた。

修士論文指導は、太田、藤田、中川が 2 名ずつの学生を主指導教員として担当した。全員、修士論文審査と最終試験を受けて合格し、看護学修士の学位を修得した。さらに、助産師国家試験受験資格を得て、6 名が 2 月の助産師国家試験を受験した。

看護学研究科を含む、助産師養成課程への進学希望者を対象に、8 月（第 10 回）と 3 月（第 11 回）に助産について語る会（MJ café）をオンラインで開催した。参加した学部生は進学への関心が高まった様子がうかがえた。

### （3）大学院博士前期課程 実践看護学領域（助産学）

1 名の学生が、実践看護学応用演習 V、実践看護学特別研究を履修し、太田が担当した。長期履修制度を利用して 3 年間で、論文を作成する予定で、修士論文計画書を作成して 9 月末に提出し、10 月に計画書審査会を行った。その後、倫理審査の承認を得て、フィールドの開拓、データ収集を実施中である。

### <領域で行っている地域貢献活動>

助産師免許を取得している本学の学部卒業生と大学院修了生を会員とした「静岡県立大学看護同窓会助産支部会」を 8 月 26 日にオンラインで開催した。教育講演は、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院・感染制御専任助産師である石幡理絵氏による教育講演「パンデミックにおける妊産褥婦への支援」であった。領域で主催した公開講義・特別講義は、「ケアの意味を見つめる事例研究 ～計画から実施まで～」（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 専攻長・教授、グローバルナースングリサーチセンター長、山本則子先生）、「Start up 質的研究」（宮城大学看護学群教授、谷津裕子先生）であった。助産学管理において助産と政策に関する内容で公益社団法人日本看護協会会長の福井トシ子氏による「母子の健康を支えるために必要な助産の力～助産師の専門性を発揮し、より活躍するために SDGs の視点から考える～」公開講義を開催し、35 人が参加した。

台風 15 号による断水の影響を受けた母子・家族を対象に、9 月 28 日～30 日の 3 日間、実習室の沐浴槽利用開放を行った。また、草薙カルテッドと協力し、9 月 28 日～10 月 4 日には、草薙駅北口広場、清水駅東口、清水区小島地区の無料シャワーブースに沐浴槽を提供

した。

静岡市助産師会と共催で、4月1日から4月28日まで小鹿キャンパス事務・図書館棟2階ギャラリーにて、助産師と助産所の活動を広めることを目的に助産所で生まれたばかりの赤ちゃんを囲む家族の写真など、10枚の写真パネルを展示した。また、10月5日から1月25日まで、「地域助産師との交流会—Go to 産婆—」を実施した。

太田は、第34回静岡県母性衛生学会学術集会にて、総会の議長と羽衣セミナー「メンタルヘルスケア」の座長を務めた。ペリネイタル・ロスに関しては、東京で開催しているサポートグループ「天使の保護者ルカの会」へ2回参加した。研修会の講師については、静岡県看護協会主催の研修会「周産期領域での倫理的課題」(対面)、倫理的課題恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター主催の研修会(ハイブリッド型)の講師を勤めた。また、愛知県助産師会の依頼を受け助産師対象に、さらに、浜松市健康福祉部健康増進課の依頼を受け保健師対象に、ペリネイタル・ロスのテーマでオンラインによる講演を行った。

中川は、日本助産学会誌の専門査読委員として、投稿論文の査読に携わった。全国助産師教育協議会のシミュレーション小委員会(将来構想委員会)として、今後COVID-19感染症により臨地での実習ができなくなったり、出生数の減少により直接分娩介助実習の例数が確保できなくなったりする場合に備えてシミュレーション教育の充実を図る目的で、他大学の教員および臨床教授6名で分娩期のシミュレーション作成に携わった。また、全国助産師教育協議会の助産師国家試験プール問題公募の啓発・応募促進事業で問題作成・登録協力活動に参加し、全国7地区の助産師養成校から35名の中の1名として問題作成に携わった。公益社団法人桶谷式母乳育児推進協会の倫理審査委員会の委員長として研究倫理審査を行った。静岡県立大学公開講座では、看護学部で「自分らしく生きることを支える」をメインテーマに「素敵にエイジング～更年期を上手に過ごすために～」というタイトルでオンライン講義を行った。牧之原市健康推進課主催の思春期検討会で「地域で取り組むプレコンセプションケア」の講演を実施した。メヂカルフレンド社より、「母性看護技術第3版」の「出産後から入院期間中の褥婦のケア」を執筆し出版となった。

藤田は、静岡市男女共同参画審議員として、男女間の暴力の根絶、防災、ワークライフバランス、子育て支援を中心に取り組んだ。日本助産学会誌、日本フォレンジック看護学会の専門査読委員として、それぞれの投稿論文の査読に携わった。静岡県看護協会の研究に関する研修会(質的研究及び研究計画書の講評)の講師を担当した。伊豆の国市社会福祉協議会主催の研修会において「STOP 性暴力～子ども達の性被害の現状と被害防止やケアについて考える」講演を行った。山梨県母性衛生学会において周産期におけるDV被害の実態と助産師に必要とされるケアの視点の講演を行った。三重県母性衛生学会において、周産期に見逃さないで！ドメスティック・バイオレンス～DV/子ども虐待に助産師がどう取り組むか」に関する講演を行った。静岡県性暴力被害者支援者養成研修会において「急性期における性暴力被害者の支援と妊娠・人工妊娠中絶」についての講演を行った。静岡県中部健康福祉センター主催の妊産婦及び母子支援ネットワーク会議において、事例検討のワークショップ

及び切れ目ない子育て支援に関する講演を行った。

福島は、環境看護学・荒井孝子教授、菜桜助産所・堀田久美院長との共同研究で開発中の子宮脱整復・ペッサリー着脱トレーニングモデルおよびリーフレットについて、第42回看護科学学会学術集会のアカデミックプラザで展示・説明を行った。

永谷は、小鹿キャンパス内で女性健康相談室を月1回の健康相談を開催(9・2・3月)し、女性健康相談室主催の「これからの女性の健康を考えよう—生き生きとステキに年を重ねるために—」の健康講座を企画し、実施した。焼津市介護保険審査会の審査委員として認定審査に携わった。第20回日本更年期と加齢のヘルスケア学会学術集会シンポジウムのシンポジストとして「更年期からのヘルスケアとメノポーズカウンセラーの活動について」を発表した。また、一般社団法人 Fumi Horiguchi ウィメンズヘルス研究所の幹事として、オンライン研修会の企画・運営に携わった。

高木は静岡県助産師会と共催で、助産師と助産所の活動を広めることを目的に「静岡県助産師会写真展」、「地域助産師との交流会—Go to 産婆—」を企画・実施した。また、NPO 法人 place of peace と共催でパートナーが妊娠中の父親を対象とした「ハッピーパパマタニティ講座」と「もうすぐ赤ちゃんがやってくる」を企画・実施した。

大和田は、NPO 法人 place of peace と共催でパートナーが妊娠中の父親を対象とした講座「ハッピーパパマタニティ講座」、子育て中の親を対象とした「ノーバディーズパーフェクトプログラム 見つけよう！自分らしい子育て」を企画しファシリテーターをつとめたほか、マタニティ夫婦向けプログラム「もうすぐ赤ちゃんがやってくる」を企画・実施した。また、静岡県助産師会有志と共催で「レボゾを使った妊産婦ケア」を企画・実施した。

長屋は、静岡市、静岡市教育委員会、静岡市障害者協会、静岡市重症心身障害児(者)を守る会後援のもと開催された、「透明人間-Invisible Mom-」写真展の実行委員として、医療的ケアのある児童等の写真展を主催している写真家と協働し、トークイベントと写真展の開催に携わった。

母性看護学・助産学領域が主催した講座等

講座等の名称	開催日時	会場	参加者	共催・後援等
静岡県助産師会写真展	令和4年 4月1日～28日	静岡県立大学 小鹿キャンパス 事務・図書館棟2 階ギャラリー		【共催】 看護実践教育 研究センター 静岡市助産師会
女性健康相談室主催 これからの女性の健康を考えようー生き生きとステキに年を重ねるためにー	第1回 令和4年 8月6日(土)13:30～16:30 第2回 令和4年 8月20日(土)13:30～16:30	小鹿キャンパス、オンライン (Zoom)	静岡県内在住の30歳以上の女性 第1回 会場11名 ZOOM6名 第2回 会場10名 ZOOM3名	【共催】 看護実践教育 研究センター
パートナーが妊娠期にある男性向けプログラムハッピーパパマタニティ講座	第1回 令和4年 8月27日(土) 14:00～16:00 第2回 令和4年 10月10日(月) 9:30～11:30	第1回 静岡県立大学 小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室5 第2回 藤枝市生涯学習センター 和室	パートナーが妊娠期にある男性 計9名、妊婦 6名	【共催】 看護実践教育 研究センター NPO法人 place of peace
マタニティ夫婦向けプログラムもうすぐ赤ちゃんがやってくる	第1回 令和4年 9月3日(土) 10:00～12:00 第2回 令和4年 9月23日(金) 10:00～12:00	第1回 静岡県立大学 小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室5 第2回 まつのき農園(焼津市)	妊娠期から子育て期の夫婦 計14組28名	【共催】 看護実践教育 研究センター NPO法人 place of peace
ひよこママのサブリ講座	令和4年 9月20日(火) 9月22日(木) 9月27日(火) 10:00～11:00	静岡県立大学 小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室1、3	生後2～5ヶ月の第1子とその母親 計7組	【共催】 看護実践教育 研究センター NPO法人 バディプロジェクト

	(全3回)			ト サプリ講座実 行委員会 【協力】 静岡市子ども 未来課 【後援】 静岡市助産師会
地域助産師との交 流会 ーGo to 産婆ー	令和4年 10月5日(水) 10月24日(金) 11月22日(火) 11月30日(水) 12月7日(水) 12月10日(土) 令和5年 1月11日(水) 1月25日(水)	まき助産院、ぶど うの木助産院、い ぶきの助産院、お しか助産院、助産 院こうのとり、南 八幡幼稚園、おし ゃべりサロン森下	妊娠中の女性、育 児中の母親等 計54名	【共催】 静岡市助産師会
公開講義 母子の健康を 支えるために 必要な助産の力～ 助産師の専門性を 発揮し、より活躍 するために SDGs の視点から考える ～	令和4年 12月10日(土) 10:00～12:00	静岡県立大学 小鹿キャンパス 251教室、 オンライ ン (Zoom)	助産学生、看護学 生、助産師、看護 師、保健師等 計 30名	【共催】 看護実践教育研究 センター
レボゾを使った妊 産婦ケアの 実際	令和5年 2月18日(土)13: 00～17:00	静岡県立大学 小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室5	助産師、看護師、助 産学生、周産期医 療従事者等 20名 (予定)	【共催】 静岡県助産師会 助産所支部有志 【後援】 看護実践教育 研究センター
Nobody's Perfect プログラム 見つけよう！自分	令和5年 2月20日(月)、2 月27日(月)、 3月6日(月)、3	静岡県立大学 小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室5	0～3歳までの子を もつ親 11名(予定)	【共催】 NPO法人 place of peace 静岡市子ども未来

らしい子育て～完 べきな親なんてい ない～	月 13 日 (月)、3 月 20 日 (月) 3 月 27 日 (月) 10 : 00～ 12 : 00 (全 6 回)			課 【後援】 看護実践教育 研究センター
新生児蘇生法 スキルアップ コース	令和 5 年 3 月 16 日 (木) 9 : 30～12 : 30	静岡県立大学 小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室 4	2023 年 10 月に NCPR 修了認定有 効期限を迎える方 6 名 (予定)	【共催】 看護実践教育 研究センター

## 8) 精神看護学領域の活動

### <教育活動>

精神看護領域では、人間関係論、精神看護学概論、生涯発達心理入門（全学共通科目）、精神看護援助論精神看護学演習、精神看護学実習、臨床心理学入門、卒業研究を担当した。また他の領域と共同で行う授業では、最新看護の動向、発展看護実習、災害看護演習を担当した。

おおむね対面授業を行ったが、COVID-19感染問題のため前期・後期共に濃厚接触者や罹患者が出た場合には対面とチームスによるハイブリッド授業を実施した。

また、以前から実施している外部講師を招聘し臨床現場の実際（当事者からの体験談、司法精神看護、精神科の看護管理、精神科における看護管理や訪問看護、精神保健医療福祉における自殺防止対策等）についての講義を継続して実施した。

実習前の3年生を対象に精神科医療の現場である沼津中央病院とこころの医療センターの二施設を見学する機会を設けた。現場のリアルな状況について看護職から直接話を聞く機会や見学は、適度な緊張感とともに学生の学習意欲や問題意識を高めることにつながっていた。

精神看護学実習においては COVID-19 感染問題のため、途中から臨地実習が大幅に削減された。作業所実習では、1日ごとに別の作業所で実習を行い、各施設の特徴や通所者にとっての役割の違いを学んだ。さらに、これまで特に病院実習において患者との関わりを通して学習してきた、コミュニケーション・ストレングス・患者への関わり方等については各種課題を出して、学内での DVD 視聴・グループワーク・課題提出用録画作成等と、オンラインでのグループ検討・課題結果の発表等を行った。

最終学年の4年次発展看護実習においては、昨年度は COVID-19 感染問題のため、精神看護学実習と同様に臨地実習が大幅に削減されたが、徐々に通常の形式に戻しながら行った。一部感染状況の拡大に左右され、学内でのプログラムに切り替えながら実習を行った。学生達は、精神障がいを抱えた方々が地域の中で生活することの意味や課題を、3年次に行

った精神看護学実習での学びを基に、作業所や支援センターでの実習を通して改めて考え、理解を深めることができた。さらに、精神保健福祉センターでの行政機関の実習では、精神保健を広く発展的に理解する機会を得ることができた。来年度は、今年度の学習スタイルを踏襲しながら、病院の外来デイケア部門での実習を少しでも取り入れることができるよう、実習施設側に働きかけていく予定である。

最新看護の動向では、国内外の精神保健福祉の領域をけん引する講師（精神科医、家族）を招聘して、講義を行った。臨床心理学入門、生涯発達心理入門では学内外の心理職や、LGBTの当事者や、障害を有する当事者の家族等の話を聞く機会を設けながら、心理学全般や、生涯発達の基礎について学ぶ機会を提供しながら講義を展開した。

大学院では精神看護学に関連する講義を担当した。また修士論文指導では主指導教員として二名の修士学生の指導を行った。また副指導として3名担当した。

#### <領域で行っている地域貢献活動>

篁は、静岡市の自殺対策推進協議会の会長、認知症対策推進協議会の会長、精神医療審査会の審査委員、日本学校メンタルヘルス学会の理事・評議員の役割を担当した。また看護系の雑誌の査読、静岡福祉大学、清水市立看護専門学校の非常勤講師を担当した。静岡県からの依頼で教育関係者向けに自殺対策の講演会を実施した。静岡県内の精神科看護師を対象とした研究の講評、沼津中央病院の研究の講評も行った。

長澤は、静岡福祉大学の非常勤講師を担当した。

近藤は、静岡福祉大学、清水市立看護専門学校の非常勤講師を担当した。静岡市地域活動支援センターみらい運営委員を担当した。

遠藤は、清水市立看護専門学校の非常勤講師を担当した。

### 9) 公衆衛生看護学領域の活動

#### <教育活動>

##### (1) 講義・演習

原則、対面授業としたが、新型コロナウイルス感染症防止対策に伴い必要に応じてハイブリッドの講義を行った。加えて、リアクションペーパーやミニテストやミニレポート等の事後課題はユニバーサル・パスポートからの提出として、すべての学生が公平に受講でき、学習効果を確認するための措置を講じた。また、随時ゲストスピーカーを招聘し、学生が公衆衛生活動の実際をイメージでき、学習効果が高まるように配慮した。

令和4年度からのカリキュラムでは、保健師国家試験受験資格取得可能な学生数が60名となる。そのため、保健師課程を選択しない学生にも公衆衛生看護活動についての理解を深められるよう1年次の公衆衛生看護学概論には県保健師並びに市町村保健師をゲストスピーカーに招聘し保健師活動の実際講義時間を取り入れた。

今年度も講義、演習、実習の連続性を図り、学生が効果的かつ効率的に学習可能となる



ように授業内容の見直しを図った。公衆衛生看護方法論で学習する地域診断の枠組みをコミュニティ・アズ・パートナーモデルに変更し、演習と実習の様式等を修正した。また、健康教育を公衆衛生看護方法論で教授し、公衆衛生看護学演習を地域診断と家庭訪問による個人・家族支援に絞ったことで、学生はピア・レスポンス等により学びを深められた。なお、公衆衛生看護学演習は集中講義のため 88 名の学生を 22 グループに分け、3 教室を使用して感染防止対策を講じながら細やかな学生のニーズに応じる綿密な教育活動を実施した。

## (2) 実習

### ①公衆衛生看護学実習 I

30 カリの 3 年生学生が対象で選択した 95 名が、県内 4 保健所、13 保健センターに分かれて 10 日間実施した。

事前学習では既存資料の分析を行い、実習では地区踏査や住民・保健福祉関係者からの聞き取りを通して地域診断を行った。また学内で、各実習地の地域診断を発表し合うことで、地域の人々の暮らしぶりや健康課題の違いを学ぶことができた。さらに地域の特性に合わせた公衆衛生看護活動とは何か、行政保健師の活動を知ること、その役割について考えることができた。

### ②公衆衛生看護学実習 II

30 カリ学生のうち、本実習を選択した 95 名が、4 年次前期に学生の希望により「行政」「産業」「学校」に分かれて、それぞれ 10 日間の実習を実施した。市町村保健センターを実習拠点とする「行政」で 56 名が、事業場を実習拠点とする「産業」で 23 名が、小中学校と特別支援学校を実習拠点とする「学校」で 16 名が、18 グループに分かれ、26 施設で実習を行った。新型コロナウイルス感染症の感染状況により、「行政」と「産業」の実習で一部、オンラインや学内実習に変更となったが、その他の実習では、臨地で実習を行うことができた。

「行政」の実習グループは、保健所 4 か所、市町村保健センター 12 か所にて、実習 I で実施した地区診断に基づき、地域で展開されている各種保健事業への参加、家庭訪問、健康教育の実施といった予定をしていた実習内容を実施することができた。対象は乳幼児から高齢者まで幅広い対象であったが、それぞれの発達段階や暮らしの状況に応じ、地域の強みと弱みも意識しながら地区活動を学ぶことができた。実習 I と同じ市町村で実施することにより、地域の特徴の理解が深まった。そのことにより、地域や住民の方々の中にある自らの健康を増進する力を高めようとする力に気づき、それを支援する公衆衛生看護活動における行政保健師の機能と役割を具体的に学ぶことができた。

「産業」の実習グループは、事業所 3 か所にて、働く場の特性に応じた産業保健活動の実際を学ぶことができた。作業条件に関連する健康障害の予防や安全のために職場巡視の必要性や観察すべき内容や行動変容に結びつけるための根拠に基づく保健指導について、事業所における健康課題の特徴と関連づけて理解することができた。実際に実施

した健康教育や保健指導では労働環境を考慮した内容を考案することができた。新型コロナウイルス感染の拡大により、三菱電機では、健診後の保健指導をオンラインで実施することとなった学生もいたが、オンラインの特性を活かした内容を考案することができた。

「学校」の実習グループは、前半は静岡市内の中学校1校、小学校3校、後半は特別支援学校4校と吉原林間学園（1日の見学実習）で実習を行った。小中学校では、学校保健活動の概要や児童生徒および職員の健康状態を把握し、健康課題を捉える方法を学んだ。養護教諭からの助言を基に児童生徒の健康状態を分析し、児童生徒を対象に保健教育を実施した。特別支援学校では、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、臨地実習が半日の実習となる場合もあったが、障害をもつ児童生徒への自立に向けた支援について理解することができた。児童心理治療施設では、入所している児童の特徴や保健師の役割について理解を深めることができた。実習終了後には、実習グループ毎に実習内容の発表を行い、児童生徒の発達と健康課題、養護教諭の役割等、広く学校保健についての学びを深めた。

実習最終日の学内のまとめでは、同じ時期に実習を展開していた学生が学びを報告しあい、「行政」「産業」「学校」といった様々な場での保健師活動について理解を深めることができた。

### ③公衆衛生看護基礎実習

2年次後期に119名が保健所4カ所、市町村保健センター19カ所、事業場4カ所に分かれ、地区視診と学内まとめを合わせた5日間の実習を行った。保健所2カ所はオンライン実習であったが、他の施設は対面による実習を行った。保健所では地域の健康課題及び各種事業の概要の説明に加え、新任保健師による活動紹介等、学生が理解しやすい講義内容となるようなプログラム構成であった。市町村保健センターでは地域の健康課題及び各種事業の概要の説明と事業参加により学生が保健活動の実際を経験した。事業場では事業場概要及び健康課題と保健活動に関する説明並びに工場見学により労働環境からの健康課題と保健活動との関連を理解できた。地区視診は学生の居住地にて各自実施して、他学生と人々の生活とそれに関連する地域の情報を共有することで地域の共通点・相違点を整理し、生活の場である地域の多様性と特徴を学べた。

学生は、本学習を通じて3年次での保健師国家試験受験資格取得課程の選択の意思決定をしやすくなり、選択しない学生にとっても、地域に暮らす人々への保健活動の学びは、医療機関から地域へと看護が継続されていることの理解に役立っている。

### <領域で行っている地域貢献活動>

静岡市新任保健師研修に協力し、1年目の保健師を対象に、地区活動に関する講義とグループワークを5月に佐藤・伊藤が、6月に2年目と3年目の保健師を対象に講義と各自の取り組みへの助言を行った（鈴木千智）。11月には、2・3年目保健師（鈴木千智・安藤）に、1月には1年目保健師（佐藤・伊藤）を対象に講義および各新任保健師が実際に地区診

断を行うプロセスを支援した（佐藤・伊藤）。3月には、地区活動の今年度の取り組みを発表する会に参加し、各保健師の地区診断の取り組み状況をふまえ、次年度にどのように繋げていくかといった観点で助言と講評を行った（鈴木千智・安藤）。静岡市中堅期・管理期保健師研修は10月に開催され、人材育成に関する研修を行った（杉山）。

静岡県子ども家庭課の依頼で、新任母子保健従事者研修を8月に実施し、県庁会議室と東部と西部会場をZoomでつなぎ、子どもの虐待防止を中心とした研修を実施した（杉山）。また、静岡県健康増進課主催の県と市町保健師・栄養士対象の新任地域保健従事者研修を10月に実施した他、賀茂健康福祉センターの加茂地域健康福祉研究発表会の講師（栗田）、母子保健関係者研修を2月にリモートで実施した（杉山）。その他、静岡県中部・西部健康福祉センター管内の統括保健師を対象とした研修を12月に、また静岡県西部健康福祉センター管内の中堅期保健師を対象とした研修を1月に実施した（杉山）。

西部健康福祉センター新任期保健従事者現任研修を3月に実施した（畑中）。富士健康福祉センター新任期保健従事者現任研修を1月に実施し、2月には同管内の地域保健・医療・福祉活動研究会にて、6演題の発表について講評を行った（鈴木千智）。その他、愛知産業保健総合支援センターの産業看護職のためのステップアップ講座で「産業看護職によるメンタルヘルス不調者支援」の講師を務めた（畑中）。認定看護師教育課程・乳がん看護分野のヘルスプロモーションの講義を8月に行った（鈴木千智）。また、静岡市保健所の運営協議会の委員や静岡県国民健康保険団体連合会の保健事業・評価委員会の委員として地域の保健事業に関する助言指導を行った（杉山）。

その他、愛知産業保健総合支援センターの産業看護職のためのステップアップ講座で「産業看護職によるメンタルヘルス不調者支援」の講師を務めた（畑中）。認定看護師教育課程・乳がん看護分野のヘルスプロモーションの講義を8月と9月に行い（杉山）、静岡県発達障害者支援地域協議会と静岡県国民健康保険団体連合会の保健事業支援・評価委員会等の委員としての協力を行っている（杉山）。

また、静岡県からの依頼により重層的相談支援体制構築事業アドバイザーとして協力している（栗田）。

## 10) 在宅看護学領域の活動

### <教育活動>

疾病や障害をもちながら生活する人々とその家族を理解し、人々の生活の質向上に貢献する看護を展開するために必要な知識と看護技術を修得することを教育活動の目的としている。学部の科目編成は、「地域包括ケア」「地域家族支援論」「在宅看護学概論」「在宅看護学演習」「在宅看護学実習」「発展看護実習」「卒業研究」である。看護学研究科の科目編成は、博士前期課程「家族看護特論」「広域看護学特別研究」博士後期課程「看護学特別研究Ⅱ・Ⅲ」である。

在宅看護学領域においては、地域包括ケアや在宅看護の展開に必要な知識・判断・看護技術・療養環境の整備等について、学生自らが主体的に学ぶ姿勢を養うアクティブラーニングを活用している。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講義・演習科目の授業は対面とオンラインを併用し構成した。

学部1年生の「地域包括ケア」では、地域住民を中心とした地域包括ケアにおいて、あらゆる健康状態にある人々の生活を支える多職種連携と、看護専門職者の役割・機能について理解を深めること、学部2年生の「地域家族支援論」では、現代の多様な家族の健康課題への支援について理解を深めることを学習目標とし、対面形式による事例検討を取り入れた授業を展開した。

学部3年生の「在宅看護学概論」「在宅看護学演習」は、感染予防対策に留意し、ハイブリッド授業から通常の対面形式の授業に移行することができた。「在宅看護学概論」での学びを基盤に、「在宅看護学演習」では、医療機関や行政機関、訪問看護の立場において静岡市の地域包括ケアシステム推進に取り組む講師の活動事例から、地域包括ケアにおける多職種連携や看護実践について学ぶ構成とした。「在宅看護学実習」は、訪問看護実習、在宅ケア実習の2部構成としている。訪問看護実習では、①在宅療養者・家族への療養生活支援（訪問看護事業所）、②臨床判断能力テスト（学内）、③医療機関において在宅復帰を予定する患者への多職種連携支援（JCHO 桜ヶ丘病院）の内容とした。在宅ケア実習では、重症心身障害児者通所施設において、看護師のシャドーイングを中心とした1日実習を行い、通所サービス担当看護師が参加するカンファレンスを実施した。

看護学研究科では、博士前期課程2年2名、博士後期課程3年1名は修士・博士論文の審査に合格した。博士後期課程2年1名は、学生による中間発表会の開催及び倫理審査の申請・承認を得ることができた。

#### <領域で行っている地域貢献活動>

##### 富安眞理

- 1) 静岡市健康福祉審議会委員、介護保険専門分科会会長として、議会運営に参画した。
- 2) 日本看護科学学会誌、日本難病看護学会誌、日本在宅看護学会誌の査読を担当した。

##### 加納江理

- 1) 静岡県看護協会認定看護管理者養成研修ファーストレベル講師、聖隷三方原病院認定看護管理者養成研修ファーストレベル講師を担当した。
- 2) 日本看護学会誌、日本看護学会学術集会の査読を担当した。
- 3) 浜松市介護認定審査会の認定審査員を担当した。

##### 膽畑敦子

- 1) 静岡県訪問看護ステーション協議会 新卒訪問看護師育成委員会委員として会議に参加した。
- 2) 静岡県訪問看護ステーション協議会主催「認知症訪問看護研修」講師を担当した。

## 榊みのり

- 1) 日本腎不全看護学会誌の編集委員として活動した。
- 2) Renal Replacement Therapy の査読を担当した。
- 3) 第 67 回日本透析医学会学術集会で一般演題の座長を務めた。

## 11) 国際看護学領域の活動

### <教育活動>

#### 国際看護学領域

国際看護学は、すべての人々の健康維持・改善のために、地球規模の健康格差との背景を学び、国際保健における看護の役割と実際を学ぶ学問である。本領域では、災害看護も担当している。従って、学生は、国内外で起こる災害の種類、災害対策・疾患予防や、災害時支援における看護の役割と実際についても学習する。開発途上国、先進国、在留外国人の健康問題、災害発生前の対策や発生後について、それぞれの国・文化・宗教・言語などを考慮した看護について理解を深め、文化的能力を身につけるべく、学習し実践する。

2022 年度は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し大学の方針に合わせてつつ、対面式授業やハイブリッド式授業を取り対応してきた。本領域での教育的取り組みは、例年同様、国内外で活躍する国際保健・災害医療の実践家・教育者・研究者たちを「国際保健・災害看護論」「国際看護論」「災害看護セミナー」「発展看護実習」の 1～2 コマにゲスト講師として招き、国際保健や災害看護の最前線の学問や状況について学生が学習できる機会を提供した。ゲスト講義を含む全ての授業において学生参加型の多様なアクティブラーニングを実施した。

また、昨年同様、本大学のプロジェクトである「文部科学省・大学の世界展開力強化事業～Collaborative Online International Learning (COIL)型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」にも積極的に取り組み、合計 11 回の COIL 授業を達成した。

実施日	科目名	オンライン接続先	学生参加数
2022/05/12	卒業研究（国際看護）	カリフォルニア大学ロサンゼルス校看護学部（米国）	1 名
2022/05/24	卒業研究（老年看護）	オレゴン健康科学大学看護学部（米国）	1 名
2022/06/28	国際保健・災害看護論	コンケン大学看護学部（タイ）	115 名
2022/07/06	国際保健・災害看護論	マーケット大学（米国）	120 名
2022/08/28	卒業研究（老年看護）	オレゴン健康科学大学看護学部（米国）	1 名
2022/10/11	卒業研究（国際看護）	コンケン大学看護学部（タイ）	2 名
2022/10/18	卒業研究（国際看護）	コンケン大学看護学部（タイ）	2 名
2022/10/28	発展看護実習	カリフォルニア大学ロサンゼルス校看護学部（米国）	1 名

	(国際看護)	護学部 (米国)	
2022/11/29	卒業研究 (国際看護・老年看護)	オレゴン健康科学大学看護学部 (米国)	2名
2023/01/23	災害看護セミナー	カリフォルニア大学デイビス校 (米国)	120名
2022/03/10	卒業研究 (国際看護)	オレゴン健康科学大学看護学部 (米国)	3名

参照：<https://www.us-coil.jp/jyugyou/>

昨年度、本領域で卒業研究を履修した学生の1人は2022年8月2日～4日にWeb上で開催された「Sigma's 33rd International Nursing Research Congress」でポスター発表を行い、もう1人は2022年10月18日～19日に現地とWebで開催された「The 7<sup>th</sup> International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science」でポスター発表(Web)を行った。卒業生2名が卒業研究を国際学会で発表するにあたり、ポスター作成や発表について指導を行った。また、これまで複数回に渡りCOIL授業を協働主催してきた上智大学看護学部教員の依頼により、上智大学外国語学部4年生1名対象に卒業研究を看護の国際学会で発表するまでの過程を指導した。結果、その学生の卒業研究抄録はThe International Council of Nurses (ICN)主催の学術集会(令和5年7月カナダ、モントリオール)に採択された。

これらの教育的活動を通し、本学生や卒業生たちは各国の医療や看護問題について学習するだけでなく、異文化理解を深め、国際性を学び実践することができたと思われる。また、COIL提携校(ポートランド大学、ボストンカレッジ、マーケット大学)・協力校(オレゴン健康科学大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校・デイビス校)、本学との協定校(タイ国立コンケン大学、マヒドン大学)教員たちともオンライン交流を続けており、引き続き協働的なグローバル教育活動に努めていく予定である。新しい、COIL協力校として、インドのバンガロールに位置するKrupanidhi College of Nursingを視察し、当該大学の看護学部長と次年度以降のCOIL授業の共同開催や今後の本学部生の実習施設の可能性についても話し合った。

次年度に向け、根岸は9月4日～9日の期間、タイ国立コンケン大学看護学部にて国際交流担当教員たちと両大学における次年度の交換留学会議を実施した。本学部4年生の選択科目「国際保健看護実習」の実習施設としてシーナカリン病院、コンケン総合病院、地域の健康センターなども視察し、各施設の代表者と実習打ち合わせも行った。

#### <領域で行っている地域貢献活動>

根岸講師は依頼にて、これまでのCOIL授業への取り組みと成果を①私立大学情報教育協会主催の「2022年度：私情教、教育イノベーション大会」(9月7日オンライン開催)と②COIL国際シンポジウム(12月2日上智大学にて開催)でシンポジストとして講演した。

#### <領域で行っている研究活動>

根岸はオレゴン健康科学大学（米国）と本学部の 5 年に渡るグローバル教育共同プロジェクトを実施してきた。令和 3 年度からは Wendy Hempstock 助教と上智大学看護学部の吉野八重准教授も同プロジェクトに参加した。根岸は、Hempstock 助教、吉野准教授とオレゴン健康科学大学看護学部教員 2 名と共同し、これらの取り組みを The International Council of Nurses (ICN)主催の学術集会（令和 5 年 7 月カナダ、モントリオール）で発表するべく 10 月末に抄録を提出した。その抄録は 12 月に採択が決定した。

また、根岸は 3 月 25 日～31 日の日程で科学研究助成事業（若手研究：18K17430）「インド人看護師臨床教育支援プログラムの開発と日印看護師の協調的臨床環境の構築」の現地調査をインドのバンガロールに位置する Sakra World Hospital で実施した。

## 2. 各教員の研究・教育・地域貢献活動

### 1) 研究活動

#### 原著論文

氏名	著者名(著者総数)、論文題名、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
林みよ子	鈴木郁美・林みよ子・入江多津子 (3名)、軽・中等度の失語症患者の発症からの入院生活における主観的体験、日本脳神経看護研究学会誌、45(2)、103-108、2023
	森山美香・小倉久美子・八尾みどり・寺地沙緒里・山口弘子・林みよ子・谷島雅子・阿部雅美・船木淳・清村紀子・中村美鈴 (10名)、救急看護領域における看護師の看護倫理・研究倫理に関する実態調査、日本救急看護学会雑誌、25、11-20、2023
井上健一郎	Honda A, Inoue K, Tamura S, Tanaka M, Wang Z, Tanaka T, Hirai S, Okuda T, Ueda K, Takano H. (10名)、Effects of streamer discharge on PM2.5 containing polyaromatic hydrocarbons and endotoxin and their biological responses in vitro.、Int. J. Mol. Sci. (in press).
	Honda A, Inoue K, Takai S, Kameda T, Ueda K, Takano H. (6名)、Effects of oxidized pyrenes on the biological responses in the human bronchial epithelial cells. Appl. Sci. 2022, 12(19), 9664; <a href="https://doi.org/10.3390/app12199664">https://doi.org/10.3390/app12199664</a>
荒井孝子	Yumi Abiko, Kyoko Arai 他(7名)、Redox Homeostasis is Disturbed by Redox Cycling between Reactive Cysteins of Thioredoxin 1 and 9,10-Phenanthrenequinone, an Atmospheroc Electron Acceptor、Chemical Reaseach in Toxicology、35、1425-1432、2022
田中範佳	Tomoko Kawamura, Noriyoshi Tanaka*, Megumi Hori, Ken-ichirou Inoue, Masahiko Kawamura, Keisuke Matsusaki(6名)、Hemodynamic variability during drainage of large volumes of malignant ascites in patients with cancer、Clinical Nursing Research、in press、2023
富安眞理	膽畑敦子、木村綾、加納江理、富安眞理 (4名)、認知症高齢者グループホームにおける訪問看護・介護による統合的ケアの実態、せいれい看護学会誌、13 (1)、11-17、2022.
	長谷部美紀、富安眞理 (2名)、高齢ストーマ保有者とその家族の療養生活への順応過程を支える訪問看護実践、日本在宅ケア学会誌、26 (1)、111-119、2022
篁宗一	丸山始美、山下早苗、篁宗一(3名)、ターミナル期にある小児がんの子ども意思決定を支援する看護師の倫理的苦悩についてのナラティブ、日本看護倫理学会誌、15 (1)、83-91、2022



氏名	著者名(著者総数)、論文題名、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
篁宗一	Kyoko Yoshioka-Maeda, Hitoshi Fujii , Masako Kageyama, Soichi Takamura (5名)、Factors of Parental Preparation of Children with Mental Illnesses for Their Independent Living after Their Own Death、Healthcare (Basel)、Nov 24;10(12). 2022
山下早苗	丸山始美, 山下早苗, 篁宗一(3名)、ターミナル期における小児がんの子どもの意思決定を支援する看護師の倫理的苦悩についてのナラティブ、日本看護倫理学会誌、15 (1)、83-91、2023
畑中純子	畑中純子他 (6名)、産業看護職として従事する前に必要な知識項目の検討、日本産業看護学会誌、9 (1)、11-21、2022
	Yuki Goto, Keiko Kono, Junko hatanaka 他(6名)、Perceptions and experiences of hospital-based clinical nurses regarding collaboration with occupational health nurses、Journal of Japan Academy of Occupational Health Nursing,9(1)、22-30、2022
藤田景子	中村岬、藤田景子、太田尚子 (3名)、被虐待経験を持つ女性に対する妊娠期から育児期における助産師の関わり、母性衛生、62 (4)、594-601、2022
堀芽久美	Kako J, Kobayashi M, Kanno Y, Kajiwara K, Nakano K, Morikawa M, Matsuda Y, Shimizu Y, Hori M, Niino M, Suzuki M, Shimazu T. (12名)、Nursing support for symptoms in patients with cancer and caregiver burdens: a scoping review protocol. BMJ Open. 14;12(9):e061866. 2022.
	Kawamura T, Tanaka N, Hori M, Inoue KI, Kawamura M, Matsusaki K. (6名)、Hemodynamic Variability During Drainage of Large Volumes of Malignant Ascites in Patients With Cancer. Clin Nurs Res. 32(4):815-820. 2023(Epub).
	Katanoda K, Saito E, Hori M, Nakayama T, Matsuda T. (5名)、Trends in lung cancer incidence by gender, histological type and stage at diagnosis in Japan, 1993 to 2015: A multiple imputation approach. Nguyen PT、 Int J Cancer. 1;151(1):20-32. 2022.
山口みのり	管原清子・加藤京里・山口みのり・永谷幸子(4名)、A大学における看護学生のコミュニケーション・スキルの特徴と学年による違い、日本看護医療学会雑誌、24(2)、36-43、2022
永谷幸子	管原清子・加藤京里・山口みのり・永谷幸子(4名)、A大学における看護学生のコミュニケーション・スキルの特徴と学年による違い、日本看護医療学会雑誌、24(2)、36-43、2022
	管原清子・永谷幸子他 (3名)、短時間のハンドマッサージによるリラクゼーション効果、医学と生物学、162(4)、1-9、2022

氏名	著者名(著者総数)、論文題名、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
杉山眞澄	杉山眞澄、鈴木知代、深江久代、伊藤純子 (4名)、市区町村母子保健事業のクレームの実態と管理的立場の保健師研修の検討、東海公衆衛生雑誌、10 (1)、187-195、2022
濱井妙子	大野直子、濱井妙子、岡部純子 (3名)、医療通訳学習環境に関する一考察、国際基督教大学学報 1-A 国際基督教大学 『教育研究』、65、1-7、2023
菅原清子	菅原清子・加藤京里・山口みのり・永谷幸子(4名)、A大学における看護学生のコミュニケーション・スキルの特徴と学年による違い、日本看護医療学会雑誌、24(2)、36-43、2022
	菅原清子・永谷幸子他 (3名)、短時間のハンドマッサージによるリラクゼーション効果、医学と生物学、162、1-9、2022
加藤京里	菅原清子・加藤京里・山口みのり・永谷幸子(4名)、A大学における看護学生のコミュニケーション・スキルの特徴と学年による違い、日本看護医療学会雑誌、24(2)、36-43、2022
福島恭子	福島恭子、産科有床診療所の地震対策とBCPに関する考えー実態と要因ー、日本災害看護学会誌、23(3)、39-49、2022
	福島恭子、「産科有床診療所事業継続計画策定ガイド」有用性の検証、日本母子看護学会誌、16(2)、25-33、2023
三崎健太郎	K. Misaki, N. M. Tue, T. Takamura-Enya, H. Takigami, G. Suzuki, L. H. Tuyen, S. Takahashi, and S. Tanabe(8名)、Antiandrogenic and Estrogenic Activity Evaluation of Oxygenated and Nitroated Polycyclic Aromatic Hydrocarbons Using Chemically Activated Luciferase Expression Assays、Int. J. Environ. Res. Public Health、20(1)、80、2023.
ヘムストック ウェンディ リアン	Furuse, M., Nakatsu, D., Hempstock, W., Sugioka, S., Ishizuka, N., Furuse, K., Sugawara, T., Fukazawa, Y., and Hayashi, H. (9名)、Reconstitution of functional tight junctions with individual claudin subtypes in epithelial cells, Cell Structure and Function, 48(1)、1-17、2023
長谷部美紀	長谷部美紀、富安眞理 (2名)、高齢ストーマ保有者とその家族の療養生活への順応過程を支える訪問看護実践、日本在宅ケア学会誌、第26巻第1号、111-119、2022
池田麻左子	池田麻左子他 (4名)、障がい児のケアにおける家族と看護師の「行き違い」に関する実態調査、日本小児看護学会誌、第31巻第63号、219-225、2022
丸山始美	丸山始美、山下早苗、篁宗一 (3名)、ターミナル期にある小児がんの子ども意思決定を支援する看護師の倫理的苦悩についてのナラティブ、日本看護倫理学会誌、15 (1)、83-91、2023

氏名	著者名(著者総数)、論文題名、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
膽畑敦子	膽畑敦子、認知症高齢者とのコミュニケーションスキル自己評価尺度の開発、認知症ケア研究誌、7、9-20、2023
伊藤純子	榎本貴志・木之本奈美・金坂尚礼・高津浩彰・伊藤純子・高橋佐和子（6名）、高専学生寮における学生を主体とする健康教育の試み、豊田工業高等専門学校研究紀要、55巻、15-26、2023
	杉山真澄・鈴木知代・深江久代・伊藤純子（4名）、市区町村母子保健事業のフレームの実態と管理的立場の保健師研修の検討、東海公衆衛生雑誌、10（1）、187-195、2022

### 総説（翻訳を含む）

氏名	著者名(著者総数)、論文題名、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
富安眞理	木村綾・富安眞理・操華子（3名）、認知症高齢者の看護と介護の連携による統合ケアに関するシステムティックスコーピングレビュー、日本在宅看護学会誌、11（1）、81-90、2022.
	富安眞理、脳卒中後遺症を持つ独居高齢者の訪問看護支援、臨床老年看護、29（6）、37-41、2022.
藤田景子	藤田景子、【セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの新展開-"私らしく生きる"を次世代に】性暴力の現状と課題 フォレンジック看護の視点から、医学のあゆみ、281（7）、2022
加納江理	膽畑敦子・木村綾・加納江理・富安眞理（4名）、認知症高齢者グループホームにおける訪問看護・介護による統合的ケアの実態、せいい看護学会誌、13、11-17、2022
池田麻左子	池田麻左子他（2名）、動く重症心身障がい児の受け入れ施設における看護実践と療育活動、小児看護、45（5）、551-556、2022
	池田麻左子他（2名）、二分脊椎の動ける障がい児の成人移行期支援、小児看護、45（5）、605-610、2022
榊みのり	榊みのり、高齢者腎臓病の知識とケアー慢性腎臓病をもつ高齢者・家族への在宅療養支援一、臨床老年看護、29(4)、53-59、2022
栗田真由美	栗田真由美、スコーピングレビューによる在宅の高齢者虐待防止支援に関する研究の現状と課題～日本語論文と英語論文の比較を通して、高齢者虐待防止研究、19（1）、38-50、2023

### 著書(翻訳を含む)

氏名	著者名、書名、発行所、発行年	単著・共著・編著・分担執筆の別	総頁数	執筆頁数
藤田景子	本郷正武・佐藤哲彦編著、藤田景子（19名）、薬害とはなにか 新しい薬害の社会学、ミネルヴァ書房、2023.	共著	282	3
中川有加	中川有加他(21名)、看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 第3版、メヂカルフレンド社、2022年	共著	322	36
永谷実穂	高橋真理監訳、永谷実穂他（15名）、「妊娠中及び産後の不安と抑うつのための認知行動療法 症状の緩和でウェルビーイングを高める」、サイオ出版、2022年	共著	167	38-47
佐藤瑠美	佐藤瑠美、3・11後の労働のデザイン-表現と労働の関係を探る-（ディスカヴァーe-book選書）、ディスカヴァーディスカヴァー・トゥエンティワン、2022	単著	151	

### 教科書の執筆・作成

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年	単著・共著の別
山田 紋子	北川雄光・江川幸一(編)、山田紋子他(38名)、系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院、2023年	共著
山口みのり	山口みのり他（35名）、2023年度版 准看護師試験問題集、医学書院、2022年	共著

### 紀要

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
福島 恭子	福島恭子、産科医療における災害対策と診療所の事業継続計画（Business Continuity Plans=BCP）に関するスコーピングレビュー、経営情報イノベーション研究、11、19-39、2022

書評・報告書・編注等

氏名	著者名(著者総数)、タイトル、冊子名、巻、始頁と終頁、発行年
太田尚子	太田尚子、周産期のメンタルヘルス パリネイタル・ロスで子どもを亡くした母親や家族へのグリーフケア、精神科看護、50 (1)、P11-17、2022年
畑中純子	畑中純子、産業看護職の教育体制：看護基礎教育の現状、産業保健と看護、15 (1)、50-55、2023
篁宗一	近藤美保・遠藤りら・長澤利枝・篁宗一 (4名)、精油を使用した足浴と手浴が統合失調症患者と看護学生の関わりに与えた影響、アロマリサーチ、23 (2)、166-170、2022
	近藤美保・遠藤りら・長澤利枝・篁宗一 (4名)、看護学生を事例とした若い女性の化粧行動に表れる精神健康状態の影響、保健の科学、64 (10)、711-718、2022
長澤利枝	近藤美保・遠藤りら・長澤利枝・篁宗一 (4名)、看護大学生を事例とした若い女性の化粧行動に表れる精神健康状態の影響、保健の科学、64 (10)、711-718、2022
	近藤美保・遠藤りら・長澤利枝・篁宗一 (4名)、精油を使用した足浴と手浴が統合失調症患者と看護学生の関わりに与えた影響、アロマリサーチ、23 (2)、166-170、2022
膽畑敦子	膽畑敦子・木村綾・加納江理・富安眞理 (4名)、認知症高齢者グループホームにおける訪問看護・介護による統合的ケアの実態、せいい看護学会誌、13 (1)、11-17、2022
近藤美保	近藤美保・遠藤りら・長澤利枝・篁宗一 (4名)、精油を使用した足浴と手浴が統合失調症患者と看護学生の関わりに与えた影響、アロマリサーチ、23 (2)、166-170、2022
	近藤美保・遠藤りら・長澤利枝・篁宗一 (4名)、看護学生を事例とした若い女性の化粧行動に表れる精神健康状態の影響、保健の科学、64 (10)、711-718、2022
遠藤りら	近藤美保・遠藤りら・長澤利枝・篁宗一 (4名)、看護大学生を事例とした若い女性の化粧行動に表れる精神健康状態の影響、保健の科学、64 (10)、711-718、2022
	近藤美保・遠藤りら・長澤利枝・篁宗一 (4名)、精油を使用した足浴と手浴が統合失調症患者と看護学生の関わりに与えた影響、アロマリサーチ、23 (2)、166-170、2022
伊藤純子	伊藤純子・高橋佐和子 (2名)、遊びを通して「完璧な子育てはない」ことに気づく「子育てあるあるすごろく」の活用のすすめ、臨床助産ケア、15 (1)、38-44、2023

特別講演・招待講演

氏名	講演のタイトル	学会の名称	講演時間	開催地	発表日
山田 紋子	ケアの受け手と医療者の視点から現象を理解すること ～両者の折り合いの中から生まれる看護実践～	第 28 回 日本看護診断 学会学術大会	60 分	Web	令和 4 年 7 月 16 日
富安真理	看護系大学の教員として考える教育カリキュラムの現状と課題	第 12 回 日本在宅看護 学会学術集会	10 分	東京都	令和 4 年 11 月 19 日
藤田景子	周産期における DV 支援～助産師にできること～	第 62 回 日本母性衛生 学会	90 分	神戸市	令和 4 年 9 月 10 日
	周産期から育児期における DV 被害の実態と助産師に必要とされるケアの視点	令和 4 年度 山梨県母性衛生 学会	90 分	Web	令和 4 年 10 月 30 日
	周産期に見逃さないで！ドメスティック・バイオレンス～周産期の DV 子ども虐待に助産師がどう取り組むか？	第 36 回 三重県母性衛生 学会	60 分	津市	令和 4 年 11 月 20 日
永谷実穂	更年期からのヘルスケアとメノポーズカウンセラーの活動について	第 20 回 日本更年期と加 齢のヘルスケア 学会	20 分	Web	令和 4 年 10 月 30 日
濱井妙子	外国人支援者としての医療通訳者	ヘルスコミュニ ケーションウィ ーク 2022, 第 1 回日本医療通訳 学会学術集会	90 分 (講演 20 分、 議論 30 分)	名古屋 市	令和 4 年 10 月 1 日
ヘムストック ウェンディ リアン	Claudin-15 is responsible for the conductance and permselectivity of the murine cecum and large intestine	第 100 回 日本生理学会 大会	20 分	京都市	令和 5 年 3 月 15 日

一般発表（口述・ポスター）

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
山田 紋子	令和4年度カリキュラム改正に伴う看護実践能力獲得に関する臨地実習における教授方法の検討	US フォーラム 2022	静岡市	令和4年4月
荒井 孝子	装着型の乳がん自己触診シミュレータの開発	第54回日本医学教育学会	高崎市	令和4年8月5日
堀 芽久美	Accessibility to cancer care hospital and its relationship to cancer incidence and stage at diagnosis	第81回日本癌学会学術総会	横浜市	令和4年9月30日
濱井 妙子	医療現場における多言語 音声翻訳アプリの精度と活用方法の検討	ヘルスコミュニケーションウィーク 2022, 第1回日本医療通訳学会学術集会	名古屋市	令和4年10月1日
前野 真由美	新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とする医療通訳者および外交人支援者向けの勉強会	日本国際保健医療学会 第36回東日本地方会	福島市	令和4年5月14日
佐藤 瑠美	コロナ禍における遠距離介護の実態と課題-NPO 法人パオッコに寄せられた体験の内容分析に基づいて-	社会デザイン学会	Web	令和4年12月4日
加納 江理	難病コミュニケーション支援研修会の実践報告	第13回せいれい看護学会	浜松市	令和4年9月10日
	在宅看護学実習における臨床判断能力育成に向けたシュミレーション試験の実施報告	第12回日本在宅看護学会	東京都	令和4年11月19日
三崎 健太郎	肺上皮細胞において炎症性サイトカインを産生する多環芳香族化合物	US フォーラム 2022	静岡市	令和4年4月20日

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
三崎健太郎	肺上皮細胞における多環芳香族化合物による炎症性サイトカイン誘導パターン	第27回日本エンドトキシン・自然免疫研究会	広島市	令和4年 11月26日
ヘムストック ウェンディ リアン	Claudin-15 is the molecule responsible for the conductance and permselectivity of the murine cecum and large intestinal epithelia	Europhysiology 2022	デンマーク	令和4年 9月16日
長谷部美紀	新卒訪問看護師の緊急電話対応支援 ー緊急対応チェックシートの作成とロールプレイングの実践ー	第12回日本在宅看護学会学術集会	Web	令和4年 11月19日
飯塚真樹	諸外国における高齢者への身体拘束廃止に向けた研究の動向に関する文献レビュー	日本看護倫理学会第15回年次大会	沼津市	令和4年 5月28日～ 29日ハイブリット開催
梶山千珠子	Essential Skills Required for Front-Line Staff Under Man-Made Disasters: Narratives of Healthcare Workers Dealing with Victims of The Tokyo Subway Sarin Attack	The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	Taipei: Taiwan	令和4年 10月19日
	人為災害の災害サイクルの検討：地下鉄サリン事件の被災者対応を経験した医療従事者の語りから	第42回日本看護科学学会学術集会	広島市	令和4年 12月3日
大和田裕美	The development of concern among midwives during maternal health checkups	26th East Asia Forum of Nursing Scholars 2023	Web	令和4年 2月10日～ 3月31日 オンデマンド 配信



氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
大和田裕美	病院で出産する女性と助産師との関係の成り立ち	第48回 日本保健医療社会学会 大会	Web	令和4年 5月29日
丸山始美	ターミナル期にある小児がんの子どもの意思決定を支援する看護師の倫理的苦悩についての語りの構造と特徴	日本看護倫理学会 第15回年次大会	沼津市	令和4年 5月
榊みのり	トルバプタンを導入する常染色体顕性多発性嚢胞腎（ADPKD）患者のセルフマネジメントに関する文献検討	第25回日本腎不全看護学会学術集会	名古屋市 ハイブリッド	令和4年 10月15日～ 10月16日 オンデマンド 配信 10月24日～ 11月24日
栗田真由美	地域共生社会を目指したステークホルダーを活かす重層的支援体制の整備	第42回 日本看護科学学会	広島市	令和4年12 月3日
	在宅の高齢者虐待防止支援に関するスコーピングレビュー	第42回 日本看護科学学会	広島市	令和4年12 月3日
伊藤純子	広報委員会企画：SNSを通じて公衆衛生看護活動の価値を再発見しよう	第11回 公衆衛生看護学会 学術集会	仙台市	令和4年12 月18日
	ニュータウンを対象とした健康支援に関する国内の研究動向に関する文献研究	第11回 公衆衛生看護学会 学術集会	仙台市	令和4年12 月17日～18 日

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
太田尚子	13トリソミーまたは18トリソミーと確定診断された妊婦へのケア	第50回 日本女性 心身医学会 学術集会	田中梨穂、 篁宗一、 太田尚子	Web	令和4年 8月
	新婚期にある夫婦が結婚生活におけるパートナーシップを形成する上で抱く困難	第63回日本 母性衛生学 会学術集会	谷澤和、 太田尚子	神戸市	令和4年 9月
	妊娠期の初産婦がインターネットを用いて行う妊娠に関する情報取得時の困難と情報への対処方法	第63回日本 母性衛生学 会学術集会	長谷川美波 太田尚子	神戸市	令和4年 9月
	ペリネイタル・ロスを経験した母親の行政へのサポート・ニーズ	第11回日本 公衆衛生看 護学会学術 集会	鈴木紗衣、 太田尚子	Web	令和4年 12月
	流産・死産・乳児死亡経験者に対するアンズスマイルの活動報告	第34回静岡 県母性衛生 学会学術集 会	押尾亜哉、 佐野瑞穂、 太田尚子	静岡市	令和5年 2月
	妊娠期における産後うつ病を予防するための看護職による効果的な支援に関する文献検討	第34回静岡 県母性衛生 学会学術集 会	増田梨那、 太田尚子	静岡市	令和5年 2月
山田紋子	新型コロナ感染対策下での看護実践能力獲得に向けた看護学教育に関する実践研究	USフォーラム2022	林みよ子、 山田紋子、 田中範佳他	静岡市	令和4年 4月
	臨床判断能力向上におけるシミュレーション教育プログラムに関する検討	USフォーラム2022	松裏豊、 山田紋子、 田中範佳	静岡市	令和4年 4月
林みよ子	救急・集中領域において認定・専門看護師が家族を看る専門的判断と実践	第29回日本 家族看護学 会	泊祐子、 堀理江、 林みよ子	広島	令和4年 9月10 日

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
荒井孝子	初回受診時の人間ドックにおいて eGFR 異常にかかわる因子の検討	第 63 回 日本人間 ドック学会	望月彩月	千葉市	令和 4 年 9 月 2 日
	人間ドックデータにおける eGFR の短期的変化に影響する因子の検討	第 63 回 日本人間 ドック学会	中澤亜衣	千葉市	令和 4 年 9 月 2 日
	人間ドックデータで検討した eGFRcre と eGFRcys の乖離に関する研究	第 63 回 日本人間 ドック学会	井上智香子	千葉市	令和 4 年 9 月 2 日
富安真理	在宅看護学実習における臨床判断能力育成に向けたシミュレーション試験の実施報告	第 12 回 日本在宅 看護学会	加納江理	東京都	令和 4 年 11 月 19 日
	認知症グループホームに携わる訪問看護事業所における統合ケアの提供体制の検討	医療の質・ 安全学会	木村綾	神戸市	令和 4 年 11 月 28 日
	軽度要介護者に対する退院支援の充実による介護予防の推進 在宅療養者へのアンケート調査から	第 13 回 せいい 看護学会	湯澤まさみ	浜松市	令和 4 年 9 月 19 日
	地域共生社会を目指したステークホルダーを活かす重層的支援体制の整備	第 42 回 日本看護 科学学会	栗田真由美	広島市	令和 4 年 12 月 3 日
篁宗一	13 トリソミーまたは 18 トリソミーと確定診断された妊婦へのケア	第 50 回 女性心身 医学会	田中梨穂、 篁宗一、 太田尚子	東京都	令和 4 年 8 月
山下早苗	ターミナル期にある小児がんの子ども意思決定を支援する看護師の倫理的苦悩についての語りの構造と特徴	日本看護 倫理学会 第 15 回年次 大会	丸山始美、 山下早苗、 篁宗一	沼津市	令和 4 年 5 月
	児童相談所に配置されている保健師の保健活動に関する実態調査 - 第一報：配置の実態 -	第 81 回 日本公衆 衛生学会	藤田登志美 山下早苗、 畑中純子、 鈴木千智	甲府市	令和 4 年 10 月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	中学生の受動喫煙への対処行動に関する実態調査	第 81 回日本公衆衛生学会	大竹恵子、山下早苗、鈴木千智	甲府市	令和 4 年 10 月
畑中純子	産業看護職と臨床看護職との連携の仕組みづくり	第 11 回日本産業看護学会	畑中三千代	北九州市	令和 4 年 11 月 27 日
堀芽久美	乳がんサバイバーにおける身体活動介入の費用対効果：マイクロシミュレーション研究	第 81 回日本公衆衛生学会総会	齋藤 英子	甲府市	令和 4 年 10 月 8 日
山口みのり	大学横断型ワークショップによる看護学生の変容プロセス；認知症の方へのコミュニケーション技術を焦点に	第 42 回日本看護科学学会	河合桃代、大宮裕子、内山孝子、茂野香おる、殿城友紀、山口みのり	広島市	令和 4 年 12 月
成瀬早苗	Examination of readiness for responsible attitudes for learning prior clinical practicum in nursing: Analysis by Text Mining	第 26 回東アジア看護学者フォーラム:EAFONS 会議	有田弥棋子、加藤真由美、成瀬早苗	東京都	令和 4 年 3 月 10 日～11 日
	諸外国における高齢者への身体拘束廃止に向けた研究の動向に関する文献レビュー	日本看護倫理学会第 15 回年次大会	飯塚真樹、宮澤典子、成瀬早苗	沼津市	令和 4 年 5 月 28 日～29 日
濱井妙子	女子大学生の子宮頸がんワクチン接種行動の関連要因-看護系学生と非看護系学生を対象として-	第 13 回ヒューマンケア研究学会学術集会	稲岡 菜月	Web	令和 4 年 11 月 12 日
	外国籍小児と家族への支援の実際-看護師へのインタビュー調査を通して-	第 13 回ヒューマンケア研究学会学術集会	岩山 達成	Web	令和 4 年 11 月 12 日
	希少言語話者が医療通訳を学ぶ	第 37 回日本	大野 直子	Web	令和 4 年

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	時の課題に関するインタビュー調査	国際保健医療学会学術大会			11月20日
加藤京里	足浴前の足背皮膚温と快適な湯温の関連	日本看護技術学会第20回学術集会	細川諄、加藤京里	ハイブリッド（神奈川県）	令和4年11月
	足浴の水深の違いによる足背皮膚温と心理的指標の比較	日本看護技術学会第20回学術集会	木村春香、加藤京里	ハイブリッド（神奈川県）	令和4年11月
加納江理	地域共生社会を目指したステークホルダーを活かす重層的支援体制の整備	第42回日本看護科学学会	栗田真由美、富安眞理、操華子、加納江理	広島市	令和4年12月3日
ヘムストック ウェンディ リアン	Luminal Na <sup>+</sup> concentration is preserved in claudin-15 knockout mice fed a high Na <sup>+</sup> diet	Europhysiology 2022	Nozomi Nagata	デンマーク	令和4年9月17日
	The effect of fasting on sodium-dependent glucose absorption in the mouse proximal small intestine	Europhysiology 2022	Hisayoshi Hayashi	デンマーク	令和4年9月16日
榊みのり	在宅看護学実習における臨床判断能力育成に向けたシミュレーション試験の実施報告	第12回日本在宅看護学会学術集会	加納江理、 膽畑敦子、 榊みのり、 富安眞理	東京都	令和4年11月19日～11月20日 (Web)

## 受賞

氏名	賞名	団体名
中村岬 藤田景子 太田尚子	学術論文賞 奨励賞	日本母性衛生学会

## 2) 外部資金受け入れ

外部資金：(A)文部科学省科学研究費、(B)他の省庁、地方公共団体研究費、  
(C)財団研究費、(D)受託又は委託研究費、(E)奨学寄付金、(F)その他

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
太田尚子	(A)	基盤研究(C)	チームリーダーのためのペリネイタル・ロス看護者研修プログラムの開発	R4	延長	代表
	(A)	基盤研究(C)	悲嘆作業と新しい命を迎えるチャレンジ—周産期喪失後の2つの課題への適応支援	R4	50	分担
林みよ子	(A)	基盤研究(C)	若手看護師の脳血管疾患患者に対する早期在宅移行支援実践力育成に関する介入研究	R4	650	代表
荒井孝子	(A)	基盤研究(C)	推算 GFR 分析による慢性腎臓病 (CKD) 進展予防のための定量的評価スケールの開発	R4	延長	代表
田中範佳	(A)	基盤研究(C)	術前の呼吸・循環動態安定化を志向した生体情報センサの使用による臨床応用	R4	3,640	代表
	(A)	基盤研究(C)	重症心身障がい児の看護ケアに伴う生体反応を非接触で測定できるデバイスの開発	R4	3,640	分担
	(A)	基盤研究(C)	新型コロナウイルス感染症の呼吸状態を遠隔測定できるデバイスの開発と有用性の検討	R4	2,860	分担
	(A)	基盤研究(C)	慢性期脳卒中患者の睡眠中の呼吸状態を把握できるセンサの開発と看護ケアの検討	R4	3,380	分担
富安真理	(A)	基盤研究(C)	地域特性に応じた訪問看護事業所におけるアウトカムマネジメントモデルの開発	R4	520	分担
篁宗一	(A)	基盤研究(B)	SNS を活用した大学生のメンタルヘルス・リテラシー促進および支援プログラムの開発	R4	1,600	代表
	(A)	基盤研究(C)	量的看護研究における統計的検定の検出力に関する研究	R4	150	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
篁 宗 一	(A)	基盤研究(C)	看護系大学教員のワーク・エンゲイジメン トを高める職場環境改善へのアプローチ	R4	100	分担
	(A)	基盤研究(C)	地域で暮らす精神疾患のある女性患者を対 象とした化粧支援アプリの開発	R4	100	分担
	(B)	その他の研究 費	高齢者の孤立・孤独の予防を目的とするア ンケート実施と「居場所」事業案の作成	R4	350	代表
	(B)	その他の研究 費	公営住宅に居住する独身高齢者の主観的幸 福に関連する要因の検討 社会的孤立、居 場所感との関連	R4	583	分担
	(B)	その他の研究 費	ネット社会による孤立・依存を予防するプ ログラムの開発	R4	1,000	代表
山下 早 苗	(A)	基盤研究(C)	小児を対象とする看護師への看護倫理教育 プログラムの開発	R4	900	代表
藤 田 景 子	(A)	基盤研究(C)	妊娠初期から乳幼児期まで切れ目なく DV 被害母子を支援するモデルの開発に関する 研究	R4	4,160	代表
	(A)	基盤研究(B)	薬害の社会的過程の分析－Biological Citizenship の観点から	R4	17,810	分担
	(A)	基盤研究(B)	SANE-J（日本版性暴力被害者支援看護師） 教育プログラムの開発	R4	17,290	分担
堀 芽 久 美	(A)	基盤研究(C)	慢性期脳卒中患者の睡眠中の呼吸状態を把 握できるセンサの開発と看護ケアの検討	R4	0	分担
	(A)	基盤研究(C)	新型コロナウイルス感染症による地域健康 格差の解析	R4	170	分担
	(A)	基盤研究(C)	新型コロナウイルス感染症の呼吸状態を遠 隔測定できるデバイスの開発と有用性の検 討	R4	0	分担
	(A)	基盤研究(C)	重症心身障がい児の看護ケアに伴う生体反 応を非接触で測定できるデバイスの開発	R4	0	分担



氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
堀 芽 久 美	(A)	基盤研究(B)	終末期のがん関連症状に対する看護支援におけるエビデンスの基盤形成の確立	R4	50	分担
	(A)	若手研究	医療資源へのアクセシビリティ格差が与えるがんリスクおよび予後の地域差に関する研究	R4	916	代表
	(A)	基盤研究(C)	がん関連症状へのケアに関する科学的根拠に基づいた実践の促進プログラムの開発	R4	25	分担
	(B)	厚生労働科学研究費補助金 ：がん対策推進総合研究事業	がん対策の年齢調整死亡率・罹患率に及ぼす影響に関する研究	R4	3,000 (総額)	分担
	(B)	厚生労働科学研究費補助金 ：がん対策推進総合研究事業	国際比較可能ながん登録データの精度管理および他の統計を併用したがん対策への効果的活用の研究	R4	11,500 (総額)	分担
	(B)	国立がん研究センター研究開発費	2021-A-20 がんの地理情報の総合的活用に関する研究	R4	10,800 (総額)	分担
山口みのり	(A)	基盤研究(C)	対話的リフレクションを契機としたキャリア中期看護職の成長に関する研究	R4	1,300	分担
	(A)	基盤研究(C)	看護実践能力の向上に向けた技術習得過程のモデル化と教育プログラムの構築	R4	910	分担
	(A)	基盤研究(C)	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予防のための教育プログラムの開発	R4	650	分担
永 谷 幸 子	(A)	基盤研究(C)	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予防のための教育プログラムの開発	R4	650	分担
	(A)	基盤研究(C)	高齢女性の認知機能を高めるための運動方法の確立：座位行動時間の短縮を目指して	R4	1,300	代表

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
中川 有加	(F)	日本助産学会 奨励研究助成 (A)	搾乳技術習得のためのシステム構築に向けた調査 -経験年数による搾乳技術の相違-	R4	1,000	分担
永谷 実穂	(A)	若手研究	就労更年期女性への認知行動療法を取り入れた健康教育プログラムの開発	R4	1,573	代表
	(A)	基盤研究(C)	地域で暮らす精神疾患のある女性患者を対象とした化粧支援アプリの開発	R4		分担
成瀬 早苗	(A)	基盤研究(C)	Cynefin フレームワークを基盤とした専門職連携総合力教育プログラムの構築	R4~ R7	3,380	分担
杉山 眞澄	(A)	基盤研究(C)	公衆衛生看護管理者を対象としたシミュレーション型能力育成プログラム開発	R4	1,000	分担
	(A)	基盤研究(C)	ニュータウン住民の互助を促進する地区組織・住民組織活動モデルの開発	R4	500	分担
濱井 妙子	(A)	基盤研究(C)	医療通訳者介在の診療場面における通訳の正確性と患者アウトカムとの関連	R4	501	代表
	(A)	基盤研究(C)	医療通訳者を含むチーム医療における協働モデルの構築	R4	400	代表
	(A)	基盤研究(C)	多言語社会に対応したやさしい日本語を用いた医療通訳養成教材の研究と開発	R4	229	分担
	(A)	基盤研究(B)	医療における「やさしい日本語」の有効性検証と通訳者と協働できる教育プログラム開発	R4	100	分担
管原 清子	(A)	基盤研究(C)	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予防のための教育プログラムの開発	R4	650	代表
	(A)	基盤研究(C)	慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する Facial Cooling の効果	R4	1,040	分担
	(A)	基盤研究(C)	高齢女性の認知機能を高めるための運動方法の確立 -座位行動時間の短縮を目指して-	R4	650	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
加藤京里	(A)	基盤研究(C)	慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する Facial Cooling の効果	R4	1,040	代表
	(A)	基盤研究(C)	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予 防のための教育プログラムの開発	R4	650	分担
	(A)	基盤研究(C)	高齢女性の認知機能を高めるための運動方 法の確立：座位行動時間の短縮を目指して	R4	650	分担
	(A)	基盤研究(C)	2週間の排便日誌から排便パターンを分類す る新しい看護アセスメント方法の確立	R4	2,210	分担
前野真由美	(A)	基盤研究(C)	在住外国人の終末期ケアの在り方に関する 研究	H29	2,990	代表
加納江理	(A)	基盤研究(C)	ALS 患者の病気の受容に応じたコミュニケ ーション機器導入のためのケアガイドの作 成	R4	50	分担
	(C)	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団	浜松市神経難病療養者 支援者の会	R4	500	代表
三崎健太郎	(A)	基盤研究(C)	含酸素芳香族炭化水素類 (oxy-PAHs) に対 する統合的大気環境リスク評価	R2	4,420	代表
中岡正昭	(A)	基盤研究(C)	新型コロナウイルス 感染症の呼吸状態を遠 隔測定できるデバイスの開発と有用性の検 討	R3	2,860	代表
鈴木郁美	(A)	基盤研究(C)	慢性期脳卒中患者の睡眠中の呼吸状態を把 握できるセンサの開発と看護ケアの検討	R4	1,126	代表
大和田裕美	(A)	若手研究	助産ケアにおける女性と助産師との相互行 為に関する研究	R4	928	代表
池田麻左子	(A)	基盤研究(C)	重症心身障がい児の看護ケアに伴う生体反 応を非接触で測定できるデバイスの開発	R4	175	代表
丸山始美	(A)	基盤研究(C)	ターミナル期にある小児がんの子どもを対 象とする看護師の道徳的レジリエンス	R4	600	代表

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額単 位:千円	代表分担 の別
膽 畑 敦 子	(C)	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団	認知症高齢者を支援する訪問看護師のコミ ュニケーション学習効果の検証	R4	726	代表
近 藤 美 保	(A)	基盤研究(C)	地域で暮らす精神疾患のある女性患者を対 象とした化粧支援アプリの開発	R4	1,300	代表
	(A)	基盤研究(B)	SNS を活用した大学生のメンタルヘルス・ リテラシー促進および支援プログラムの開 発	R4	30	分担
遠 藤 り ら	(A)	基盤研究(C)	看護系大学教員のワーク・エンゲイジメン トを高める職場環境改善へのアプローチ	R4	1,560	代表
栗 田 真 由 美	(A)	研究活動スタ ート支援	専門職連携における意思決定水準を高める 高齢者虐待支援の指標開発	R4	808	代表
伊 藤 純 子	(A)	基盤研究(C)	超高齢化ニュータウンにおける主体的な予 防活動の動機づけ支援看護介入プログラム 構築	R4	1,200	代表
	(A)	基盤研究(C)	「障害の社会モデル」を重視したリハビリ テーションのための内省型研修プログラム 開発	R4	20	分担
	(A)	基盤研究(C)	公衆衛生看護管理者を対象としたシミュレ ーション型能力育成プログラム開発	R4	200	分担

3) 令和4年度学部研究推進費等

令和4年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位： 千円)	研究分担者 の氏名
太田尚子	ふじの国ペリネイタル・ロス自助グループの集い	243	福島恭子 大和田裕美 長屋和美 中川寿恵 永谷実穂 藤田景子
山田紋子	コロナ禍における成人看護学領域で必要とされる看護実践能力の獲得に関する臨地実習プログラムの検討と評価	111	田中範佳 林みよ子 前野真由美 鈴木郁美 中岡正昭 星有紀 長谷部美紀
林みよ子	ICTを活用した慢性看護学実習の教育教材作成と評価	232	
荒井孝子	慢性腎臓病（CKD）の診断基準となるeGFRシスタチンおよびeGFRクレアチニンの有用性に関する臨床的意義の検討	309	東野定律 天野隆弘 武田英孝 池田俊也
	ペッサリー自己装着を獲得するための子宮脱モデルおよび患者教育プログラムの開発	89	福島恭子 堀田久美
富安真理	訪問看護師の思考と臨床判断を培う看護基礎教育プログラムの開発	230	加納江理 榊みのり 膽畑敦子 森洋子
山下早苗	コロナ禍に小児看護学実習を行った学生の卒後評価－実習教育施設（静岡県立こども病院）との協働－	343	小澤久美
堀芽久美	ライフスタイルの変容が疾病発生リスク及び寿命に与える影響の予防	281	
山口みのり	病棟における看護師の生活行動援助の実態と認識－看護と看護教育の歴史的変遷で見出された視点からの検討	111	有家香 八代律子 服部美穂

令和4年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位： 千円)	研究分担者 の氏名
	コロナ禍における実習経験の少ない新人看護師の看護実践能力と教育プログラムの構築	150	成瀬 早苗
永谷 幸子	静岡県における地域在住高齢者のフレイルの実態とフレイル予防活動の効果	550	管原清子 加藤京里 成瀬早苗
永谷 実穂	これからの女性の健康を考えようー生き生きとステキに年を重ねるためにー	236	永谷幸子 管原清子 近藤美保
管原 清子	教育用電子カルテを活用した学内実習の学習効果	747	永谷幸子 山口みのり 加藤京里
加藤 京里	看護ケアにおける看護師の前腕の汚染に関する実験的検証	553	永谷幸子 山口みのり 管原清子
加納 江理	神経難病療養者の在宅療養支援に関する IPW 状況調査	250	富安眞理 河野貴大 赤石ゆかり 原口道子
根岸まゆみ	3カ国5大学連携によるグローバル看護教育プログラムの開発	680	
三崎 健太郎	多環芳香族化合物の毒性作用機序に関わる遺伝子発現評価	292	高野裕久 井上健一郎 高村岳樹
Hempstock Wendy Leanne	The relationship between nutrient sensing and morphological adaptation in the small intestine	160	
中岡 正昭	最適看護ケアを客観的評価できるデバイスの開発と有用性の検討	124	
長谷部美紀	壮年期の終末期がん療養者と家族のニーズと求める支援	334	林みよ子 山田紋子 田中範佳

令和4年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位： 千円)	研究分担者 の氏名
長屋和美	静岡県において医療的ケア児等コーディネーターが行う未就園児の家族支援における課題	269	太田尚子 藤田景子
池田麻左子	重症心身障がい児が最善の生活をするために COVID-19(コロナ)との共生を視野に入れた看護実践の課題	208	
丸山始美	子どもを対象としたアドバンスケアプランニング(ACP)の検討-静岡県立こども病院における現状と課題-	303	加藤由香 石垣美千留
梁川明	在宅で定期補充療法を行う男性血友病患者の思春期における出血症状の体験	465	
高木静	病院出産を選択する女性が妊娠期から地域開業助産師と繋がることによる産後うつ予防の効果	264	大和田裕美 太田尚子 藤田景子 中川有加 永谷実穂 福島恭子
近藤美保	精神疾患を有する女性の気になる更年期に関する心身の不調に関する実態調査ー精油を用いた更年期症状のセルフケア行動獲得を目指してー	371	永谷実穂 遠藤りら 長澤利枝 篁宗一
遠藤りら	静岡県下に在籍する看護系大学教員のメンタルヘルスに関する研究～職場環境の特性と精神的健康の関連～	365	
栗田真由美	高齢者虐待防止支援における分離と在宅生活継続の判断指標の開発	105	

令和4年度COC事業地域を志向した研究

氏名	テーマ	受領総額 (単位： 千円)	代表分担の 別
富安 真理	地域特性に応じた重層的支援体制整備に関するニーズの検討—保健医療福祉の専門性や社会資源の活用による包括的支援に焦点をあてて	200	代表
篁 宗一	令和4年度地(知)の拠点事業(OCC事業)「地域を志向した研究」	96	代表
前野 真由美	生涯活躍のまち静岡(静岡市CCRC)事業における「地域を志向した研究」多文化共生を踏まえた静岡市駿河区地域の健康増進と地域資源の発見の研究	200	分担



#### 国内共同研究の状況

氏名	年度 (研究 期間)	研究テーマ	共同研究者 (所属)	役割
林みよ子	令和4 年度(令 和2年 ～令和 5年)	救急・集中ケア領域における家族看護ア セスメント・介入モデル作成	泊祐子（関西福祉大 学） 堀理江（関西福祉大 学）	分担
三崎健太郎	平成23 年～	AhR を介した多環芳香族化合物の毒性に 対する評価研究	高村岳樹（神奈川工 科大学）	PACs に よる 毒性パ ターン 評価
榊みのり	令和4 年～令 和5年	常染色体顕性多発性嚢胞腎（ADPKD） 患者におけるトルバプタン導入時のセル フマネジメントに関する検討	山縣邦弘（筑波大学） 齋藤知栄（筑波大学） 甲斐平康（筑波大学） 操華子（静岡県立大 学） 富安眞理（静岡県立 大学）	究計画 立案， データ 収集， 分析， 論文執 筆

#### 4) 海外研修活動

氏名	事業の名称または目的	研修期間（日数）	研修先
な し			

5) その他特記事項

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
荒井孝子	看護師特定行為研修 厚生労働省への変更申請	令和4年4月～令和5年3月まで	
	看護師特定行為研修 厚生労働省への予算申請、執行、報告書作成	令和4年4月～令和5年3月まで	
	教育訓練給付制度（特定一般教育訓練）の申請	令和4年9月～令和5年3月まで	
	特定行為研修入講宣伝活動	令和4年4月～令和5年3月まで	
富安眞理	訪問看護リカレント研修会 学生の臨床判断能力育成を支援する教育手法－基礎編 講師 米国オレゴン健康科学大学（教授） キャシー・ラサター氏	令和4年8月27日 3:30～16:00 Web 開催	静岡県立大学看護学部 在宅看護学領域・看護 教育研究実践センター 共催
山下早苗	Narrative 研究会（有志者による研究会を 発足し、1回/2ヶ月 Zoom による活動運 営）	令和4年12月～	代表
堀芽久美	静岡社会健康医学大学院大学 客員研究員 活動内容：静岡多目的コホート事業賀茂健 康長寿研究「かもけん！」への調査参加	令和4年4月1日～ 令和5年3月30日	
山口みのり	看護師国家試験模試問題執筆	令和4年4月～令和 5年3月	
永谷幸子	静岡社会健康医学大学院大学 客員研究員	令和4年4月～令和 5年3月	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
成瀬早苗	「ふじのくに」みらい共育センターにおける「地（知）の拠点」としての分野横断型ウェルビーイング研究・地域貢献活動の推進	令和4年4月～令和5年3月	分担
	静岡社会健康医学大学院大学 社会医学研究センター 客員研究員 静岡県立大学コホート研究支援ワーキンググループ：静岡コホート研究「かもけん！事業」に参加	令和4年4月～令和5年3月 実施日：12月24～26日 1月28～30日	研究事項： 大規模多目的ゲノムの構築とゲノム・臨床形質の関連解析
福島恭子	子宮脱整復・ペッサリー着脱トレーニングシミュレータの開発	令和2年4月～	京都科学
	骨盤臓器脱がわかる本ーもうひとりで悩ませないーの作成	令和3年4月～	京都科学
	第42回看護科学学会学術集会アカデミックプラザ展示「女性の健康生活改善計画ー子宮脱を自分でコントロールしようー」	令和4年12月4日～12月5日	
ヘムストック ウェンディ リアン	イギリス生理学会の「Physiology News」の編集委員会委員、内容：雑誌のテーマを決めること、記事の編集すること、最近の研究のサマリーを書くこと	令和3年8月～	
	「Bio Protocol」の論文の査読者、内容：投稿された論文をレビューすること	令和3年11月～	
榊みのり	論文の被引用（日本看護科学学会誌/原著論文）	令和4年12月26日	
栗田真由美	COC「地域特性に応じた重層的支援体制整備に関するニーズ調査」	令和4年4月～令和5年3月	

## VIII.学部・研究科としての社会貢献

### 1. 国・地方自治体における活動

氏名	従事先	従事する職名	任期
太田尚子	茨城県立医療大学大学院 保健医療科学研究科	非常勤講師 「看護倫理」	令和4年4月～ 令和5年3月
山田紋子	静岡県立総合病院	静岡県立総合病院臨床研究倫理 委員会 外部委員	令和4年4月～令 和6年3月
	静岡県立総合病院	看護部倫理研究倫理審査会 外 部委員	令和4年4月～令 和5年3月
林みよ子	静岡県立総合病院	看護研究研修会講師	令和4年4月～令 和5年3月
	静岡県看護協会	看護管理者ファーストレベル講 師	令和4年4月～令 和5年3
井上健一郎	静岡県立大学短期大学部	産業医	令和4年4～令和 5年3月
荒井孝子	国際医療福祉大学大学院	特定行為研修管理委員会外部委 員	令和4年4月～令 和5年3月
	静岡済生会総合病院	地域医療支援病院運営委員委員	令和4年4月～令 和5年3月
富安真理	静岡市	健康福祉審議会委員	平成31年4月～ 令和5年3月
	厚生労働省	東海北陸地方社会保険医療協議 会委員	平成31年4月～ 令和5年3月
	静岡県立大学看護学部	看護実践教育研究センター 研究員	令和2年12月～ 令和5年3月
篁宗一	静岡市	認知症対策推進協議会会長	平成29年4月～ 令和5年3月
	静岡市	自殺対策推進協議会会長	平成29年4月～ 令和5年3月
	静岡市	精神医療審査会委員	平成29年4月～ 令和5年3月

氏名	従事先	従事する職名	任期
篁 宗 一	静岡市立清水看護専門学校	非常勤講師	平成 30 年 4 月～ 令和 5 年 3 月
	静岡福祉大学	非常勤講師	令和 4 年 4 月～令 和 5 年 3 月
山 下 早 苗	山梨県立大学大学院 看護学研究科	非常勤	令和 4 年 8 月
畑 中 純 子	島田市	健康づくり推進協議会委員	令和 4 年 4 月～令 和 5 年 3 月
	飯田女子短期大学	非常勤講師	令和 4 年 4 月～令 和 5 年 3 月
藤 田 景 子	静岡市男女共同参画審議会	委員	令和 3 年 6 月～令 和 5 年 5 月
山 口 み の り	国立大学法人 静岡大学	非常勤講師	令和 4 年 10 月～ 令和 5 年 3 月
永 谷 実 穂	焼津市	介護保険認定審査委員	令和 2 年 4 月～令 和 5 年 3 月
成 瀬 早 苗	特別養護老人ホーム久能の里	第三者委員	令和 4 年 4 月～令 和 6 年 3 月 31 日
	静岡市	静岡市介護認定審査会委員	令和 4 年 4 月～令 和 7 年 3 月 31 日
鈴 木 和 香 子	静岡市医療的ケア児等支援 協議会	委員	令和 3 年度～ 令和 4 年度
	静岡県発達障害者支援地域 協議会	委員	継続
杉 山 眞 澄	静岡県立看護専門学校	学校関係者評価委員会委員	令和 4 年 4 月～令 和 5 年 3 月
	静岡市保健所	静岡市保健所運営協議会委員	令和 3 年 7 月～令 和 5 年 6 月
	組合立静岡県中部看護専門 学校	教育課程編成委員会委員	令和 4 年 4 月～令 和 5 年 3 月
鈴 木 千 智	静岡市健康づくり推進課	新任期研修 講師	令和 4 年 4 月～令 和 5 年 3 月
	静岡県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程	認定看護師教育課程講師	

氏名	従事先	従事する職名	任期
濱井 妙子	沼津市	沼津市開発審査会委員	令和3年11月～ 令和4年10月
管原 清子	静岡市立静岡病院	地域医療支援委員会委員	令和4年4月～ 令和5年3月
	静岡市立清水病院	地域医療支援委員会委員	令和4年4月～ 令和5年3月
	静岡市立清水看護専門学校	教育課程編成会議委員	令和4年4月～ 令和5年3月
佐藤 瑠美	静岡市	研修講師等	令和4年4月～ 令和5年3月
加納 江理	浜松市	介護認定審査員	令和2年4月～ 令和4年3月
池田 麻左子	静岡県立こども病院	嘱託看護師	令和4年4月～ 令和5年3月
	岐阜県立大学 大学院	非常勤講師	令和4年4月～ 令和5年3月
膽畑 敦子	新卒訪問看護師育成委員会	委員会委員	令和3年～ 令和4年
近藤 美保	静岡市支援センターみらい	運営委員	令和4年4月～ 令和5年3月
	静岡市立清水看護専門学校	非常勤講師	令和4年6月
	静岡福祉大学	非常勤講師	令和4年4月～ 令和5年3月
遠藤 りら	静岡市立清水看護専門学校	非常勤講師	令和4年4月～ 令和5年3月
栗田 真由美	静岡県	重層的相談支援体制構築事業 アドバイザー	令和3年4月～
	中央医療健康大学校	非常勤講師	令和2年4月～
伊藤 純子	金城大学 公衆衛生看護学専攻科	講師	令和4年8月 5～6日
	静岡県立大学薬学部	講師	令和4年8月 5～6日

## 2. 学会・職能団体等の役員・評議会・委員会活動

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
太田尚子	一般社団法人 日本助産学会	専任査読者	令和3年4月～ 令和5年3月
	一般社団法人 日本助産学会	代議員	令和4年3月～ 令和6年10月
	静岡県母性衛生学会	副議長、理事	令和2年4月～ 令和5年3月
	一般社団法人 日本看護系大学協議会	社員	平成31年4月～ 令和5年3月
	公立大学協会 看護・保健医療部会	部会長	令和4年8月～ 令和5年3月
	日本ペリネイタル・ロス研究会	代表	平成21年4月～ 令和5年3月
	聖路加国際大学「天使の保護者ルカの会」	運営委員	平成16年9月～ 令和5年3月
山田紋子	日本看護診断学会	理事、専任査読委員	令和元年7月～ 令和4年7月
	日本看護診断学会	評議員、編集委員、専任査読委員	令和4年7月～ 令和7年7月
林みよ子	日本クリティカルケア看護学会	理事・査読委員	令和3年5月～ 令和5年6月
	日本救急看護学会	評議員・査読委員	令和3年10月～ 令和4年9月
	日本看護研究学会	専任査読委員	令和4年4月～ 令和6年3月
	日本赤十字看護学会	専任査読委員	令和3年6月～ 令和6年5月
	日本看護診断学会	専任査読委員	令和4年6月～ 令和6年5月
井上健一郎	日本エンドトキシン研究会	理事	令和4年4月～ 令和5年3月
	日本ショック学会	理事	和4年4月1日～ 令和5年3月31日

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
井上健一郎	環境医学会	評議員	令和4年4月～ 令和5年3月
田中範佳	The 34th International Nursing Research Congress	学会査読委員	令和4年4月～ 令和5年3月
	Creating Healthy Work Environments 2023	学会査読委員	令和4年4月～ 令和5年3月
	Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International	助成金査読委員	令和4年4月～ 令和5年3月
富安眞理	日本看護科学学会	専任査読委員	令和4年4月～ 令和5年3月
	日本難病看護学会	専任査読委員	令和4年4月～ 令和5年3月
篁宗一	日本学校メンタルヘルス学会	理事・評議員	令和2年4月～ 令和5年3月
畑中純子	日本産業看護学会	副理事長	令和3年4月～ 令和6年3月
	日本産業看護学会	教育研究委員会委員長	令和3年4月～ 令和6年3月
	日本産業衛生学会	編集委員会委員	令和2年9月～ 令和7年2月
	静岡県保健師会	参与	令和2年4月～
藤田景子	日本助産学会	専任査読委員	令和4年4月～ 令和6年3月
	日本フォレンジック看護学会	専任査読委員	令和4年4月～ 令和6年3月
山口みのり	日本看護学教育学会 教育活動委員会	委員	令和4年4月～ 令和5年3月
	日本看護研究学会	査読委員	令和4年4月～ 令和5年3月
	第24回日本看護医療学会 学術集会	監事	令和4年4月～ 令和5年3月
	第33回日本医学看護学 教育学会	企画委員	令和4年4月～ 令和5年3月



氏名	学会・職能団体	役職名	任期
永谷幸子	日本看護医療学会	事務局員	令和3年～ 令和5年
中川有加	桶谷式母乳育児推進協会	研究倫理審査委員会 委員長	令和4年4月～ 令和6年3月
中川有加	日本助産学会	専任査読委員	令和3年4月～ 令和5年4月
	全国助産師教育協議会	将来構想委員会委員	令和4年4月～ 令和5年1月
	全国助産師教育協議会	助産師国家試験問題作成・登録協力活動 委員	令和4年4月～ 令和6年3月
永谷実穂	一般社団法人 Fumi Horiguchi ウィメンズヘルス研究所	幹事	令和2年4月～ 令和5年3月
鈴木和香子	静岡県専任教員養成講習会運営委員会	委員	令和3年度～継続
	リレー・フォー・ライフジャパン 2022 静岡	実行委員	平成25年度～継続
	静岡県小児保健協会	理事・事務局	令和5年1月まで
	透明人間写真展実行委員会	実行委員	令和4年度
	全国難病の子ども支援ネットワークしぞーかキャンプ実行委員会	実行委員	継続
杉山眞澄	東海公衆衛生学会	評議委員	令和3年4月～ 令和5年3月
	静岡県看護協会	広報委員	令和4年4月～ 令和6年3月
	静岡県国民健康保険団体連合会	保健事業支援・評価委員会委員	令和4年4月～ 令和6年3月
鈴木千智	日本健康福祉政策学会	理事	令和2年4月～ 令和5年3月
濱井妙子	日本健康学会	評議員	平成28年1月～
	日本公衆衛生学会	公衆衛生学会認定専門家	平成23年1月～令和8年3月

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
	日本医療通訳学会	運営委員	令和3年10月1日～
加藤京里	静岡県看護協会	学術研究推進委員	令和2年～ 令和7年
加藤京里	一般社団法人 日本看護技術学会	技術研究成果検討委員会 温罨法班	平成26年4月～ 現在に至る
前野真由美	外国人のための無料健康相談 と検診会	実行委員	令和4年4月～ 令和5年3月
福島恭子	日本助産診断実践学会	理事	令和2年4月～ 令和6年3月
佐藤瑠美	社会デザイン学会	理事	令和4年4月～ 令和5年3月
加納江理	せいらい看護学会	評議員	令和4年10月～ 3年間
ヘムストック ウェンディ リアン	イギリス生理学会	Physiology News 編集委員	令和3年8月～ 令和6年8月
池田麻左子	せいらい看護学会	評議委員	令和2年9月～ 令和4年9月
榎みのり	日本腎不全看護学会	専任査読者	平成27年4月～ (継続)
栗田真由美	中部M-GTA研究会	事務局員	令和3年4月～
伊藤純子	日本公衆衛生看護学会	広報委員	令和4年6月～ 令和6年5月31日

### 3. 学会・シンポジウム等の主催

氏名	学会名	委員長/ 委員	開催日	開催地	参加者 人数
太田尚子	第34回静岡県母性衛生学会 学術集会	委員	令和5年 2月	静岡市	44
荒井孝子	特定行為共催セミナー（静岡県立 大学、富士病院）いざ、患者と共 に在宅へ ～在宅特定看護師の役割期待～	委員	令和5 年3月11 日	静岡市	34
山下早苗	日本看護倫理学会第15回年次大会	実行委員	令和4年 5月28・ 29日	沼津市	700
山口みのり	日本看護学教育学会 学術集会理事会企画	委員	令和4年 9月	オンデマンド	300
	日本看護学教育学会臨地実習 指導研修会	委員	令和5年 3月	Web	100
鈴木和香子	第15回HPS国際シンポジウム・ 研究会	委員	令和5年 3月12日	静岡市	約 300
杉山眞澄	第4回 全国児童相談所に働く 保健師のつどい	共済代表	令和5年 2月4日	東京都	48
加藤京里	第10回静岡県看護学会 〔ハイブリッド〕	委員	令和4年 1月15日	静岡市	204

#### 4. 雑誌編集関連委員

氏名	雑誌名	役職名
田中 範佳	Virginia Henderson Global Nursing e-Repository, Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International	委員
	Journal of Perioperative Practice	委員
富安 眞理	日本在宅看護学会	委員
篁 宗一	日本学校メンタルヘルス学会	編集委員
山下 早苗	看護科学研究	編集委員
鈴木和香子	KANGO : The Japanese journal of nursing	委員
三崎健太郎	International Journal of Environmental Research and Public Health	Guest Editor
ヘムストック ウェンディ リアン	Physiology News	委員
榊 みのり	日本腎不全看護学会誌	委員

## 5. 雑誌の査読

氏名	雑誌名	本数
林 みよ子	日本看護研究学会誌	2
	日本クリティカルケア看護学会誌	2
	日本赤十字看護学会誌	1
	日本救急看護学会雑誌	2
井上健一郎	International Journal of Molecular Sciences	3
富安 眞理	日本在宅看護学会	1
	日本看護科学学会	2
	日本難病看護学会	1
篁 宗一	日本学校メンタルヘルス学会誌	3
	日本公衆衛生学会誌	1
	日本看護協会	3
	看護科学研究	1
山下 早苗	日本看護倫理学会誌	2
	日本看護学会誌	2
畑中 純子	日本産業看護学会	1
藤田 景子	日本助産学会	1
	日本フォレンジック看護学会	2
山口みのり	日本看護研究学会	2
永谷 幸子	日本看護医療学会	1
	日本看護学会誌	4
中川 有加	日本助産学会誌	2
鈴木和香子	日本看護学会誌	5
濱井 妙子	日本ヘルスコミュニケーション学会誌	2
管原 清子	日本看護学会誌	2
加藤 京里	第10回 静岡県看護学会 抄録集	5
加納 江理	日本看護学会誌	4
三崎健太郎	Cancer Informatics (1件)、International Journal of Environmental Research and Public Health (3件)	4

氏名	雑誌名	本数
ヘムストック ウェンディ リアン	Bio Protocol	1
榊みのり	Renal Replacement Therapy	1

## 6. 専門領域の特別講演、セミナー講師、パネラー等

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
太田 尚子	助産師クリニカルラダーレベルⅢステップアップ研修：周産期領域での倫理的課題	公益社団法人静岡県看護協会	静岡市	令和4年6月25日
	「ペリネイタル・ロス ―子どもを亡くした家族に助産師ができること―」	愛知県助産師会	Web	令和4年7月24日
	流産・死産・中絶・新生児死等を経験された方への支援	浜松市健康福祉部健康増進課 母子グループ	Web	令和4年9月29日
	周産期に子どもを亡くした家族のケア	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター	東京都 (対面 & Web)	令和4年11月16日
山田 紋子	領域別実習指導(成人)	静岡県看護協会	静岡市	令和4年9月
	効果的なプレゼンテーション技法	静岡県看護協会	静岡市	令和4年11月12日
荒井 孝子	看護師の特定港研修や特定行為実践の実際～指定研修機関の立場から～	東海北陸厚生局医事課	Web	令和4年9月7日
	看護師特定行為研修指導者講習会講師	公益社団法人有隣厚生会富士病院	Web	令和4年11月12日
富安 眞理	令和4年度 静岡県看護協会看護職員実習指導者等講習領域別実習指導 (地域・在宅)	静岡県看護協会	静岡市	令和4年8月30日
	在宅医療における多職種連携の重要性	静岡市薬剤師会	静岡市	令和4年12月15日
篁 宗一	看護研究発表会の講評	精神科看護技術協会	静岡市	令和4年11月
	講評	復興会 沼津中央病院	Web	令和5年2月1日～28日
	若年層自殺対策研修会	精神保健福祉センター	Web	令和5年2月13日

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
畑中純子	地域診断と PDCA	静岡県中部健康福祉センター	藤枝市	令和 5 年 3 月 7 日
	産業看護職によるメンタルヘルス不調者支援	愛知産業保健総合支援センター	Web	令和 5 年 1 月 31 日
藤田景子	看護研究の基礎－研究計画書にトライ－《質的研究編》	静岡県看護協会	静岡市	令和 4 年 7 月
	研究計画書発表講評会	静岡県看護協会	静岡市	令和 4 年 10 月
	急性期における性暴力被害者の支援と妊娠・人工妊娠中絶	静岡県	静岡市	令和 4 年 11 月
	心理社会的ハイリスクの方への切れ目ない支援について	静岡県中部健康福祉センター	島田市	令和 5 年 1 月
山口みのり	今さら聞けない OJT と off-JT の活用の仕方	戸田中央医科グループ看護局	戸田市	令和 5 年 2 月
中川有加	地域で取り組むプレコンセプションケア	牧之原市健康推進部	牧之原市	令和 4 年 12 月 23 日
成瀬早苗	看護師免許をもつケアマネジャーが捉える対象者、課題、接近法	金沢大学大学院	Web	令和 4 年 5 月
杉山眞澄	静岡県子ども家庭課・新任母子保健従事者研修	静岡県・子ども家庭課	静岡市	令和 4 年 8 月 3 日
	静岡県新任地域保健従事者研修	静岡県・健康増進課	静岡市	令和 4 年 10 月 12 日
	静岡県中・西部総括保健師連絡会	静岡県中部健康福祉センター	藤枝市	令和 4 年 12 月 26 日
	静岡市中堅期・管理期保健師研修	静岡市健康づくり推進課	静岡市	令和 4 年 10 月 14 日
	静岡県・西部健康福祉センター管内中堅期保健師研修	静岡県西部健康福祉センター	磐田市	令和 5 年 1 月 31 日
	静岡県・賀茂健康福祉センター新任保健従事者研修	静岡県賀茂健康福祉センター	下田市	令和 5 年 2 月 10 日
濱井妙子	医療通訳者の倫理・心得	令和 4 年度 静岡県遠隔ビデオによる医療通訳専門講座	Web	令和 4 年 7 月 24 日



氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
濱井 妙子	遠隔ビデオにより模擬医療面接（中国語、フィリピン語、ベトナム語）	令和4年度 静岡県遠隔ビデオによる医療通訳専門講座	静岡市	令和4年8月6日
	遠隔ビデオにより模擬医療面接（ポルトガル語、スペイン語）	令和4年度 静岡県遠隔ビデオによる医療通訳専門講座	静岡市	令和4年8月7日
加藤京里	技術研究成果検討委員会 全国キャラバン研修会「ジェネラルナースの技術力を高めよう：エビデンスに基づく排泄援助の技」温罨法の安全性と効果について	一般社団法人日本看護技術学会	Web	令和5年2月19日
佐藤 瑠美	地域診断の考え方と方法	静岡市	静岡市	令和4年8月
	地域診断におけるアセスメントに焦点を当てて	静岡市	静岡市	令和5年1月20日
加納 江理	気管切開術・喉頭気道分離術とその看護	曲金訪問看護ステーション	静岡市	令和4年10月27日
ヘムストック ウェンディ リアン	埼玉いなほカップ英語ディベート大会のチーフジャージ	HEnDA	Web	令和4年11月6日
	HEnDA 全国大会のチーフジャージ	HEnDA	Web	令和4年12月14日、15日
	英語プレゼン発表会、指導・助言	静岡市立高等学校	静岡市	令和5年1月28日
中岡正昭	看護師特定行為研修（臨床病態生理、臨床推論、疾病病態、医療安全特定行為、フィジカルアセスメント、シミュレーション演習、超音波演習、気管カニューレ交換演習、OSCE）	看護学部附属看護実践教育研究センター	静岡市	令和4年4月14, 26日, 6月21, 22日, 7月1, 4, 20日, 8月24, 26日, 9月14日
	成人看護学「救急看護」講義	穂の香看護専門学校	新城市	令和4年5月13日、27日

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
池田麻左子	小児訪問看護研修会 part5～ 食べる こと～ 「排便障害について学ぶ」	一般社団法人 全国訪問看護師 事業協会	東京 (収録)	令和4年8月
	子育て講座「あっ！危ない、子どもの 周りにひそむ危険」	静岡市中央子育 て支援センター	静岡市	令和4年8月
	2022年度第1回スキルアップ研修 【医療依存度の高いこどもと家族のコー ース】集合研修	一般社団法人 日本小児看護学 会	Web	令和4年9月
	小児看護アセスメント論	岐阜県立看護大 学大学院看護学 研究科 CNS コー ース	羽島市	令和4年 12月
	小児臨床看護学「障害のある子どもと 家族への看護について」	豊橋創造大学	豊橋市	令和4年12 月
	2022年度第2回スキルアップ研修【医 療依存度の高いこどもと家族のコー ース】 集合研修	一般社団法人 日本小児看護学 会	Web	令和5年1月
丸山始美	令和4年度第2回化学療法定期講習会 「アドバンスケアプランニングってな に？～IPOS 導入に向けて学んでみよう ～」講師	静岡県立こども 病院	静岡市	令和5年2月
膽畑敦子	認知症訪問看護研修	静岡県ステーシ ョン協議会	三島市	令和4年 10月
	認知症訪問看護研修	静岡県ステーシ ョン協議会	静岡市	令和4年 12月
栗田真由子	賀茂地域健康福祉研究発表会	静岡県賀茂健康 福祉センター	下田市	令和5年1月
伊藤純子	おもしろ健康教育のつくり方	新潟県看護協会 研修会	Web	令和4年 6月15日
	ウィズコロナ時代でも活かせる おもしろ健康教育のワザ	栃木県市町保健 師研究会	Web	令和4年 5月19日
	α世代に対応した思春期教育の保健指 導・性教育の出前講座づくり	日総研出版	オンデ マンド	令和4年 8月中

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
伊藤純子	自殺予防教育プログラム作成の方法	愛知県西三河 教育委員会 養護教諭研修会	オンデ マンド	令和4年8月 中
	「おもしろ健康教育」の展開に 必要な理論と実践	東播地区市町 保健師協議会 研究会	Web	令和5年1月 30日

7. 一般を対象とする講演（公開講座、公開実習）等

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
太田尚子	ハッピーパパ マタニティ講座	NPO 法人 place of peace、 静岡県立大学看護学部母性看護・助産学領域 主催	静岡市	令和4年8月
	共感セッションプログラム もうすぐ赤ちゃんがやってくる	NPO 法人 place of peace、 静岡県立大学看護学部母性看護・助産学領域 主催	静岡市	令和4年9月
	天使の保護者ルカの会	聖路加国際大学	東京都	令和4年6月、令和5年3月
	ひよこママのサプリ講座	NPO 法人バディプロジェクト、静岡県立大学看護学部母性看護・助産学領域 主催	静岡市	令和4年9月
	ふじの国ペリネイタル・ロス 自助グループの集い	ふじの国ペリネイタル・ロス・サポーター・ネットワーク (主催太田尚子)	静岡市	令和5年3月
畑中純子	働く人々がいきいきと働くための健康支援	静岡県立大学	Web	令和4年11月15日～ 12月13日
藤田景子	STOP 性暴力～子ども達の性被害の現状と被害防止やケアについて考える～	伊豆の国市社会福祉協議会	伊豆の国市	令和4年9月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
永谷幸子	イキイキと更年期を過ごそう！	静岡県立大学 小鹿キャンパス 健康支援センター 女性健康相談室	静岡市	令和4年8月
	イキイキと高齢期を過ごそう！	看護学部附属看護実践センター	静岡市	令和4年9月
中川有加	素敵にエイジング～更年期を上手に過ごすために～	静岡県立大学公開講座	Web (静岡市)	令和4年11月15日～29日
永谷実穂	Women's Health Research Methodology シリーズ 第3回研修会 「ノーコードでアプリ開発の基礎を学ぼう！」	一般社団法人 FUmiHoriguchi ウイメンズヘルス研究所	Web	令和5年3月
	Women's Health Research Methodology シリーズ 第4回研修会 「伝わる！動画コミュニケーション入門編 誰でもできる最新の動編集と画像編集に挑戦」	一般社団法人 FUmiHoriguchi ウイメンズヘルス研究所	Web	令和5年3月
鈴木和香子	令和4年度富士市教育・保育キャリアアップ研修	富士市福祉こども部	富士市	令和4年9月23日
	令和4年度ファミリーサポート事業	伊豆の国市	伊豆の国市	令和4年10月27日
	令和4年度ピアサポーター養成研修	静岡県対がん協会	静岡市	令和4年11月19日
	子育て講座「子どもの応急手当」	静岡市中央子育て支援センター	静岡市	令和5年1月20日
杉山眞澄	長泉セミナー：子どもの虐待と予防	長泉町教育委員会	長泉町	令和4年7月1日
前野真由美	在住外国人の終末期（もしものとき、エンディング）ケアを考える会	静岡県立大学 令和4年度地（知）の拠点（COC）事業	静岡市	令和4年9月11日

## 8. 一般向け教養書、新聞、雑誌への論評・解説

氏名	活動の種類と活動内容の説明	依頼団体	活動・公表・執筆日	掲載日	掲載場所
なし					

## 9. 新聞等メディアへの掲載・出演

氏名	掲載・出演の内容	掲載・出演のメディア名	全国/地方版	掲載・出演日
太田 尚子	亡くなった赤ちゃんとの別れを“なかったこと”にしない。流産、死産などの死別によるグリーフとの向き合い方	NPO 法人 soar (Web)	全国版	令和4年7月28日
	働く女性の流産死産特集、専門家として解説	TBS 「news23」	全国版	令和4年10月13日
	「感情が出なかった」あの時...死産を経て夫婦がつくった語り合いの場」、専門家として解説	朝日新聞 Withnews, yahoo ニース	全国版	令和4年10月12日
	「年間2万人が死産、うつ病へつながるリスクも 周囲は「寄り添い」を」	朝日新聞 Withnews, yahoo ニース	全国版	令和4年11月7日
篁 宗一	40年ぶり復活メンタルヘルスリテラシー教育の意義は	ABEMA Prime	全国	令和4年9月

## 10. その他活動

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
太田尚子	第34回静岡県母性衛生学会学術集会 総会の副議長	令和5年2月12日	静岡市
	座長：静岡県産婦人科医会主催 第14回羽衣セミナー「メンタルヘルスケア」	令和5年2月12日	静岡市
	台風15号による断水で困っているご家族への沐浴支援など	令和4年9月26～30日	ボランティア活動
林みよ子	第18回日本クリティカルケア看護学会学術集会 指定演題「人材育成の基礎知識」座長	令和4年6月12日	
	静岡県立大学看護実践教育研究センター 課題研究2コマ講義 指定演題「人材育成の基礎知識」座長	令和4年5月20日	
	静岡県立大学看護実践教育研究センター 看護職向けリカレント講座 看護研究セミナー1 看護研究の基礎第1回 講師	令和4年6月25日	
荒井孝子	看護師特定行為研修指定研修機関意見交換会	令和4年2月	1回
山下早苗	静岡県立こども病院 看護研究に関する講師・指導助言	令和4年4月～令和5年3月	
	静岡県立こども病院CCU病棟 看護倫理カンファレンスにおける教育的支援	令和4年4月～令和5年3月	
	静岡県立こども病院北4病棟 看護倫理カンファレンスにおける教育的支援	令和4年10月～令和5年3月	
山口みのり	第24回日本看護医療学会学術集会 教育講演座長	令和4年9月	
永谷幸子	看護学部附属看護実践センター センター研究員	令和4年4月～令和5年3月	
	静岡県立大学小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室主催講座「これからの女性の健康を考えよう」の企画運営分担	令和4年4月～令和4年8月	
	看護学部附属看護実践教育研究センター主催講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」の企画運営	令和4年4月～令和4年9月	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
中川有加	2023年度助産師国家試験全国統一模擬試験問題校閲	令和4年4月～令和5年3月	
永谷実穂	静岡県立大学小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室主催講演会「これからの女性の健康を考えようー生き生きとステキに年を重ねるためにー」	令和4年8月6日、20日	
	静岡県立大学小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室	令和4年9月・2月・3月に各1回開催	
	シニアメノポーズカウンセラーの活動として「メノマゼンタの会」を開催、一般更年期女性にプチ講座及び座談会 ZOOM で開催	令和4年11月より奇数月に1回開催	
成瀬早苗	「ふじのくに」みらい教育センター地域貢献事業「県大生と～予防医学で元気ハツラツ！～口腔体操と旬の食材でいつまでも健康に」	令和4年4月～7月	
	看護実践教育研究センター 地域貢献事業 イキイキと高齢期を過ごそう！	令和4年4月～9月	
鈴木千智	静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程乳がん看護概論 講師	令和4年8月22日	
濱井 妙子	静岡県 遠隔ビデオ医療通訳取り組みについての報告会	令和5年2月13日	Web
管原清子	看護学部附属看護実践教育研究センター センター研究員	令和3年4月～令和5年3月	
	静岡県立大学小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室主催講座「これからの女性の健康を考えよう」の企画運営分担	令和4年4月～令和4年8月	
	看護学部附属看護実践教育研究センター主催講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」の企画運営分担	令和4年4月～令和4年9月	
加藤京子	看護学部附属看護実践センター センター研究員	令和4年4月～令和5年3月	
前野真由美	6言語の終末期（もしものとき、エンディング）ケア「みせてお話し」ノート 静岡県立大学 公式サイトニュースに掲載	令和4年9月16日～	



氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
福島恭子	新生児蘇生法スキルアップコース主催	令和5年3月16日	
ヘムストック ウェンディ リアン	ボランティア活動：静岡市立御幸町図書館で 外国語読み聞かせ	令和4年7月・10 月・12月	
	ボランティア活動：プロギング静岡・静岡県 内のゴミ拾い	令和4年1月～	
中岡正昭	「令和4年度静岡市地域防災訓練」のため小 鹿3丁目自治会のAEDを使用した救命活動訓 練の指導を行った。	令和4年12月4日	
鈴木郁美	令和4年度静岡市地域防災訓練・救命活動訓 練指導	令和4年12月4日	
飯塚真樹	健康文化交流館『来・て・こ』・静岡県立大学 「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と 共催し、地域在住高齢者対象に、「県大生と熱 中症予防と体操で夏を乗り越えよう！」を 実施	令和4年4月～7月 21日	発展看護実 習の一環と しての取り 組み
	静岡県在住の成人以降の方を対象に「いきい きと高齢期を過ごそう！」を企画、実施しフ レイル 予防の教育活動を行なった。	令和4年9月23日	看護実践教 育研究セン ター 主催
大和田裕美	ハッピーパパマタニティ講座の企画・運営・ ファシリテーター	令和4年8月27 日、10月10日	NPO 法人 place of peace 共催
	マタニティ夫婦向けプログラム「もうすぐ赤 ちゃんがやってくる」の企画・運営	令和4年9月3日、 23日	NPO 法人 place of peace 共催
	ノーバディーズパーフェクトプログラム「見 つけよう！自分らしい子育て」の企画・運 営・ファシリテーター	令和5年2月20日 ～3月27日（全6 回）	静岡市・ NPO 法人 place of peace 共催
長屋和美	「透明人間」写真展実行委員会（医療的ケア 児等写真家と協働） 委員	令和4年9月～令和 4年12月	企画事業
池田麻左子	静岡県立大学看護学部付属 看護実践教研究 センター センター研究委員 特定行為研修 講義・演習	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	静岡市静岡中央子育て支援センター 子育て相談	令和4年8月23日	
	障がいのあること家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップ	令和4年10月1日～2日	
丸山始美	こどものACP向上委員会～こどものACP（アドバンスケアプランニング）のあり方について検討する会～、こどものACPに関する講義（60分）	令和4年4月～令和5年3月 （会議は3回/年開催）	5施設合同の有志の活動
	静岡県立大学 看護学部附属看護実践教育研究センター センター研究員	令和4年4月～令和5年3月	
	東海・北陸ブロック地域小児がん拠点病院事業 第22回中部小児がんトータルケア研究会一般演題の座長	令和4年10月29日	
	看護実践教育研究セミナー 2022 看護職のための看護研究セミナー1 看護研究の基礎	令和4年6月	準備・片付け等の支援
梁川明	看護実践教育研究セミナー 2022 看護職のための看護研究セミナー1 看護研究の基礎	令和4年6月	準備・片付け等の支援
	広島県ヘモフィリア友の会 サマーキャンプ 模擬手を使用した在宅自己注射指導	令和4年8月13～14日	
榊みのり	第67回日本透析医学会 一般演題 座長	令和4年7月3日	
近藤美保	小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室主催・健康講座 更年期のこころの健康について（講座と体験コーナー担当）	令和4年8月6日、20日	
栗田真由美	静岡難病ケア市民ネットワーク運営	令和2年4月～	
安藤継子	静岡市新任期研修アドバイザーとして協力	令和4年9月27日、令和5年3月6日	

## 11. 静岡県立大学新型コロナウイルスワクチン職域接種従事者

3回目接種（5月24日～5月26日）

中川有加	鈴木和香子	福島恭子	加納江理	鈴木郁美
宮澤典子	長屋和美	池田麻左子	丸山始美	安藤継子

## 12. 県民の日

「県民の日」事業の「夏休み県大ツアー」における看護学部の企画・担当に関して、当初、看護学部は在宅看護学領域が担当する予定で企画の準備をすすめていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で企画の規模が縮小化されたことに伴い、看護学部は2022年度の担当はしないことに決定した。

## 13. 高大連携による講師派遣

学校名	派遣教員	テーマ	学年	人数	派遣日
富士宮西	林みよ子	看護学入門	1～3	60	令和4年7月20日
藤枝西	荒井孝子	看護学部について	1, 2	66	令和4年6月27日
静岡サレジオ	藤田景子	静岡県立大学 出張講義	2	20	令和4年7月14日
三島北	山口みのり	看護学部で学ぶということ	1	25	令和4年9月26日
沼津西	永谷幸子	看護学の基礎	1, 2	49	令和4年9月29日
清水西	中川有加	身体と心のセクシュアリティ	1, 2	75	令和4年10月27日
伊東高校	鈴木和香子	静岡県立大学看護学部の紹介/小児看護学の模擬講義	2	55	令和4年10月25日
静岡東		模擬授業「感染予防」	1, 2	63	令和4年9月14日
清水南	管原清子	看護学部の紹介、高校時代にやるべきこと	2	25	令和4年10月3日

学校名	派遣教員	テーマ	学年	人数	派遣日
富士市立	加藤京子	バイタルサインの観察	2	48	令和4年7月15日
焼津中央	前野真由美	看護	1, 2	60	令和4年12月8日
静岡学園	福島恭子	対象に寄り添う看護師の仕事	1, 2	13	令和4年7月25日
浜松湖南	佐藤瑠美	看護学部での学び	2	40	令和4年10月6日
浜名	加納江理	静岡県立大学看護学部の紹介	2	70	
富士東	中岡正昭	現代社会に求められる看護と最先端の看護教育	1~3	32	令和4年7月27日
富士宮東	大和田裕美	女性と家族を支える母性看護学	1~3	11	令和4年7月27日
静岡城北	池田麻左子	看護師になるために今からできること	1~3	80	令和4年10月26日

## 14. 公開講座等の開催状況

### 令和4年度特別講義実施状況

	開催日	講義の名称	講師	参加者・人数
1	10/25 (金)	慢性期の健康問題や障害を抱えた家族への支援—神経難病療養者とその家族の体験	佐久間 勇人	教員、院生、学部生 126名
2	11/7 (月)	静岡県における新型コロナウイルス感染症への対応の現状	後藤 幹生 山本 愛	教員、院生、学部生 137名
3	12/5 (月)	モンゴルの保健医療の現状と課題	ムンケバートル・ホラン	教員、院生、学部生 45名
4	12/20 (火)	新型コロナウイルス感染症への対応	大曲 貴夫	教員、院生、学部生 97名
5	12/16 (金)	ケアの意味を見つける事例研究 ～計画から実施まで～	山本 則子	教員、院生、学部生 31名
6	12/14 (木)	スローエシックス	宮内 信治	教員、院生、学部生 17名
7	1/26 (金)	当事者・家族が望む精神科医療とは？	夏苺 郁子	教員、院生、学部生 135名
8	2/14 (火)	Start Up 質的研究	谷津 裕子	教員、院生、学部生 22名
9	2/17 (金)	看護学における人類学的視点	小林 宏光	教員、院生、学部生 21名
10	2/21 (金)	在宅医療の立場から見た特定看護師への期待	内田 貞輔	教員、院生、学部生 32名
11	2/24 (金)	加温と冷却による温熱的快適感について	松田 真由美	教員、院生、学部生 15名
12	2/28 (火)	根拠に基づく気管挿管患者の口腔ケア	佐藤 憲明	教員、院生、学部生 18名
13	3/7 (火)	SDGs とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ	齋藤 英子	教員、院生、学部生 12名
14	3/14 (火)	M-GTA で研究するという事	山崎 浩司	教員、院生、学部生 28名

## IX.看護学部附置看護実践教育研究センターの活動について

### 1. 設置の趣旨

本学は、中期計画に掲げる重点課題に積極的に取り組み、本県の地域医療における課題解決や県民の健康長寿を支える知の拠点として、地域に貢献することが求められている。

現在、厚生労働省では、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しており、全国の自治体で取組が進められている。

例として、本学が所在する静岡県静岡市の静岡型地域包括ケアシステムでは、住み慣れた自宅で人生の最期まで自分らしく暮らせるよう、静岡市の特徴である地域の「つながる力」を活かして健康寿命が長い「元気な高齢者」が活躍できるように、医療・介護の専門職の連携による支援の輪と、地域の市民の連携による支援の輪を構築し、この2つの支援の輪が連携して、本人・家族を支援する仕組みが推進されている。

### 2. センターの設立概要

#### （設立趣旨）

社会的要請に応えるべく地域包括医療を遂行するための有効なヘルスケアを実践し、医療機関・福祉機関・保健機関と地域との協働・連携を円滑に運営できる看護実践家を創出すること、ケアのパフォーマンスを向上させる教育・研究・開発を促進させ、その成果を地域や国内外へ還元することを目的として設置した。

#### 1) 看護実践家に対するリカレント教育と共同研究開発

厚生労働省が主導する「特定行為に係る看護師の研修制度」の指定研修機関として、「特定行為研修」を運営する。本制度は、「高度急性期から在宅医療まで、患者の状態に応じた適切な医療を、地域において効果的かつ効率的に提供する体制を整備し、患者ができるだけ早く社会に復帰し、地域で継続して生活を送れるようにする」ことを方向性とする「2025年に向けた医療提供体制の改革」の一環として創設されたものである。現在、特定行為として38行為が定められているが、本センターでは、その内の地域・在宅医療において患者ニーズに即応するために必要な行為に関する研修を実施する。

また、地域の医療・福祉・保健機関からの要請に従い、これまで個別に対応してきた看護学関連の講義・研究指導といったリカレント教育を本センターで開講する。

これらの教育研修を総合的にマネジメントし、かつ看護実践家と看護学部・看護学研究

科との共同研究開発を推進する役割を担う。

## 2) 看護学教育に関する情報の発信拠点

本センターにおいては、看護学部・看護学研究科で蓄積されている在宅看護学、公衆衛生看護学、基礎看護学、慢性看護学、急性期看護学、がん看護学、精神看護学、小児看護学、国際看護学、老年看護学、助産学の最新知見を活用し、本学の他学部・他研究科とともに学術的な連携をし、その成果を地域に発信・還元し、研究交流を活性化する拠点とする。

## 3) 看護学教育に関する国際交流の推進拠点

2018年から取り組むCOIL事業において、特に看護学部のある上智大学、ポートランド大学、ボストンカレッジとの教育研究交流を推進させるとともに、すでに国際看護実習を相互で実施しているタイ国コンケン大学等のアジア圏における教育プログラムの開発を推進し、国際交流の拠点とする。

### (組織体制)

組織体制は、以下のとおりとする。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター研究員
- (4) センター客員研究員
- (5) センター職員

## 3. センターの設置時期

令和2年12月1日

## 4. センターの運営

### 1) 組織体制の整備

看護学部教授会にて、当初センターの運営については特定行為研修指定機関申請を鑑み、以下の通りとなった。

- |            |                  |
|------------|------------------|
| (1) センター長  | 荒井 孝子 (教授 環境看護学) |
| (2) 副センター長 | 林 みよ子 (教授 成人看護学) |

- (3) センター研究員 田中 範佳 (教授 成人看護学)  
 富安 眞理 (教授 在宅看護学)  
 池田麻左子 (助教 小児看護学)  
 中岡 正昭 (助教 成人看護学)

以後、事業の展開に合わせてセンター研究員の承認を行うこととした。

#### 承認済の教員一覧

荒井 孝子	富安 眞理
林 みよ子	池田 麻左子
田中 範佳	中岡 正昭

#### 承認済の教員

看護学部				学部外
山下 早苗	杉山 真澄	加藤 京里	安藤 継子	森野智子 (短期大学部)
太田 尚子	鈴木 千智	佐藤 瑠美	飯塚 真樹	串田 修 (食品栄養科学部)
山田 紋子	中川 有加	管原 清子	膽畑 敦子	
井上 健一郎	永谷 幸子	鈴木 和香子	遠藤 りら	
畑中 純子	成瀬 早苗	永谷 実穂	大和田 裕美	
操 華子	藤田 景子	根岸 まゆみ	栗田 真由美	
	堀 芽久美	濱井 妙子	高木 静	
	山口 みのり	福島 恭子	丸山 始美	
			近藤 美保	
			日當 聡志	

## 5. 特定行為研修

### 1) 特定行為研修 指定研修機関の申請

令和2年11月17日付けで、保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令(平成27年厚生労働省令第33号)第6条の規定に基づき、指定研修機関の指定申請を行った。

### 2) 指定研修機関の指定

令和3年2月22日付け厚生労働省発医政0222第2号をもって、保健師助産師看護師法(昭和23年法律第203号)第37条の2第2項第5号に規定する指定研修機関として指定



された。また、保健師助産師看護師法第 37 条の 2 第 2 項第 1 号に規定する特定行為及び同項第 4 号に規定する特定行為研修に関する省令（平成 27 年厚生労働省令第 33 号）別表第 4 備考第 5 号に係る領域別パッケージ研修の実施について認定された。

#### 特定行為区分（6 区分）

呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連

ろう孔管理関連

創傷管理関連

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

感染に係る薬剤投与関連

血糖コントロールに係る薬剤投与関連

#### 領域別パッケージ研修（1 領域）

在宅・慢性期領域

### 3) 看護師特定行為研修 研修生の募集

別添（看護師特定行為研修の概要）参照。

### 4) 入講試験の実施

出願受付期間を令和 4 年 8 月 1 日（月）から 8 月 19 日（金）としたが出願がなかったため試験は実施しなかった。定員充足を目的として、5 名の定員内で、他指定研修機関での特定行為研修の修了者が区分研修を受講できるコースを設定し、二次募集を実施することとした。二次募集は、出願受付期間を令和 5 年 1 月 16 日（火）から 1 月 27 日（金）とし、令和 5 年 2 月 16 日（木）に入講試験を行った。事前相談のあった 5 名のうちの 4 名が受験（このうち 1 名は他指定研修機関で特定行為を終了した者）し、受験者全員が合格、令和 5 年 2 月 21 日（火）に合格発表を行った。

### 5) 看護師特定行為研修の実際

#### (1) 共通科目と区分別科目の研修

令和 4 年 4 月 1 日（金）に入講式を行い、研修オリエンテーションやガイダンスを実施し、早速共通科目及び独自科目の研修から開始した。研修は、E-ラーニングによる受講、web によるオンライン授業、オンデマンド授業の視聴等により順調に進み、7 月には対面による演習を行った。区分別科目については、在宅・慢性期領域パッケージ研修および選択科目であるインスリン投与量の調整について、共通科目同様に E-ラーニングによる受講、web によるオンライン授業および実技演習等を実施した。区分別科目においては特定行為に関する実技があるため、外部講師による胃ろうチューブの交換、気管カニューレの交換、デブリートメント、エコー機器の操作など具体的な行為について演習を実施した。選択科目の履修を終了したところで OSCE を実施し、合格に達したことを確認した。

## (2) 特定行為研修（外部施設における臨地研修）

10月より特定行為研修の臨地研修を開始した。研修生が所属しているあるいは研修協力が得られている施設を基本として研修を開始した。もともと症例不足が想定していたが、今年度は、脱水、血糖の調整、慢性創傷の処置に関する症例がなく、研修協力機関であるJA静岡厚生連清水厚生病院、JCHO桜ヶ丘病院、白萩病院にも依頼し、最終的には公益社団法人有隣厚生会富士病院に研修を受け入れていただいた。研修生は、業務の傍ら、自ら研修調整を行い、積極的な学習ができた。12月末に規定の症例数を研修することができ、研修の到達基準を満たしたため臨地研修を終了した。研修中は、メンターを担当する教員から適宜面談指導を受けながら、指定された学習、記録等に熱心に取り組んだ。医療安全上の問題もなかった。

## (3) 東海北陸厚生局への手続き

令和4年4月に担当教員の変更を含めた変更申請を行った。また、研修施設の変更・追加に伴い令和5年1月に変更申請を行った。令和5年1月20日の研修修了に伴い、修了の届出を実施した。以後、年度報告および令和5年4月のカリキュラムの追加、講師の変更および研修施設の追加に伴う変更申請を予定している。

## 6. その他センターの運営事業

### (1) 看護実践教育研究センター主催事業について

#### 【看護職のための看護研究セミナー1】

- 1) 看護研究の基礎（基礎編）第1回 講師：林みよ子教授

令和4年6月25日（土）9：00～17：00 受講者数：6名

- 2) 看護研究の基礎（基礎編）第2回 講師：操華子教授

令和4年12月17日（土）9：00～17：00 受講者数：17名

#### 【看護職のための看護研究セミナー2】

- 1) 看護研究における数値の読み方ー統計は怖くない！ー 講師：田中範佳教授・

堀芽久美准教授

令和5年2月20日（月）13：00～16：20

令和5年3月6日（月）13：00～17：30 受講者数：9名

本センターが主催する事業について、企画の承認が4月であったため、広報期間が十分にとれなかったこともあり、各実習施設等にも声かけを行った。看護研究指導に携わる指導的な立場の看護師の研修申し込みが多かった。いずれのコースにおいても熱心に受講され、複数回受講した看護師もいた。今年度の経験をもとに次年度計画の策定に活かしていきたい。

(2) 看護実践教育研究センター共催事業（地域貢献事業）について

1) 高齢者事業：「イキイキと高齢期を過ごそう！」

日時：令和4年9月23日（金）10：00～12：00

①目的：静岡市の住民がフレイル（身体的およびオーラルフレイル）について学ぶことで、将来の介護を予防する方法を理解できる。

②内容：フレイルチェック、体組成や口腔機能などを測定することで、参加者が自分の身体の状態を把握し、フレイルの早期発見・予防に活用できる。

③参加者数（定員20人）：28人（申込者数32人）

2) 更年期事業：「これからの女性の健康を考えようー生き生きとステキに年を重ねるためにー」

日時：第1回 令和4年8月6日（土）、第2回 8月20日（土）13:30-16:30

①目的：更年期以降の女性が、これからの健康を考える機会として自身の体の変化を知り、より自発的に健康管理を行っていくことができるようにする。

②内容：講義 更年期以降の身体の変化について、更年期以降のこころの健康について、更年期以降からのフレイル予防、健康に過ごすための生活習慣について

体験型内容 ・更年期症状を自己チェック、自律神経を安定するための方法

・アロマを利用しリラックスして生活する方法

・フレイルチェック

・生活習慣病の啓発

・セルフチェック、貧血チェック

③参加者数（定員30人）第1回 対面9人、オンライン6人

第2回 対面8人、オンライン3人

上記について、令和3年度事業を継続し、それぞれ事業を発展した企画を行った。募集や広報活動を早めに開始することを意識し、地域公民館、自治会等も含んだ周知活動を行った。また、COVID-19感染状況を鑑み、オンラインでの参加も可能とした。どの事業も参加者の評価は大変好評であり、また次年度も開催してほしいという要望が寄せられた。令和5年度事業企画にも反映していく予定である。

3) 各種共催講座・講演講座

【共催】

・静岡県助産師会写真展

期間：令和4年4月1日～28日

会場：静岡県立大学小鹿キャンパス 事務・図書館棟2階ギャラリー

・訪問看護リカレント研修会「学生の臨床判断力育成を支援する教育手法ー基礎編ー」

日時：令和4年8月27日（土）13：30～16：00

参加者：学内教員および学外から希望する看護師38人

- ・パートナーが妊娠期にある男性向けプログラム「ハッピーパパマタニティ講座」

日時：第1回 令和4年8月27日（土） 14：00～16：00  
 第2回 令和4年10月10日（月・祝） 9：30～11：30

会場：第1回 静岡県立大学小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室5  
 第2回 藤枝市生涯学習センター 和室

参加者：パートナーが妊娠期にある男性 計9名、妊婦 6名
  
- ・マタニティご夫婦向けプログラム「もうすぐ赤ちゃんがやってくる」

日時：第1回 令和4年9月3日（土） 10：00～12：00  
 第2回 令和4年9月23日（金・祝） 10：00～12：00

会場：第1回 静岡県立大学小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室5  
 第2回 まつのき農園（焼津市）

参加者：妊娠期から子育て期の夫婦 計14組28名
  
- ・ひよこママのサブリ講座

日時：第1回 令和4年9月20日（火） 10：00～11：00  
 第2回 令和4年9月22日（木） 10：00～11：00  
 第3回 令和4年9月27日（火） 10：00～11：00

会場：静岡県立大学小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室1、3

参加者：生後2～5ヶ月の第1子とその母親 計7組
  
- ・公開講義「母子の健康を支えるために必要な助産の力  
 ～助産師の専門性を発揮し、より活躍するためにSDGsの視点から考える～」

日時：令和4年12月10日（土） 10：00～12：00

講師：公益社団法人日本看護協会会長 福井トシ子氏

会場：静岡県立大学小鹿キャンパス 251教室、オンライン（Zoom）

参加者：助産学生、看護学生、助産師、看護師、保健師等 計30名
  
- ・新生児蘇生法スキルアップコース

日時：令和5年3月16日（木）9：30～12：30

会場：静岡県立大学小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室4

対象：令和5年10月にNCPR修了認定有効期限を迎える方  
 静岡市内の分娩取り扱い診療所・助産所の方 若干名

【後援】

- ・レボゾを使った妊産婦ケアの実際

日時：令和 5 年 2 月 18 日（土）13：00～17：00

会場：静岡県立大学小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室 5

対象：助産師、看護師、助産学生、周産期医療従事者等 20 名（予定）

・ Nobody's Perfect プログラム

「見つけよう！自分らしい子育て～完ぺきな親なんていない～」

日時：令和 5 年 2 月 20 日（月）、27 日（月）、

3 月 6 日（月）、13 日（月）、20 日（月）27 日（月）10：00～12：00

（全 6 回）

対象：0～3 歳までの子をもつ親 11 名

2) 次年度の事業開催準備について

令和 5 年度事業は、令和 4 年度までの実施状況を鑑みて企画・開催することとした。まず、令和 4 年度に実施し好評であった看護研究セミナーは、令和 5 年度も継続することとしたが、受講者アンケートの結果から、受講者が負担なく受講できるよう、内容を絞り、数回にわけて開催する企画とした。また、臨床看護師に必要とされる、看護管理者のためのキャリアアップセミナーと看護倫理セミナーを新たに企画することとした。高齢者事業および更年期事業についても、県民の日の大学の行事と抱き合わせ開催する企画を進める予定である。これらの事業活動の広報活動は、令和 5 年 4 月より順次実施する予定である。